

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクジン トウセイガクエン 学校法人 東成学園								
フリガナ大学の名称	ショウワカクガクダイク 昭和音楽大学（Showa University of Music）								
大学本部の位置	神奈川県川崎市麻生区上麻生1丁目11番1号								
大学の目的	昭和音楽大学は、教育基本法及び学校教育法にしたがい、広く知識を授けるとともに、音楽を中心としたさまざまな領域に関する技能、理論及び応用を深く教授研究し、もって広い視野と高い識見を持つ人材育成を行い、文化の向上と社会の福祉に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	音楽学部は、音楽を中心とする幅広い領域に関する技能、理論、知識、応用の修得を目的とした専門教育と、高い教養を培うための教育を実践し、広い視野と高い識見ならびに強い向上心の獲得によって専門分野に貢献し、文化・社会の発展に寄与する人材を育成する。 音楽芸術表現学科は、国際的な視野をもって幅広いジャンルの音楽作品を創造できる、または舞台等で実践的に活躍できる人材を育成するために専門教育を行う。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	音楽学部 [Faculty of Music]	年	人	年次人	人		年月 第 年次	神奈川県川崎市麻生区 上麻生1丁目11番1号	
	音楽芸術表現学科 [Department of Musical Arts]	4	175	35	770	学士（音楽）	平成29年4月 第1年次 平成31年4月 第3年次		
計		175	35	770					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	音楽学部 作曲学科（廃止）（△ 25） ※平成29年4月学生募集停止 器楽学科（廃止）（△100） ※平成29年4月学生募集停止 （3年次編入学定員）（△ 20） ※平成31年4月学生募集停止 声楽学科（廃止）（△ 50） ※平成29年4月学生募集停止 （3年次編入学定員）（△ 15） ※平成31年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	音楽学部 音楽芸術表現学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任	任教員等
	新設	音楽学部 音楽芸術表現学科	教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人	兼任 人
		計	20 (20)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	31 (31)	3 (3)	337 (337)
	既設	音楽学部 音楽芸術運営学科	8 (8)	3 (3)	5 (5)	1 (1)	17 (17)	2 (2)	439 (439)
		計	8 (8)	3 (3)	5 (5)	1 (1)	17 (17)	2 (2)	- (-)
合計		28 (28)	13 (13)	6 (6)	1 (1)	48 (48)	5 (5)	- (-)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	左記の他、授業補助を業務とする兼任職員 53名 (53名)				
	事 務 職 員		40 (40)	42 (42)	82 (82)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)	6 (6)	9 (9)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		43 (43)	48 (48)	91 (91)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	昭和音楽大学短期大学部と共用 (借用面積 848.46㎡(期間H12~H32)を含む)				
	校 舎 敷 地	0㎡	22,742.00㎡	0㎡	22,742.00㎡					
	運 動 場 用 地	0㎡	623.52㎡	0㎡	623.52㎡					
	小 計	0㎡	23,365.52㎡	0㎡	23,365.52㎡					
	そ の 他	0㎡	1,162.96㎡	0㎡	1,162.96㎡					
合 計		0㎡	24,528.48㎡	0㎡	24,528.48㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	昭和音楽大学短期大学部と共用				
		0㎡ (0㎡)	35,681.11㎡ (35,681.11㎡)	0㎡ (0㎡)	35,681.11㎡ (35,681.11㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部全体				
	37室	125室	169室	2室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		音楽学部	音楽芸術表現学科	31 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部全体		
	音楽学部 音楽芸術表現学科	123,496 [62,756] (118,525 [59,972])	39 [25] (39 [25])	1 [1] (1 [1])	60,392 (52,208)	81 (81)	0 (0)			
	計	123,496 [62,756] (118,525 [59,972])	39 [25] (39 [25])	1 [1] (1 [1])	60,392 (52,208)	81 (81)	0 (0)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部全体				
		1,597 ㎡	286	102,722						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部全体			
		— ㎡	該当なし							
経 費 の 見 積 及 び 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部全体
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	—千円	—千円	
		図書購入費	20,678千円	20,678千円	20,678千円	20,678千円	20,678千円	—千円	—千円	
	設備購入費	22,742千円	45,000千円	45,000千円	45,000千円	45,000千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む
	2,240千円	1,990千円	1,990千円	1,990千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			経常費等補助金、付随事業収入、受取利息・配当金 等							

既設大学等の状況	大学の名称	昭和音楽大学							神奈川県川崎市麻生区上麻生1丁目11番1号	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
		年	人	年次人	人		倍			
	音楽学部									
	作曲学科	4	25	—	100	学士(音楽)	0.51	昭和59年度		
	器楽学科	4	100	3年次20	440	学士(音楽)	1.41	昭和59年度		
	声楽学科	4	50	3年次15	230	学士(音楽)	0.79	昭和59年度		
	音楽芸術運営学科	4	100	3年次5	410	学士(芸術)	0.98	平成6年度		
	大学院音楽研究科									
	音楽芸術表現専攻(修士課程)	2	18	—	36	修士(音楽)	1.49	平成23年度		
音楽芸術運営専攻(修士課程)	2	6	—	12	修士(芸術)	0.74	平成10年度			
音楽芸術専攻(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(音楽) 博士(芸術) 博士(音楽療法)	1.16	平成26年度			
既設大学等の状況	大学の名称	昭和音楽大学短期大学部							神奈川県川崎市麻生区上麻生1丁目11番1号	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
		年	人	年次人	人		倍			
音楽科	2	100	—	200	短期大学士(音楽)(芸術)	0.92	昭和44年度			
附属施設の概要		該当なし								

教育課程等の概要														
(音楽学部音楽芸術表現学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	基礎ゼミ	1 通	2				○		4	10	1		2	兼24
	哲学	1 前		2			○							兼1
	文学	1 後		2			○							兼1
	西洋文化史Ⅰ	1 前		2			○		1	1				
	西洋文化史Ⅱ	1 後		2			○		1	1				
	日本文化史Ⅰ	1 前		2			○							兼1
	日本文化史Ⅱ	1 後		2			○							兼1
	美術史Ⅰ	1 前		2			○							兼1
	美術史Ⅱ	1 後		2			○							兼1
	心理学	1 前		2			○							兼1
	心の健康	1 後		2			○							兼1
	教育心理学	2 前		2			○							兼1
	日本国憲法	1 前・後		2			○		1					
	経済学	1 後		2			○							兼1
	生活と経済	1 前		2			○							兼1
	生涯学習概論Ⅰ	1 前		2			○							兼1
	ボランティア論	1 前		2			○							兼1
	演奏とからだⅠ	1 前		2			○							兼1
	演奏とからだⅡ	1 後		2			○				1			兼7
	音響学	1 前		2			○							兼1
	情報機器演習（基礎）	1 前・後		2				○						兼3
	情報機器演習（応用）Ⅰ	1 前・後		2				○						兼3
	情報機器演習（応用）Ⅱ	1 前・後		2				○						兼3
	博物館概論	1 前		2			○							兼1
	図書館概論	1 前		2			○							兼1
	キャリアデザイン	2 前		1			○							兼3
	芸術特別研究Ⅰ	1 通		1			○			1	3		2	兼12
	芸術特別研究Ⅱ	2 通		1			○			1	3		2	兼12
	音楽活動研究①	1 通		1				○		1				兼2
	音楽活動研究②	2 通		1				○		1				兼2
	音楽活動研究③	3 通		1				○		1				兼2
	音楽活動研究④	4 通		1				○		1				兼2
	体育理論	1 前・後		2			○							兼1
	体育実技	1 前・後		1					○					兼2
小計（34科目）	—		2	58	0		—		5	10	1	0	2	兼47

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目	基礎英語 I	1 通		2			○			1					兼10
	基礎英語 II	1 通		2			○			1					兼10
	初級英語 I	1 通		2			○			1					兼10
	初級英語 II	1 通		2			○			1					兼10
	初級英語 III	1 通		2			○			1					兼10
	初級英語 IV	1 通		2			○			1					兼10
	初級英語 V	1 通		2			○			1					兼10
	中級英語 I	1 通		2			○			1					兼10
	中級英語 II	1 通		2			○			1					兼10
	中級英語 III	1 通		2			○			1					兼10
	中級英語 IV	1 通		2			○			1					兼10
	中級英語 V	1 通		2			○			1					兼10
	上級英語 I	1 通		2			○			1					兼10
	上級英語 II	1 通		2			○			1					兼10
	上級英語 III	1 通		2			○			1					兼10
	上級英語 IV	1 通		2			○			1					兼10
	上級英語 V	1 通		2			○			1					兼10
	基礎ドイツ語	1 通		4			○								兼2
	初級ドイツ語	2 通		4			○								兼2
	中級ドイツ語 I	3 通		2			○								兼2
	中級ドイツ語 II	3 通		2			○								兼2
	上級ドイツ語	4 通		2			○								兼2
	基礎イタリア語	1 通		4			○			1					兼4
	初級イタリア語	2 通		4			○			1					兼4
	中級イタリア語 I	3 通		2			○			1					兼4
	中級イタリア語 II	3 通		2			○			1					兼4
	上級イタリア語	4 通		2			○			1					兼4
	基礎フランス語	1 通		4			○								兼3
	初級フランス語	2 通		4			○								兼3
	中級フランス語	3 通		2			○								兼3
	上級フランス語	4 通		2			○								兼3
小計 (31科目)		—	0	74	0		—		1	1	0	0	0	兼19	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	作曲・エレクトロニクス実技①	1通		6				○	2	2					兼3
	作曲・エレクトロニクス実技②	2通		6				○	2	2					兼3
	作曲・エレクトロニクス実技③	3通		6				○	2	2					兼3
	作曲・エレクトロニクス実技④	4通		6				○	2	2					兼3
	サウンドプロデュース①	1通		4				○		1					兼3
	サウンドプロデュース②	2通		4				○		1					兼3
	サウンドプロデュース③	3通		4				○		1					兼3
	サウンドプロデュース④	4通		4				○		1					兼3
	指揮実技①	1通		6				○							兼3
	指揮実技②	2通		6				○							兼3
	指揮実技③	3通		6				○							兼3
	指揮実技④	4通		6				○							兼3
	作曲Ⅱ①	1・3通		2				○	1	2					兼1
	作曲Ⅱ②	2・4通		2				○	1	2					兼1
	作曲Ⅱ③	3通		2				○	1	2					兼1
	作曲Ⅱ④	4通		2				○	1	2					兼1
	指揮演習①	1・3通		2				○	6	1	1				兼5 共同
	指揮演習②	2・4通		2				○	6	1	1				兼5 共同
	指揮演習③	3通		2				○	6	1	1				兼5 共同
	指揮演習④	4通		2				○	6	1	1				兼5 共同
	スコアリーディングⅠ①	1通		2				○	1						
	スコアリーディングⅠ②	2通		2				○							兼1
	スコアリーディングⅡ	3通		2				○							兼1
	対位法	3通		2				○		1					
	ミュージックセオリー(初級)	1通		2				○		1					
	ミュージックセオリー(中級)	1通		2				○	1						
	ミュージックセオリー(上級)	1通		2				○		1					
	オーケストレーション	3通		4			○			1					
	作曲・編曲法Ⅰ	3通		2				○							兼2
	作曲・編曲法Ⅱ	3・4通		2				○	1						兼1
	コンピュータ音楽概論	1・2通		4			○			1					兼1
	デジタルミュージック概論	2前		2			○			1					
	ポピュラー音楽概論	1・2通		4			○								兼1
	映像の音楽	2前		2			○								兼1
	サウンドデザイン演習	2通		2				○		1					
	グラフィックデザイン演習	3通		2				○							兼1
	音楽プログラミング演習	3通		2				○							兼1
	映像制作演習	4通		2				○							兼1
	音楽プロデュース論	3通		4			○								兼1
	スタジオワークス①	3・4通		4				○							兼1
	スタジオワークス②	4通		4				○							兼1
	ソングライティング演習①	1通		2				○							兼1
	ソングライティング演習②	2通		2				○							兼3
	PA演習	2後		2				○		1					
	録音制作Ⅰ	1・2前		2			○								兼1
録音制作Ⅱ	1・2後		2			○								兼1	
録音制作Ⅲ	2前・後、3前・後		2				○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	ピアノ実技Ⅰ①	1通		9				○	4	1					兼65
	ピアノ実技Ⅰ②	2通		9				○	4	1					兼65
	ピアノ実技Ⅰ③	3通		9				○	4	1					兼65
	ピアノ実技Ⅰ④	4通		9				○	4	1					兼65
	ピアノ実技Ⅱ①	1通		6				○	1						兼3
	ピアノ実技Ⅱ②	2通		6				○	1						兼3
	ピアノ実技Ⅱ③	3通		6				○	1						兼3
	ピアノ実技Ⅱ④	4通		6				○	1						兼3
	ピアノⅠ①	1通		6				○	4	1					兼65
	ピアノⅠ②	2通		6				○	4	1					兼65
	ピアノⅠ③	3通		6				○	4	1					兼65
	ピアノⅠ④	4通		6				○	4	1					兼65
	ピアノ①	1通		4				○	4	1					兼65
	ピアノ②	2通		4				○	4	1					兼65
	ピアノ③	3通		4				○	4	1					兼65
	ピアノ④	4通		4				○	4	1					兼65
	ピアノⅡ①	1通		2				○	4	1					兼65
	ピアノⅡ②	2通		2				○	4	1					兼65
	ピアノⅡ③	3通		2				○	4	1					兼65
	ピアノⅡ④	4通		2				○	4	1					兼65
	ピアノアンサンブル①	1通		2				○	1						兼1
	ピアノアンサンブル②	2通		2				○	1						兼1
	ピアノアンサンブル③	3通		2				○	3	1					兼12
	ピアノアンサンブル④	4通		2				○	3	1					兼12
	アンサンブルⅠ①	1通		2				○							兼1
	アンサンブルⅠ②	2通		2				○							兼1
	アンサンブルⅠ③	3通		2				○							兼1
	アンサンブルⅠ④	4通		2				○							兼1
	アンサンブルⅡ①	1通		2				○							兼1
	アンサンブルⅡ②	2通		2				○							兼1
	アンサンブルⅡ③	3通		2				○							兼1
	アンサンブルⅡ④	4通		2				○							兼1
	伴奏実習基礎	1通		2				○							兼1
	伴奏実習①	2通		1				○	2						兼1
	伴奏実習②	3通		1				○	2						兼1
	伴奏実習③	4通		1				○	2						兼1
	伴奏法Ⅰ①	1通		2				○							兼1
	伴奏法Ⅰ②	2通		2				○							兼1
	伴奏法Ⅱ	3通		2				○							兼5
	演奏会実習	3・4通		2				○	9	2	1				兼65
	演奏会実習Ⅰ	1通		4				○							兼1
	演奏会実習Ⅰ①	2通		2				○	5	1	1		1		兼2
	演奏会実習Ⅰ②	4通		2				○	5	1	1		1		兼2
	演奏会実習Ⅱ①	1通		4				○	5	1	1		1		兼3
	演奏会実習Ⅱ②	2通		4				○	5	1	1		1		兼3
	演奏会実習Ⅱ③	3通		4				○	5	1	1		1		兼3
演奏会実習Ⅱ④	4通		4				○	5	1	1		1		兼3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	演奏会実習Ⅲ	1通		4				○								兼1	
	演奏分析	1通		2			○									兼1	
	演奏解釈	2通		4			○			3	2					兼3	
	メディア創作演習①	1通		2				○								兼1	
	メディア創作演習②	2通		2				○								兼1	
	メディア創作演習③	3通		2				○								兼1	
	メディア創作演習④	4通		2				○								兼1	
	インターンシップ	4通		2				○		1						兼1	
	指導教材研究	3前・後		2			○									兼2	
	指導者基礎Ⅰ	1通		2				○								兼1	
	指導者基礎Ⅱ	2通		2				○		1						兼1	
	児童心理	2前		2			○									兼1	
	卒業演奏	4通		4					○							兼1	
	卒業論文	4通		4					○	3	1					兼3	
	オルガンⅠ①	1通		6					○							兼1	
	オルガンⅠ②	2通		6					○							兼1	
	オルガンⅠ③	3通		6					○							兼1	
	オルガンⅠ④	4通		6					○							兼1	
	オルガンⅡ①	1通		2					○							兼1	
	オルガンⅡ②	2通		2					○							兼1	
	オルガンⅡ③	3通		2					○							兼1	
	オルガンⅡ④	4通		2					○							兼1	
	電子オルガンⅠ①	1通		6					○		1					兼12	
	電子オルガンⅠ②	2通		6					○		1					兼12	
	電子オルガンⅠ③	3通		6					○		1					兼12	
	電子オルガンⅠ④	4通		6					○		1					兼12	
	電子オルガンⅡ①	1通		2					○		1					兼12	
	電子オルガンⅡ②	2通		2					○		1					兼12	
	電子オルガンⅡ③	3通		2					○		1					兼12	
	電子オルガンⅡ④	4通		2					○		1					兼12	
	電子オルガンアンサンブル①	1通		2					○							兼2	オムニバス
	電子オルガンアンサンブル②	2通		2					○							兼2	オムニバス
	電子オルガンアンサンブル③	3通		2					○							兼2	オムニバス
	電子オルガンアンサンブル④	4通		2					○							兼2	オムニバス
	電子オルガン演習①	1通		2					○		1					兼3	
	電子オルガン演習②	2通		2					○		1					兼3	
	電子オルガン演習③	3通		2					○		1					兼3	
	電子オルガン演習④	4通		2					○		1					兼3	
	電子楽器研究	2前		2			○				1						
	リトミック①	1通		2					○							兼1	
	リトミック②	2通		2					○							兼1	
	ピアノ指導法研究	3通		4			○									兼1	
	ピアノ指導法特論	3通		4			○			3	2					兼5	
	バレエ音楽演習	1通		2					○							兼2	
	鍵盤演奏表現Ⅰ	1通		2					○		1					兼5	
鍵盤演奏表現Ⅱ	3通		2					○		1					兼1		
鍵盤演奏表現Ⅲ	2通		2					○		1							
鍵盤演奏表現Ⅳ	2通		2					○							兼1		
海外研修Ⅰ	1・3通		3					○		4					兼5		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	海外研修Ⅱ	2通		3				○		4					兼5		
	海外研修Ⅳ	2通		3				○		4					兼5		
	海外研修Ⅴ	1・3通		3				○		4					兼5		
	海外研修Ⅵ	1通		1				○							兼1		
	海外研修Ⅶ	1通		2				○							兼1		
	海外研修Ⅷ	1通		1				○							兼1		
	海外研修Ⅸ	2通		1				○							兼1		
	海外研修Ⅹ	2通		1				○							兼1		
	海外研修Ⅺ	2通		1				○							兼1		
	海外研修Ⅻ	2通		2				○							兼1		
	海外研修ⅩⅢ	3通		2				○							兼1		
	海外研修ⅩⅣ	3通		2				○							兼1		
	器楽実技Ⅰ①	1通		6					○	5	1	1				兼65	
	器楽実技Ⅰ②	2通		6					○	5	1	1				兼65	
	器楽実技Ⅰ③	3通		6					○	5	1	1				兼65	
	器楽実技Ⅰ④	4通		6					○	5	1	1				兼65	
	器楽実技Ⅱ①	1通		3					○	5	1	1				兼65	
	器楽実技Ⅱ②	2通		3					○	5	1	1				兼65	
	器楽実技Ⅱ③	3通		3					○	5	1	1				兼65	
	器楽実技Ⅱ④	4通		3					○	5	1	1				兼65	
	器楽実技Ⅲ①	1通		6					○	5	1	1				兼65	
	器楽実技Ⅲ②	2通		6					○	5	1	1				兼65	
	器楽実技Ⅲ③	3通		6					○	5	1	1				兼65	
	器楽実技Ⅲ④	4通		6					○	5	1	1				兼65	
	器楽Ⅰ①	1通		6					○	5	1	1				兼65	
	器楽Ⅰ②	2通		6					○	5	1	1				兼65	
	器楽Ⅰ③	3通		6					○	5	1	1				兼65	
	器楽Ⅰ④	4通		6					○	5	1	1				兼65	
	器楽Ⅱ①	1通		2					○	5	1	1				兼65	
	器楽Ⅱ②	2通		2					○	5	1	1				兼65	
	器楽Ⅱ③	3通		2					○	5	1	1				兼65	
	器楽Ⅱ④	4通		2					○	5	1	1				兼65	
	ヴァイオリンステップアップ①	1通		2					○							兼2	
	ヴァイオリンステップアップ②	2通		2					○							兼2	
	ヴァイオリンステップアップ③	3通		2					○							兼2	
	ヴァイオリンステップアップ④	4通		2					○							兼2	
	合奏Ⅰ①	1通		4					○	5	1	1		1		兼9	共同
	合奏Ⅰ②	2通		4					○	5	1	1		1		兼6	共同
	合奏Ⅰ③	3通		4					○	5	1	1		1		兼6	共同
	合奏Ⅰ④	4通		4					○	5	1	1		1		兼6	共同
	合奏Ⅱ	3通		2					○							兼2	
	合奏Ⅲ①	1通		2					○	5	1	1		1		兼5	共同
合奏Ⅲ②	2通		2					○	5	1	1		1		兼5	共同	
合奏Ⅲ③	3通		2					○	5	1	1		1		兼5	共同	
合奏Ⅲ④	4通		2					○	5	1	1		1		兼5	共同	
合奏Ⅳ①	1通		2					○	5	1	1		1		兼5	共同	
合奏Ⅳ②	2通		2					○	5	1	1		1		兼5	共同	
合奏Ⅳ③	3通		2					○	5	1	1		1		兼5	共同	
合奏Ⅳ④	4通		2					○	5	1	1		1		兼5	共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	室内楽Ⅰ①	1・2通		2			○		5		1		1	兼9
	室内楽Ⅰ②	2・3通		2			○		5		1		1	兼9
	室内楽Ⅱ①	3通		2			○		6		1		1	兼10
	室内楽Ⅱ②	4通		2			○		6		1		1	兼10
	室内楽実習Ⅰ①	1通		2				○	5		1		1	兼10
	室内楽実習Ⅰ②	2通		2				○	5		1		1	兼10
	室内楽実習Ⅰ③	3通		2				○	5		1		1	兼10
	室内楽実習Ⅰ④	4通		2				○	5		1		1	兼10
	コンチェルト実習	4通		2				○	5	1	1		1	兼1
	コンチェルト実習Ⅰ	4通		2				○	5	1	1		1	兼1
	コンチェルト実習Ⅱ	2通		2				○	5	1	1		1	兼1
	楽器研究	1前		2			○						1	兼1
	指揮法Ⅱ①	3通		2				○						兼1
	指揮法Ⅱ②	4通		2				○						兼1
	声楽Ⅰ①	1通		6				○	4	2				兼24
	声楽Ⅰ②	2通		6				○	4	2				兼24
	声楽Ⅰ③	3通		6				○	4	2				兼24
	声楽Ⅰ④	4通		6				○	4	2				兼24
	声楽Ⅱ①	1通		2				○	4	2				兼24
	声楽Ⅱ②	2通		2				○	4	2				兼24
	声楽Ⅱ③	3通		2				○	4	2				兼24
	声楽Ⅱ④	4通		2				○	4	2				兼24
	声楽アンサンブル基礎	2前		1				○						兼1
	ドイツ歌曲①	2前		1				○						兼1
	ドイツ歌曲②	3後		1				○						兼1
	日本歌曲①	3後		1				○						兼1
	日本歌曲②	4前		1				○						兼1
	フランス歌曲①	2後		1				○						兼1
	フランス歌曲②	3前		1				○						兼1
	歌うためのイタリア語	1通		2				○	1					
	合唱①	1通		2				○						兼3
	合唱②	2通		2				○						兼3
	合唱③	3通		2				○						兼3
	合唱④	4通		2				○						兼3
	合唱指導法①	1通		2				○						兼1
	合唱指導法②	2通		2				○						兼1
	合唱指導法演習	3通		2				○						兼1
	オペラ演習Ⅰ①	1通		2				○					1	兼1
	オペラ演習Ⅰ②	2通		2				○					1	兼1
	オペラ演習Ⅰ③	3通		4				○		1			1	兼4 共同
	オペラ演習Ⅰ④	4通		2				○	1				1	兼2 共同
	オペラ演習Ⅱ	4通		2				○	1				1	兼2 共同
	オペラ公演実習	4通		4				○	1				1	兼2 共同
	指揮法Ⅰ	3通		2				○						兼2
	パフォーマンス①	1通		1				○					1	兼1 集中
パフォーマンス②	2通		1				○					1	兼1 集中	
パフォーマンス③	3通		1				○					1	兼1 集中	
パフォーマンス④	4通		1				○					1	兼1 集中	
舞台表現演習①	1後		1				○	1				1	兼2 集中	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	舞台表現演習②	2 後		1			○		1				1	兼2	集中
	舞台表現演習③	3 後		1			○		1				1	兼2	集中
	ジャズ実技 I ①	1 通		6				○	1					兼13	
	ジャズ実技 I ②	2 通		6				○	1					兼13	
	ジャズ実技 I ③	3 通		6				○	1					兼13	
	ジャズ実技 I ④	4 通		6				○	1					兼13	
	ジャズアンサンブル I ①	1 通		2				○	1				1	兼12	
	ジャズアンサンブル I ②	2 通		2				○	1				1	兼12	
	ジャズアンサンブル I ③	3 通		2				○	1				1	兼12	
	ジャズアンサンブル I ④	4 通		2				○	1				1	兼12	
	ジャズアンサンブル II ①	1 通		2				○	1				1	兼3	
	ジャズアンサンブル II ②	2 通		2				○	1				1	兼3	
	ジャズアンサンブル II ③	3 通		2				○	1				1	兼3	
	ジャズアンサンブル II ④	4 通		2				○	1				1	兼3	
	ジャズ演奏法①	1 通		2				○	1					兼8	
	ジャズ演奏法②	2 通		2				○	1					兼8	
	ジャズ演奏法③	3 通		2				○	1					兼8	
	ジャズ演奏法④	4 通		2				○	1					兼8	
	ジャズコンポジション①	2 通		4			○							兼1	
	ジャズコンポジション②	3 通		4			○							兼1	
	ポピュラー実技 I ①	1・3 通		6					○		1			兼30	
	ポピュラー実技 I ②	2・4 通		6					○		1			兼30	
	ポピュラー実技 I ③	3 通		6					○		1			兼30	
	ポピュラー実技 I ④	4 通		6					○		1			兼30	
	ポピュラーアンサンブル①	1・3 通		2				○		1			1	兼6	
	ポピュラーアンサンブル②	2・4 通		2				○		1			1	兼6	
	ポピュラーアンサンブル③	3 通		4				○		1			1	兼6	
	ポピュラーアンサンブル④	4 通		4				○		1			1	兼6	
	ポピュラー作曲・編曲法①	1・2 通		4			○							兼4	
	ポピュラー作曲・編曲法②	2・3 通		4			○							兼4	
	ポピュラー作曲・編曲法③	3 通		4			○							兼4	
	ポピュラー作曲・編曲法④	4 通		4			○							兼4	
	ポピュラー演奏法①	1 通		2				○			1			兼15	
	ポピュラー演奏法②	2 通		2				○			1			兼15	
	ポピュラー演奏法③	3 通		2				○			1			兼15	
	ポピュラー演奏法④	4 通		2				○			1			兼15	
	ポピュラー・ジャズピアノ II ①	1 通		2					○	1				兼5	
	ポピュラー・ジャズピアノ II ②	2 通		2					○	1				兼5	
	ポピュラー・ジャズピアノ II ③	3 通		2					○	1				兼5	
	ポピュラー・ジャズピアノ II ④	4 通		2					○	1				兼5	
	インストゥルメンツ II ①	1・3 通		2					○		1			兼22	
	インストゥルメンツ II ②	2・4 通		2					○		1			兼22	
	ポピュラーヴォーカル II ①	1 通		2					○					兼9	
	ポピュラーヴォーカル II ②	2 通		2					○					兼9	
	サウンドクリエイト①	1 通		4			○							兼1	
サウンドクリエイト②	2 通		4			○							兼1		
ライブ実習 I ①	2 前		1					○		1			兼1	集中	
ライブ実習 I ②	3 前		1					○		1			兼1	集中	
ライブ実習 II ①	2 後		1					○		1			兼1	集中	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	ライブ実習Ⅱ②	3 後		1				○		1					兼1	集中
	コードプログレッション (ベーシック)	1 通		4			○								兼3	
	コードプログレッション (アドバンス)	1 通		4			○								兼3	
	イヤートレーニング	1 前・後		2				○							兼1	
	リズムトレーニング	1 前・後		1				○							兼1	
	スタジオレコーディング①	2 前・後		1				○							兼3	集中
	スタジオレコーディング②	3 前・後		1				○							兼2	集中
	ダンス	1 通		2				○							兼1	
	ジャズの歴史と作品	1 前		2			○			1						
	卒業ライブ	4 後		1					○		1				兼1	集中
	基本ソルフェージュ①	1 通		2					○						兼10	
	基本ソルフェージュ②	2 通		2					○						兼10	
	基本ソルフェージュ③	3 通		2					○						兼10	
	聴音・視唱ソルフェージュ①	1 通		2					○	1	2				兼7	
	聴音・視唱ソルフェージュ②	2 通		2					○	1	2				兼7	
	聴音・視唱ソルフェージュ③	3 通		2					○	1	2				兼7	
	鍵盤ソルフェージュ①	1 通		2					○		2				兼6	
	鍵盤ソルフェージュ②	2 通		2					○		2				兼6	
	鍵盤ソルフェージュ③	3 通		2					○		2				兼6	
	総合ソルフェージュ①	1 通		2					○						兼4	
	総合ソルフェージュ②	2 通		2					○						兼4	
	総合ソルフェージュ③	3 通		2					○						兼4	
	ハーモニー演習①	1 通		2					○	2	1				兼4	
	ハーモニー演習②	2 通		2					○	2	1				兼4	
	ハーモニー演習③	3 通		2					○	1					兼1	
	音楽基礎演習	1 通		2					○		1				兼4	
	西洋音楽史Ⅰ	1 通		4				○		1	1				兼4	
	西洋音楽史Ⅱ	2 前・後		2				○		1	1				兼4	
	楽式論Ⅰ	1・2 前		2				○		1					兼1	
	楽式論Ⅱ	1・2 後		2				○		1					兼1	
	ポリフォニー演習	1・2・3 通		2					○		1				兼1	
	管弦楽概論	2 通		4				○							兼1	
	音楽美学	3 通		4				○		1	1					
	オペラの歴史と作品	2 通		4				○		1						
	鍵盤音楽の歴史と作品	1 通		4				○							兼3	
	器楽の歴史と作品	2 通		4				○		1	1				兼1	
	日本音楽概論Ⅰ	2 前		2				○							兼1	
	日本音楽概論Ⅱ	2 後		2				○							兼1	
	民族音楽概論Ⅰ	2 前		2				○							兼1	
	民族音楽概論Ⅱ	2 後		2				○							兼1	
	音楽情報論	3 通		4				○							兼1	
	ミュージックビジネスと社会	1 前		2				○							兼1	
ライブビジネスと社会	1 後		2				○							兼1		
演劇の歴史と作品	2 前		2				○							兼1		
アートマネジメント概論Ⅰ	1 前		2				○							兼2		
アートマネジメント概論Ⅱ	1 後		2				○							兼1		
経営学Ⅰ	2 前		2				○							兼1		
経営学Ⅱ	3 前		2				○							兼1		
芸術関係法規	2 後		2				○							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	芸術文化と社会Ⅱ	2 後		2		○										兼3
	芸術文化環境論	2 通		4		○										兼1
	文化政策論Ⅰ	3 前		2		○										兼2
	文化政策論Ⅱ	3 後		2		○										兼1
	簿記・会計入門	1 通		4		○										兼1
	舞台芸術概論	1 通		4		○										兼1
	ステージマネージャー演習①	2 後		1			○									兼1
	ステージマネージャー演習②	3 後		1			○									兼1
	ステージマネージャー演習③	4 後		1			○									兼1
	舞台機構調整演習	3 前		2			○									兼1
	舞台スタッフ論①	1 前		2		○										兼1
	舞台スタッフ論②	1 後		2		○										兼1
	舞台制作概論	1 前		2		○										兼1
	環境音楽論Ⅰ	3 前		2		○										兼1
	環境音楽論Ⅱ	3 後		2		○										兼1
	音楽心理学	2 後		2		○										兼1
	音楽療法概説	1 前		2		○										兼1
	社会福祉概論	2 前		2		○										兼1
	介護概論	2 後		2		○										兼1
	障がい児教育概論	1 後		2		○										兼1
	医学概論	2 前		2		○										兼1
	発達心理学	1 前		2		○										兼1
	日本古典芸能Ⅰ	1 前		1			○									兼1
	日本古典芸能Ⅱ	1 後		1			○									兼1
	日本古典芸能Ⅲ	2 前		1			○									兼1
	ミュージカルの歴史と作品	2 後		2		○										兼1
	舞踊の歴史と作品	2 通		4		○										兼1
	看護学演習	3 後		1			○									兼2 集中
	日本伝統音楽演習Ⅰ	3 前・後		1			○									兼5 共同
	日本伝統音楽演習Ⅱ	3 前・後		1			○									兼5 共同
	フィールドインターンシップ①	3 通		2			○									兼2
	フィールドインターンシップ②	4 通		2			○									兼2
小計 (371科目)		—	0	1039	0	—			19	9	1	0	3	兼294	—	
合計 (436科目)		—	2	1171	0	—			20	10	1	0	3	兼337	—	
学位又は称号	学士 (音楽)	学位又は学科の分野				音楽										
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
教養科目から12単位以上、外国語科目から8単位以上、専門科目から44単位以上を含み124単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限：48単位(年間)) なおコースごとの卒業要件は下表の通り。								1 学年の学期区分		2 学期						
								1 学期の授業期間		15 週						
								1 時限の授業時間		90 分						
コース名	教養科目	外国語科目	専門科目	合計												
作曲・音楽デザイン	12単位以上	8単位以上	48単位以上	124単位以上												
サウンドプロデューサー			66単位以上													
指揮			64単位以上													
ピアノミュージッククリエイター			50単位以上													
ピアノ指導者			64単位以上													
ピアノ演奏家Ⅰ			68単位以上													
ピアノ演奏家Ⅱ			53単位以上													
オルガン			44単位以上													
電子オルガン			58単位以上													
弦・管・打楽器			56単位以上													
ウインドシンフォニー			64単位以上													
弦・管・打楽器演奏家Ⅰ			64単位以上													
弦・管・打楽器演奏家Ⅱ			66単位以上													
ジャズ			66単位以上													
ポピュラー音楽			64単位以上													
声楽			71単位以上													

授 業 科 目 の 概 要			
(音楽学部音楽芸術表現学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	基礎ゼミ	初年次の導入教育として「大学における学び」のためのスタートアップを行う。具体的には(1)学びの環境を知る(建学の精神、カリキュラム、大学内の施設、設備等)、(2)大学で学ぶこととその意味を考える(大学での学ぶ内容とその意味、本学の特徴的な科目等)、(3)主体的に学ぶために必要な基本的なスキルを修得する(図書館の活用、情報モラルとリスクマネジメント等)、(4)キャリアデザインを描く(学修ポートフォリオ)、(5)コミュニケーション・スキルを学ぶ(グループワークによる情報の収集・整理、プレゼンテーション、ディスカッション)などである。	
教養科目	哲学	哲学の基本的な考え方とその歴史的な展開、及び現代的な意義について理解する。フランスの現代哲学(例えば実存主義、構造主義など)を中心とするが、その理論だけでなく、具体的な意味を例(例えば、人間にとって狂気がどのような意味をもつか、人間の欲望をどう理解したらよいか、民主主義は現代社会で有効なのかどうか、など)を通して考えることによって、学修者はその基本的な考えを理解する。それとともに、自分の考えを他の学修者に発表し、相互にディスカッションする力を修得する。	
教養科目	文学	近代日本の主な詩人の作品を読んで、近代詩から現代詩までの流れをたどる。更に詩と音楽の関係について理解を深める。詩作品だけでなく歌曲も取り上げて、詩と詩人の独自性を探究することで、「日本歌曲」発声の流れと特徴を修得する。近代の詩(詞)には現代では難解になってしまったものもあるが、理解を深めると美しい日本語と豊かな情感にふれることができる。また、簡単な創作・発表をすることで、詩と音楽に関する具体的な実感が得られる。	
教養科目	西洋文化史Ⅰ	ヨーロッパとは何か。人々はどうのような世界観や人間観を持って芸術の伝統を生み出してきたのか。本科目は、こうした問題意識にもとづいて、ヨーロッパの多層的な社会や芸術文化の基層となった精神の文化について学修する。本科目は西洋文化史Ⅱと内容においてセットになっており、本科目が西欧文化の背景(ヨコの視点)を扱い、西洋文化史Ⅱが西欧史の流れに沿った文化の変遷(タテの視点)を扱うという関係になっている。	
教養科目	西洋文化史Ⅱ	ヨーロッパとは何か。人々はどうのような世界観や人間観を持って芸術の伝統を生み出してきたのか。本科目は、こうした問題意識にもとづいて、ヨーロッパ社会の歴史と文化、とりわけ音楽文化の関わりについて学修する。本科目は西洋文化史Ⅰと内容においてセットになっており、本科目が西欧史の流れに沿った文化の変遷(タテの視点)を扱い、西洋文化史Ⅰが西欧文化の背景(ヨコの視点)を扱うという関係になっている。	
教養科目	日本文化史Ⅰ	現代に生きる私たちにとって、日本文化についての正しい知識は、異文化に生きる人々との交流を深めるうえで極めて重要なツールである。また芸術家にとっても、新たな芸術の領野を切り拓く可能性を大いに秘めた魅力的な源泉となる。本科目は日本文化・芸能史の流れを辿りながら、日本文化を哲学・宗教という観点から読み解く。具体的には雅楽、能、いけばな、茶道、歌舞伎を取り上げ、起源及び成立経緯を概観した上で、その基底に流れる日本人の世界観、人間観、死生観について概説する。	
教養科目	日本文化史Ⅱ	現代に生きる私たちにとって、日本文化についての正しい知識は、異文化に生きる人々との交流を深めるうえで極めて重要なツールである。また芸術家にとっても、新たな芸術の領野を切り拓く可能性を大いに秘めた魅力的な源泉となる。本科目は日本の伝統芸能と神話の関係や日本文化論を概括し、日本人の世界観、人間観、死生観から日本の伝統文化を理解する。具体的には記紀神話、相撲、神楽などを取り上げる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	美術史 I	西洋美術史を、古代ギリシャから19世紀中頃まで概観する。音楽史との連関、日本との交流に触れつつ、西洋文化が私たちにもたらしたものを考える。これにより、西洋文化の本質、各時代の成果を、美術を通して理解することができるようになる。また各学生が、美術作品を言葉でとらえる努力をすることにより、音楽を含む芸術に対する自分なりの言葉をつかむ。美術が知識として得られるのではなく、音楽活動をしていくうえで、拠り所になる。	
教養科目	美術史 II	西洋美術史を、印象派から現代まで概観することによって、近代文化の全体的な把握を目指す。それぞれの芸術家の成果、音楽史との連関、日本との交流の3点に触れつつ、現代日本の私たちの立ち位置を確認する。これにより、近代という時代の本質、各時期の重要な文化的側面を通して理解することができるようになる。また各学生が、美術作品を言葉でとらえる努力をすることにより、音楽を含む芸術に対する自分なりの言葉をつかむ。美術が知識として得られるのではなく、音楽活動をしていくうえで、拠り所になる。	
教養科目	心理学	心理学は、目に見えない心を多角的に科学し、私たちの生活のあらゆるところにヒントを与えてくれる。その理論背景には、哲学、脳科学、社会学、経済学など様々な学問があり、それぞれに独自の見方を提示している。本科目では、記憶、学習、認知、感情といった心のあらゆる機能を理解し、社会的関係の中の人間や学び、前進する人間の心のあり様を見つめる。	
教養科目	心の健康	科学の目覚ましい進歩によって、日常生活が益々便利になる一方、人間は心の健康を保つことが非常に難しい時代であると言われる。本科目では、まず人間の発達や適応の理論について知り、更に各発達段階において生じる心の問題や対人関係の問題及びストレスについて学ぶ。これらを通して最終的に、健康な心を保つためには「日常生活の問題をどのように考え、如何に対処すればよいのか、自分を理解し適応していくためにはどのようにすればよいのか」について考え理解することができる。	
教養科目	教育心理学	教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。本科目では、主に「発達」と「学習」を取り上げる。「発達」では、発達の原理や乳児から青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。「学習」では、学習の意味、原理、支援について学ぶ。児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導ができるようになることを目指す。発達の原理や「ひと」の心身の発達過程についての知識、また学習の意味や学習の原理への知識を身につけ、児童生徒への効果的な学習を促す指導に活かすことができるようになる。	
教養科目	日本国憲法	立憲主義と民主主義の本質を理解し、主権者としての自覚を涵養する。本科目は、第1に憲法制定までの歴史的な経緯(近代憲法制定の思想的背景、明治憲法の評価、現憲法制定の経緯)を解説し、第2に憲法の基本原理である国民民主主義、基本的人権の尊重、平和主義の理解を深め、憲法諸規定を概観する。第3にわが国の政治・社会と憲法のかかわりについての認識を深め、将来の音楽文化の担い手に必要な政治と音楽のかかわりについて触れる。	
教養科目	経済学	本科目は、本格的に経済学を学び、理解することを目標とする。現代の経済学の基礎となっているアダム・スミス、マルクス(価値論、蓄積論)、新古典派(無差別曲線、予算制約線)、ケインズ(有効需要の原理、45度線の分析、乗数効果)の学説を、それぞれの時代背景に沿って学修する。これにより経済学の基礎理論を身につけることができる。また、マネジメントのための経済学の知識を得ることができる。	
教養科目	生活と経済	本科目は、音楽を専攻する学生が身につけておきたい経済についての教養を修得する。こんにちではピケティの『21世紀の資本』が話題になるほどに、少数者への富の集中が人々の関心を集めている。授業では身近な事柄を経済と関連付けて理解することから、経済の全体像をつかむ。これにより履修者は自ら今の経済の問題について考え、判断できるようになり、経済のニュースを理解できるようになる。また、学修した内容を今後の生活に活かすことができる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	生涯学習概論 I	現代社会において、「生涯学習」という概念は子どもから高齢者に至る様々な人々の生活課題や学習ニーズを充足するうえで鍵となる概念である。本科目では、生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に係る制度、行政、施策、更に家庭教育、学校教育、社会教育との相互関連性を理解し、その学習支援者としての役割について学ぶ。これにより、学校教育以外の場で展開されている学習活動の意味を理解し、学習者のニーズに即した適切な支援ができるようになる。	
教養科目	ボランティア論	ボランティアの意義と方法を理解し、自らが主体的に活動実践できるようになることを目標とする。ボランティアに関する概念や思想及び歴史的展開、活動分野ごとに、その意義と役割や現代社会における課題、自己と他者にとって有意義なボランティア活動に必要な能力について学修する。以上により、ボランティア活動を実践するために必要な姿勢や能力を身につけ発揮できるようになる。	
教養科目	演奏とからだ I	演奏することと私たちの身体は深く関わっている。音楽は身体そのものが楽器であり、管楽器、弦楽器、鍵盤楽器などの演奏には身体の機能を使う。良い演奏をするためには、各人が身体の持つ機能を知り、自分の身体の悪い癖や不必要な緊張のない自然な奏法を見つけていくことが重要である。この授業は舞台、音楽に関わることを目指す人が理解しておくべき身体の仕組みと各部位の働き、そして呼吸についての基礎知識を得ることを目標とする。	
教養科目	演奏とからだ II	演奏とからだ I で修得した基礎的な事項を踏まえて、鍵盤楽器、音楽、管楽器、ジャズ・ポピュラー音楽の各専門領域における実践的な事項を学ぶ。また、アレクサンダー・テクニークの考え方も取り入れる。これにより履修者は演奏活動におけるより効率的なからだの使い方を修得する。また、他の専門に関する知識を学修する。	
教養科目	音響学	音響学の基礎を学ぶことにより、楽器演奏、音楽の制作現場など、音に関連したさまざまな活動の場で音響に関する知識を活かすことができるようになることを目標とする。楽器の代表例の一つであるピアノを題材に、音の波形、音の高さ、音色について学ぶことにより、物理現象としての音に対する理解を深める。ピアノの構造や歴史的な変遷、ピアノ以外の楽器の発音原理、音階や音律に関する基本事項、音の分析方法、音の収録や再生の入門的内容についても学ぶ。	
教養科目	情報機器演習(基礎)	パソコンを操作する技術は社会に出てからも役に立つ技術である。本科目では、日本語入力の方法やフォルダやファイルの扱いといった基礎的なことから、パソコンを用いた「レポートや報告書類の作成」(Word)、「必要なデータの作成と処理」(Excel)、「発表資料の作成」(PowerPoint)を学ぶ。また、情報を活用するうえでの注意点やマナー、レポート等作成時に留意しなければならない著作権についての講義も併せて行う。以上によって、パソコンを用いた資料作成やデータ作成・処理、更にはプレゼンテーション能力の向上を目指す。	
教養科目	情報機器演習(応用) I	本科目は情報機器演習(基礎)の既修者あるいはそれと同程度の能力を持った学生を対象としている。前半では、オフィスソフト(Word、Excel、PowerPoint)操作を修得し、最後にPowerPointを用いたプレゼンテーションを行う。後半では、レポートや論文作成のための情報検索(資料検索)を学修する。まず、レポートや論文とはどのような文章なのかを学んだ後、「情報」について学び、次いで情報検索について学修する。これによって、レポートや論文を書くための情報・資料を効果的に検索できるようになる。	
教養科目	情報機器演習(応用) II	本科目は情報機器演習(基礎)の既修者あるいはそれと同程度の能力を持った学生を対象としている。ウェブページや動画作成によって、情報発信の基礎を学ぶ。前半では、オフィスソフト(Word、Excel、PowerPoint)操作を修得し、最後にPowerPointを用いたプレゼンテーションを行う。後半では、まずHTMLを用いて簡単なウェブページを制作する。各自で素材を集め、編集しウェブページとしてまとめる。続いて簡単な動画を作成する。各自で素材を集め、編集し、動画作品にまとめていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	博物館概論	博物館及び博物館学についての基礎を学ぶ。本科目は、博物館の様々な種類、歴史的な意味、社会における役割、学芸員の業務などについて、具体例をあげながら、多数のスライドを使って進めていく。一部は見学・ディスカッションなど参加型の授業形態とする。これにより、博物館及び博物館学の全体像を把握する。また、美術館、歴史博物館、科学博物館、動植物園など多くの種類の博物館を知ることにより、学生が自身の興味を再確認する。更に、簡潔・明瞭に話すこと、書くことを積み重ね、プレゼンテーション力の基礎を得る。	
教養科目	図書館概論	図書館についての基礎的な知識を修得し、図書館の機能や社会的意義、役割について理解する。図書館の意義と機能、歴史と種類、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、将来の展望等について解説する。これによって学生は、国立国会図書館を含めた図書館の種類を知る。そして、公共図書館を軸とした図書館の意義や司書の仕事を説明できるようになる。更に、図書館の成立と展開についての小史を理解する。	
教養科目	キャリアデザイン	音楽大学の特性を活かしたテーマによる講義やディスカッション、ワークショップなどを通じて、将来の仕事のイメージを具体化し、大学での学びの目的と方向性を再認識することを目的とする。社会に広く目を向け、音楽業界の現状や人材についてのニーズに関する最新の情報をもとに、幅広い視点で音楽を捉える力を育む。学生それぞれが個々の専門の学びに沿いつつ、自己の個性や才能を活かしたキャリアについて考えることを促す。	
教養科目	芸術特別研究Ⅰ	優れた音楽・芸術表現を鑑賞し、感想及びレポートの作成・提出、ならびにそれをもとにしたプレゼンテーション(面接)を行う。他の演奏家の多様な音楽表現に接し、また音楽以外の芸術にも触れることにより、感性を磨き視野を広げることで、音楽・芸術についての理解を深め、音楽表現を豊かにする。感想・レポートの作成やプレゼンテーションにより、文章や口頭での表現力を涵養する。	
教養科目	芸術特別研究Ⅱ	優れた音楽・芸術表現を鑑賞し、感想及びレポートの作成・提出、ならびにそれをもとにしたプレゼンテーション(面接)を行う。芸術特別研究Ⅰで学修したことを基に、他の演奏家の多様な音楽表現に接し、また音楽以外の芸術にも触れることにより、感性を磨き視野を広げることで、音楽・芸術についての理解を深め、音楽表現を豊かにする。感想・レポートの作成やプレゼンテーションにより、文章や口頭での表現力を涵養する。	
教養科目	音楽活動研究①	近年、コンサートホール等での演奏だけでなく、地域のあらゆる場所での演奏機会が増え、音楽家に対し様々なスキルが求められている。音楽活動研究では、社会における音楽の役割について考え、対象や目的に沿った演奏会の作り方について専門的に学び、それぞれの専門性を活かしながら、音楽を通じた自己表現力及びコミュニケーション能力を身につける。本科目では、活動のための心得、活動のためのプログラムビルディング、認定講座、ランスルー見学、実践活動への参加、活動報告会を行う。	
教養科目	音楽活動研究②	本科目は、音楽活動研究①を基礎としながら、小学校、福祉施設、地域イベント等、様々な場所で演奏する際に求められるスキルを学び、コミュニケーション、プレゼンテーション、ファシリテーション能力を身につける。授業内容として、地域での様々な対象を想定した選曲・編曲のテクニック、実践的プログラムビルディング、司会進行の技術、ポートフォリオ講座、プレゼンテーションの方法、ファシリテーションスキルを学ぶとともに、子どもや高齢者を対象とした演奏会の活動分析を行う。また、オーディションの心構えについての講座や、ランスルー見学、実践活動への参加、活動報告会を行う。	
教養科目	音楽活動研究③	本科目は、音楽活動研究①②で修得したスキルと知識を活かし、演奏活動、楽器指導、演奏会の企画運営を体験する。オーディションでの採用を条件に、プログラミング、台本づくり、グループワーク、担当者との打ち合わせを経て実際の活動を行う。また、活動後は、映像等で自らの活動を振り返り、改善点を検討する。これらにより、自己表現力やコミュニケーション能力を向上させ、「礼・節・技」の備わった音楽人として成長することを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	音楽活動研究④	本科目は、音楽活動研究①～③で修得したスキル、知識、経験を活かし、更に進んだ演奏活動、楽器指導、演奏会の企画運営を体験する。プログラミング、台本づくり、担当者との打ち合わせでは、自ら主体的に取り組むことにより、リーダーシップを発揮する能力を修得する。また、活動後の振り返り、改善点の検討を含め、自己表現力やコミュニケーション能力の一層の向上と、「礼・節・技」の備わった音楽人としてのさらなる成長を目指す。	
教養科目	体育理論	わが国の平均寿命は男女ともに75歳を越え、心身の健康は欠くことのできない大切な財産である。一方、生活の便利さとはうらはらに健康を脅かす要因が多いことも周知のとおりである。日常の積み重ねによって生涯、健康で豊かな生活を送ることは可能であり、そのために知っておきたい基本的な知識を修得する。スポーツ文化の観点から「国際大会の実際」「アンチ・ドーピング」を取り上げて現代のスポーツを考察する。これにより自身の健康を主体的に考え、良い生活習慣を実践できるような知識を身につける。	
教養科目	体育実技	健康の保持に有効なトレーニングやストレッチなどコンディショニングを実習する。また、演奏表現、ステージマナー、舞台演技など、「身体」に関わる問題に対して論理的な発想を学ぶ。この目的に沿って、フェンシングと舞踊のクラスを設定する。フェンシングのクラスでは、基本動作を修得するとともに運動能力、身体の自己管理能力の向上を狙う。舞踊のクラスでは、16世紀から19世紀のダンスについて、背景となる歴史を概観し、ダンスの持つ文化的・社会的な意味を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	基礎英語Ⅰ	基礎英語は英語の基礎的な文法を総復習しつつ、基礎的なコミュニケーション能力と自己表現能力の向上を目的としている。本科目は、主に英語のReading、Writingを総合的に向上させるためのエクササイズを取り入れ、また教材として映画台本、絵本、歌詞など、学修者がアクティブに取り組めるものを使用する。具体的な成果として、英語の様々な表現を学び、学んだ表現を応用して自分の意見やアイデアを自由に表現できるようになる。	
外国語科目	基礎英語Ⅱ	基礎英語は英語の基礎的な文法を総復習しつつ、基礎的なコミュニケーション能力と自己表現能力の向上を目的としている。本科目は、主に英語のSpeaking、Listeningを総合的に向上させるためのエクササイズを取り入れ、また教材として映画台本、絵本、歌詞など、学修者がアクティブに取り組めるものを使用する。具体的な成果として、英語の様々な表現を学び、学んだ表現を応用して自分の意見やアイデアを自由に表現できるようになる。	
外国語科目	初級英語Ⅰ	初級英語は基本的な英語運用能力を確実なものとし、簡単な英文で自分の意見を表現できるようになることを目的としている。本科目は、幅広いジャンルの音楽についての文献やジャズ、ポップス、ミュージカルなどのスタンダードナンバーを教材として、日常英会話の基礎的な表現を学び、個々の状況に当てはめた会話の応用力を身につけることを目標とする。具体的な成果として、英語の歌を歌う事で英語のリズムを修得し、学んだ表現を使って英文を書くことができ、簡単な会話ができるようになる。	
外国語科目	初級英語Ⅱ	初級英語は基本的な英語運用能力を確実なものとし、簡単な英文で自分の意見を表現できるようになることを目的としている。本科目は、舞台芸術に関する教材を用いて英文読解力と英作文力の向上をはかり、演劇的手法を用いて英語での舞台づくりなどを通して自己表現能力やコミュニケーション能力を高めることを目標とする。具体的な成果として、簡単な英文で自分の意思を表現でき、ストーリーの流れを把握できるようになる。	
外国語科目	初級英語Ⅲ	初級英語は基本的な英語運用能力を確実なものとし、簡単な英文で自分の意見を表現できるようになることを目的としている。本科目は、映画や文学作品を教材として英語圏の文化的な背景を理解し、基本的な構文や語彙を使って英語を話したり書いたりすることができることを目標とする。具体的な成果として、文化的背景のある作品を通して学んだ語彙や表現を用いて英語をアウトプットできるようになる。	
外国語科目	初級英語Ⅳ	初級英語は基本的な英語運用能力を確実なものとし、簡単な英文で自分の意見を表現できるようになることを目的としている。本科目は、英語での会話に必要な単語、表現、文法等を学びつつコミュニケーションに役立つ自己表現能力の向上を目的としている。具体的な成果として、英語圏での文化や習慣等を学びつつ、英語の基本的な文法・表現を使い、学校、仕事、旅、エンターテインメント、健康、食文化、将来の夢といった日常的なトピックについての会話ができ、的確且つ流暢にコミュニケーションできるようになる。	
外国語科目	初級英語Ⅴ	初級英語は基本的な英語運用能力を確実なものとし、簡単な英文で自分の意見を表現できるようになることを目的としている。本科目は、課題として出された文献を読み、簡単な文章表現からまとまった長さの文章作成までの基本的なライティングスキルを向上させていくことを目標とする。具体的な成果として、平易な文章を理解する事ができ、論理的に書く形式に従って自分の意見をシンプルな文章でまとめることができる。	
外国語科目	中級英語Ⅰ	中級英語は基本的な英語運用能力を応用し、まとまった英文で自分の意見を自由に表現できるようになることを目的としている。本科目は、幅広いジャンルの音楽についての文献やジャズ、ポップス、ミュージカルなどのスタンダードナンバーを教材として、日常英会話の幅広い表現を学び、個々の状況に応じた適切な会話力を身につけることを目標とする。具体的な成果として、英語の歌を歌う事で英語のリズムを修得し、学んだ表現を応用してまとまった英文を書くことができ、会話の応用力が身につく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	中級英語Ⅱ	中級英語は基本的な英語運用能力を応用し、まとまった英文で自分の意見を自由に表現できるようになることを目的としている。本科目は、シェイクスピアの戯曲や舞台芸術に関する教材を用いて英文読解力と英作文力の向上をはかり、演劇的手法を用いて英語での舞台づくりなどを通して自己表現能力やコミュニケーション能力を高めることを目標とする。具体的な成果として、舞台芸術に関する表現や語彙を修得しまとまった英文で自分の意思を表現し、伝える事ができるようになる。	
外国語科目	中級英語Ⅲ	中級英語は基本的な英語運用能力を応用し、まとまった英文で自分の意見を自由に表現できるようになることを目的としている。本科目は、映画や文学作品を教材として英語圏の文化的な背景を理解し、構文や語彙を自由に使って英語を話したり書いたりすることができることを目標とする。具体的な成果として、文化的背景のある作品の理解を深め、その作品を通して学んだ語彙や表現を用いてまとまった英語の文章を自由にアウトプットできるようになる。	
外国語科目	中級英語Ⅳ	中級英語は基本的な英語運用能力を応用し、まとまった英文で自分の意見を自由に表現できるようになることを目的としている。本科目は、英語での会話に必要な単語、表現、文法等を学びつつ、ペアワークやグループワークによりコミュニケーションに役立つ自己表現能力の向上を目的とする。具体的な成果として、英語圏での文化や習慣等を学びつつ、英語の文法・表現を使い、人物描写、状況説明、問題提起、情報収集、自己表現といった日常的なトピックについての会話ができ、的確且つ流暢なコミュニケーションを取る事ができるようになる。	
外国語科目	中級英語Ⅴ	中級英語は基本的な英語運用能力を応用し、まとまった英文で自分の意見を自由に表現できるようになることを目的としている。本科目は、課題として出された文献を読み、主題文で主題を述べ、支持文で主題を説明し、結論文でまとめるパラグラフ(小記事)ライティングのスキルを向上させていくことを目標とする。具体的な成果として、まとまった文章を読んで学び、討論し、英語で読み手に内容を理解してもらえる文章が書けるようになる。	
外国語科目	上級英語Ⅰ	上級英語は、中級英語以上の英語運用能力を確立している学修者のために、実用的なレベルでの運用能力を更に向上することを旨とする科目である。本科目は、ディスカッションのスキルを向上させていくことを目標とする。具体的には、時事的なトピックについての文献を読み、英語のネイティブスピーカーと意見交換をし、自分の意見を述べる事ができるようになることを目指す。	
外国語科目	上級英語Ⅱ	上級英語は、中級英語以上の英語運用能力を確立している学修者のために、実用的なレベルでの運用能力を更に向上することを旨とする科目である。本科目は、TOEICを中心にTOEFLやIELTSなどの試験対策とおして、総合的な英語能力をバランスよく上達させていくことを目標とする。具体的には、クリティカル・シンキングの手法を取り入れながら論理的に文章を読み、書き、聞き、話すトレーニングを通して、海外を舞台にビジネスあるいはアカデミックな分野で活躍できる能力を高める。	
外国語科目	上級英語Ⅲ	上級英語は、中級英語以上の英語運用能力を確立している学修者のために、実用的なレベルでの運用能力を更に向上することを旨とする科目である。本科目は、日常の身近なトピックについて英語でのプレゼンテーションを行うためのテクニックを身につけるエクササイズを実施する。具体的な成果として、ネイティブスピーカーのプレゼンテーションを鑑賞することにより、パブリック・スピーキングのスキルを学びクラス内で英語でのプレゼンテーションができるようになる。	
外国語科目	上級英語Ⅳ	上級英語は、中級英語以上の英語運用能力を確立している学修者のために、実用的なレベルでの運用能力を更に向上することを旨とする科目である。本科目は、文章読解力を高め深い解釈力を養うことを目標とするエクササイズを実施する。教材として用いる文章は様々な分野から選出する。具体的な成果として、辞書や文法的知識を正しく用いて言葉／文の的確な意味を汲み取ること、表面に現れていない意味を文脈から推測することができるようになる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	上級英語 V	上級英語は、中級英語以上の英語運用能力を確立している学修者のために、実用的なレベルでの運用能力を更に向上することを目指す科目である。本科目は、様々なジャンルの文章を精読することで書く能力を養うことを目標とするエクササイズを実施する。教材として用いる文献は様々な分野から選出し、広い教養と国際人としての思考法を身につけるべく、英語の論理的な文章の組み立て方を学ぶ。具体的な成果として、英語で読み手に内容を理解してもらえ文章を書くことができるようになる。	
外国語科目	基礎ドイツ語	ドイツ語を初めて学ぶ人のための科目である。「文法」の知識と「会話」の能力はともに重要であるため、授業では両者をバランスよく取り入れる。また、言葉は文化と密接に関係しているという観点から、「ドイツ語」と「ヨーロッパにおける言語文化(芸術文化)」との結びつきも学ぶ。履修者はドイツ語の発音の基礎を修得し、基本的な文法構造を理解する。また、辞書を十分に活用できるようになる。	
外国語科目	初級ドイツ語	基礎ドイツ語の既修者を対象とした科目である。基礎ドイツ語で修得した事項を基礎にして、より高度な「文法」と「会話」をバランスよく学ぶ。ドイツ語文法の体系的な理解、辞書を使って自力でドイツ語の文章を解説する能力、ドイツ語圏の言語文化(芸術文化)への高い関心を養う。将来、ドイツ語圏への留学を希望する学生にも配慮した内容とする。	
外国語科目	中級ドイツ語 I	中級ドイツ語は基礎～初級ドイツ語で学んだ発音、文法、表現についての知識を土台に、ドイツ語の更に進んだ領域を学ぶ。本科目では、使用言語を「ドイツ語」とし、毎回の授業のまとめのみ「日本語」で行うなど、とくに「ドイツ語会話表現」に焦点を当てる。ドイツ語会話能力の向上、辞書に頼らずにテキストを理解する能力をつける、語彙数を増やす(約1,800語)ことは大きな目標になる。ドイツ語検定試験問題等を用いて履修者のドイツ語力を確認する試みも行う。	
外国語科目	中級ドイツ語 II	中級ドイツ語は基礎ドイツ語、初級ドイツ語で学んだ発音、文法、表現についての知識を土台に、ドイツ語の更に進んだ領域を学ぶ。本科目では「講読」に焦点を当てる。辞書を用いて比較的容易なテキストから少しずつ難易度の高いテキストへと、多くのドイツ語の文章を読み進める。語彙数は2,500語程度を目標とし、ドイツ語の文章を正しく発音できるとともに、中級レベルのドイツ語なら辞書を使って、初級レベルなら辞書なしで理解できる能力を養う。	
外国語科目	上級ドイツ語	上級ドイツ語は基礎ドイツ語、中級ドイツ語までに学修した項目を土台として、さらなるドイツ語能力の向上を目指す。反復練習を通じて一般的な会話やテキスト講読の力を向上させるのは当然のことながら、この段階までくるとほとんどの学生が専門分野の研究にドイツ語を必要とし、また少人数制で開講されている現状を鑑み、具体的には、各自の専門分野について簡単なドイツ語で話し、またその分野に関連するドイツ語のテキストを辞書を使って読みこなせるような能力を養う。	
外国語科目	基礎イタリア語	イタリア語初修者のための科目である。発音や文法の基礎知識を学びつつ、簡単な日常会話に慣れ、背景になっている文化にも興味を広げることを目的とする。具体的には正しい発音の理解、簡単な日常会話によるコミュニケーション、単語帳や辞書を援用して簡単な文章を読み書きする能力をつける。文法面では性と数、人称による動詞の変化、人称代名詞の使い方など、イタリア語学修の基礎になる範囲を十分に時間をかけて修得する。また学修を通して発想の違いや異文化を理解する能力を養う。	
外国語科目	初級イタリア語	基礎イタリア語の既修者を対象とした科目で、イタリア語という言語の仕組みの基本を学ぶ。基礎イタリア語からの発展で、「時制」や「法」によって表現できる内容やニュアンスは飛躍的に広がるので、文法をしっかり理解するとともにイタリア語らしい表現を丁寧に学修する。基礎イタリア語に比べて学び、記憶すべき単語数や短文も増えるので、辞書をひく方法と習慣を身につける。学修を通して発想の違いや異文化を理解する能力を養い、イタリアの歴史や文化に関する知識も蓄積する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	中級イタリア語Ⅰ	中級イタリア語は基礎と初級で学んだ基礎知識を強化・活用し、イタリア人の文化、風習、習慣を深く学びながら、イタリア語の理解・運用能力を高めることを目的とした科目である。本科目では実際に使われる様々なかたちのイタリア語の文章を読む能力を高めることにも力を入れる。日常的な会話文、イタリアの芸術や文化についての解説文、観光案内の表現、人物紹介文等比較的平易なものを教材に、丁寧に解説し、正しい発音とイントネーションで音読できるようにする。	
外国語科目	中級イタリア語Ⅱ	中級イタリア語は基礎と初級で学んだ基礎知識を強化・活用し、イタリア人の文化、風習、習慣を深く学びながら、イタリア語の理解・運用能力を高めることを目的とした科目である。本科目では会話とリスニングにも力を入れ、イタリア人と自由にコミュニケーションをとれる能力の養成を目指す。コミュニケーションには異文化の相互理解が必要であるため、文法や言葉の学修と並行して自己表現の方法を学ぶためにも、ビデオ等を見ながらイタリアの文化の理解を深める。	
外国語科目	上級イタリア語	本科目は、中級イタリア語までに修得した知識や能力を更に強化し、実際の運用面で起こってくる様々な状況に対応できる表現力を修得することを目標とする。中級イタリア語にひきつづき、正しい発音とイントネーションを身につけ、多様な文章の解説を体験したり、ビデオなど映像を教材としてイタリア語らしい表現を学び、また時事的なトピックについて自分の考えをまとめて述べるなどのことから、より高いレベルの運用能力の修得を目指す。	
外国語科目	基礎フランス語	本科目はフランス語の初修者のための科目である。発音や文法の基礎知識を学びつつ、簡単なフランス語によるコミュニケーションを体験する。日本では学ぶ人が多くない言語だが、日本へ多大な影響を与えている映画や音楽などの文化ジャンルを交えて、フランス及びフランス人に対する理解を深める。文法はフランス語学修の基礎を築くために重要なものと位置づけ、重要な項目は一年間で概観的に学ぶ。また学んだ言葉を積極的にコミュニケーションに使う習慣をつける。	
外国語科目	初級フランス語	本科目は基礎フランス語の既修者を対象とした科目である。難易度を大きく上げるのではなく、これまで学んだフランス語の知識を丁寧に復習しながら、新しい視点を追加していく。「文法」の知識と「会話・コミュニケーション」の能力を重視しつつ、それを窓口にしてフランス人の物の考え方やフランス文化について幅広い知識を得る。料理、映画、音楽など身近なジャンルを教材として利用し、文化と言葉の両面に親しむ。	
外国語科目	中級フランス語	本科目は、実用的なフランス語修得の第一歩になり、とりわけ会話・コミュニケーションの能力を高めることを重視する。基礎フランス語、初級フランス語で修得した基礎知識を口述練習によって更に深め、確かなものにしていく。具体的には、日常的に語られる様々な主題を扱いながら、また自己紹介等を通して、フランス語の正しい発音に慣れ、フランス語らしい表現が使えるようにする。	
外国語科目	上級フランス語	中級フランス語の授業で開発された会話・自己表現の能力を更に推し進め、フランス語で語り、表現することの楽しさを体験する科目である。フランス語で語ることに慣れると少しずつ余裕が出てくるので、学んだ表現を利用しながら伝えたいことが語れるようになる。正しいフランス語で、正しい発音で、日常的内容が苦勞なく話せる能力を養うが、自分の意見を構築して表現できるようにすることも重要である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	作曲・エレクトロニクス実技①	様々な作曲家の作品分析などを通して楽式の知識と感覚を身につけ、作曲に必要な基本の技術を修得することを目標とする。西洋の古典的な音楽作品から現代の音楽作品に触れることによって、作曲のための方法論を見出す。作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を修得する。	
専門科目	作曲・エレクトロニクス実技②	作曲・エレクトロニクス実技①で学んだ内容を踏まえて作曲技術を向上させることを目標とする。幅広く作曲ができるようになるための技量を身につける。作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を修得する。エレクトロニカ系では基本的なDAWソフトでの作曲方法を修得する。	
専門科目	作曲・エレクトロニクス実技③	作曲・エレクトロニクス実技①②で学んだ内容を踏まえて作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を修得する。エレクトロニカ系ではコンピュータ音楽・録音制作・音響機器操作の技術を活かした創作を行う。幅広い音楽ジャンルをカバーする作曲技術を身につけることを目標とする。	
専門科目	作曲・エレクトロニクス実技④	卒業作品に必要な技量を身につけることを目標とする。作曲・エレクトロニクス実技①～③で学んだ内容を活かして、作曲理論の修得や作品分析をベースに、学生の学修状況と個性にあわせて作品の創作を指導する。更に、卒業作品以外の創作にも取り組み、自己の思考と技法を総括した作曲能力を養う。エレクトロニカ系では、コンピュータや電子音響機器を駆使した創作研究を行う。	
専門科目	サウンドプロデュース①	音楽制作に必要な音響機器とコンピュータの扱い方を学び、DAWソフトを使用した音楽制作の技術を修得する。基本的な作曲・編曲と音楽制作の技術を養う。コンピュータベースで楽器演奏のMIDIによるシミュレーション及び録音編集を行い、サウンドプロデューサーとしての個性のある表現ができる能力を養う。また、自己の活動への足がかりを作ることができるよう、知識と技術を修得する。	
専門科目	サウンドプロデュース②	サウンドプロデュース①で学んだ内容を踏まえてサウンドプロデューサーに必要な、作曲・編曲の技術と演奏などを含めた総合的な音楽能力を養うことを目的とする。企画の立案から、作曲・編曲、演奏、録音編集、マスタリングといった実際にプロの現場で行われている制作プロセスをシミュレーションしながら、現場への対応力を養う知識と技術を修得する。	
専門科目	サウンドプロデュース③	サウンドプロデュース①②で学んだ内容を踏まえてサウンドプロデューサーとして求められる技術を身につけ、作品に応じた楽曲制作ができることを目標とする。幅広い作曲・編曲の技術を身につけ、楽曲に応じた適切なアレンジの修得と、プロデューサー、コンポーザー、アレンジャー、プログラマー、エンジニア、プレーヤー等すべての面を実践し、セルフプロデュース作品に活かす知識と技術を修得する。	
専門科目	サウンドプロデュース④	サウンドプロデュース①～③で修得した技術を応用し、卒業作品に取り組む。作品の精度を上げるため、作品の立案から制作までのプロセスをきめ細かく行っていくと同時に、レコーディング、ミックス、マスタリングを実践する。プロデューサー、コンポーザー、アレンジャー、プログラマー、エンジニア、プレーヤー等すべての面を実践し、セルフプロデュースとトータルなサウンドプロデュースができる知識と技術を修得する。	
専門科目	指揮実技①	指揮者になる為の基礎的バトンテクニック及び指揮をするための息使いについて学修する。本科目では、基礎的なバトンテクニックと息使いを学修し、指揮者としての読譜力を養う。合唱曲の指揮と複数の楽器を使ってアンサンブルの指揮のための知識と技術を修得する。	
専門科目	指揮実技②	指揮実技①で学んだ内容を踏まえて、バトンテクニックと演奏解釈を学修する。ベートーヴェンの交響曲を題材に、交響曲における起承転結を理解し、楽章ごとに適切な音楽表現をできるようにする。また小編成のオーケストラを指揮できる知識と技術を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	指揮実技③	指揮実技①②で学んだ内容を踏まえて、バトンテクニックと演奏解釈を学修する。交響曲の構成を復習しながら、各楽章の意味と位置づけを学ぶ。大学オペラ公演に参加して、現場での副指揮者のあり方を学ぶ。ベートーヴェンの交響曲を指揮する知識と技術を修得するとともに、オペラの副指揮者の役割を理解することを目的とする。	
専門科目	指揮実技④	指揮実技①～③で修得した内容の復習及び幅広く作曲家の作品を取り上げ、指揮法について知識と技術を修得する。古典から現代までの楽曲を幅広く取り上げ、レパートリーを増やすとともに、指揮者及び合奏指導者としての能力を養うことを目的とする。	
専門科目	作曲Ⅱ①	この授業は作曲を学ぶための科目であり、グループの形態で行われる実技レッスンである。作曲理論や形式の理解をベースとして、各学生の能力に応じた作品を制作することを目標とする。作品分析を学ぶことにより作曲法を理解し、個性ある作曲ができるようになる。	
専門科目	作曲Ⅱ②	この授業は作曲を学ぶための科目であり、グループの形態で行われる実技レッスンである。作曲Ⅱ①で修得した知識と技術を高めることを目的とし、作曲理論や形式の理解をベースとして、各学生の能力に応じた作品を制作する。作品分析を学ぶことにより作曲法を理解し、個性ある作曲ができるようになる。	
専門科目	作曲Ⅱ③	この授業は作曲を学ぶための科目であり、グループの形態で行われる実技レッスンである。作曲Ⅱ①②で修得した知識と技術を高めることを目的とし、作曲理論や形式の理解をベースとして、各学生の能力に応じた作品を制作する。作品分析を学ぶことにより作曲法を理解し、個性ある作曲ができるようになる。	
専門科目	作曲Ⅱ④	この授業は作曲を学ぶための科目であり、グループの形態で行われる実技レッスンである。作曲Ⅱ①～③で修得した知識と技術を高めることを目的とし、作曲理論や形式の理解をベースとして、各学生の能力に応じた作品を制作する。作品分析を学ぶことにより作曲法を理解し、個性ある作曲ができるようになる。	
専門科目	指揮演習①	本科目ではオーケストラ及び吹奏楽の指揮の実践を行う。オーケストラ及び吹奏楽を指揮することは、指揮者のみならず、教育分野(合奏指導者)においても必要な知識と技術である。本科目では、合奏で扱う楽曲のスコアリーディング、楽曲分析を行い、バトンテクニックの分析、指揮法と合奏指導の基本を修得する。	共同
専門科目	指揮演習②	本科目ではオーケストラ及び吹奏楽の指揮の実践を行う。オーケストラ及び吹奏楽を指揮することは、指揮者のみならず、教育分野(合奏指導者)においても必要な知識と技術である。本科目では、指揮演習①で修得した技術の展開、合奏で扱う楽曲のスコアリーディング、楽曲分析を行い、指揮法と合奏指導の実践を行う。	共同
専門科目	指揮演習③	本科目ではオーケストラ及び吹奏楽の指揮の実践を行う。オーケストラ及び吹奏楽を指揮することは、指揮者のみならず、教育分野(合奏指導者)においても必要な知識と技術である。本科目では、指揮演習①②で修得した技術の展開、合奏で扱う楽曲のスコアリーディング、楽曲分析を行い、指揮法と合奏指導の実践を行う。	共同
専門科目	指揮演習④	本科目ではオーケストラ及び吹奏楽の指揮の実践を行う。オーケストラ及び吹奏楽を指揮することは、指揮者のみならず、教育分野(合奏指導者)においても必要な知識と技術である。本科目では、指揮演習①～③で修得した知識と技術を応用させ、指揮者及び合奏指導者の能力を修得する。また合奏で扱う楽曲のスコアリーディング、楽曲分析を行い、指揮法と合奏指導の実践を行う。	共同
専門科目	スコアリーディングⅠ①	指揮者として必要なスコアリーディングの能力を養うことを目標とする。スコアに書かれている音を正確に読み取り、演奏解釈ができる能力を養う。音部記号の読譜練習、室内楽及び管弦楽作品のピアノによる演奏法の練習を行いスコアリーディングの知識と技術を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	スコアリーディングⅠ②	指揮者として必要なスコアリーディングの能力を養うことを目標とする。スコアに書かれている音を正確に読み取り、演奏解釈ができる能力を養う。スコアリーディングⅠ①で学んだ内容を踏まえて、本科目では、音部記号の読譜練習、2～4声の楽譜の初見演奏練習、室内楽及び管弦楽作品のピアノによる演奏法の練習を行い、スコアリーディングの知識と技術を修得する。	
専門科目	スコアリーディングⅡ	オーケストラなどのスコアに書かれている音を正確に読み取ることは勿論だが、その音楽を頭の中で構築しピアノで弾き表せるようにすることが目標である。記譜法の原理を修得し、楽器法、特にハ音記号及び移調楽器で書かれている楽譜の読み方を理解し、様々な作品のスコアを分奏、ピアノ譜に編曲し、ピアノによるスコアの視奏などを繰り返し演習を行う。	
専門科目	対位法	対位法は和声学とともにクラシック音楽の技術の1つであり、自分自身の作品に活かし、また先人の作曲家の楽曲を理解するために必要不可欠な知識と技術である。定旋律(カントゥス・フィルムス)をもとに、対旋律を作る訓練を中心としてその旋律の独立性に注意を払いながら、音楽を線と線の水平次元で捉えることができる能力を養い、多声音楽(ポリフォニー)の高度な技術を修得する。	
専門科目	ミュージックセオリー(初級)	作曲・編曲、楽曲分析に必要な和声学を中心とした理論と技術を修得することを目的とする。初級、中級、上級のグレード別に編成されていて、履修者は各々のレベルに沿って学修する。本科目では、主要3和音の基本形・転回形、V7の和音の基本形・転回形、V9の和音の基本形・転回形、D諸和音、II7の和音を修得する。	
専門科目	ミュージックセオリー(中級)	作曲・編曲、楽曲分析に必要な和声学を中心とした理論と技術を修得することを目的とする。初級、中級、上級のグレード別に編成されていて、履修者は各々のレベルに沿って学修する。本科目では、準固有和音、ドッペルドミナント、IV7、+IV7、-II、S諸和音の総括、近親転調、ソプラノ課題、調設定、借用和音を修得する。	
専門科目	ミュージックセオリー(上級)	作曲・編曲、楽曲分析に必要な和声学を中心とした理論と技術を修得することを目的とする。初級、中級、上級のグレード別に編成されていて、履修者は各々のレベルに沿って学修する。本科目では、内部変換、構成音の転位、反復進行、偶成和音、保続音、主題構成を持つバス課題、階梯導入を持つバス課題を修得する。	
専門科目	オーケストレーション	作曲・編曲における管弦楽の知識と技術は、様々な音楽ジャンルで必要なものとなっている。本科目では、オーケストラで使用される様々な楽器の奏法と音域を理解し、その音色を判別できる能力を養う。それらの楽器による小編成の室内楽作品やオーケストラ作品を分析する。また、ピアノ作品を2管編成のオーケストラに編曲する知識と技術を修得する。	
専門科目	作曲・編曲法Ⅰ	本科目では、音楽の創作的手法としての作曲・編曲の基本となる技術を、演習を繰り返すことで身につける。ここではまず音程や音階、和声(ハーモニー)とコードネーム、調判定など、作曲・編曲の基礎となるポイントを徹底的に復習することから始め、楽器や特に移調楽器、また二部形式や三部形式、ソナタ形式など、管弦楽法や楽式についても理解を深めた上で、実際のメロディ創作や伴奏付けへと進んでいく。これらを通して修得できる能力は、教員採用試験や講師採用試験など、外部の音楽に関わる試験にも大いに有用である。	
専門科目	作曲・編曲法Ⅱ	作曲・編曲法Ⅰで学んだ内容を踏まえて、本科目では、吹奏楽の作曲と編曲のための知識と技術を修得する。吹奏楽の作曲・編曲を学ぶことは、作曲・編曲家のみならず教育分野(吹奏楽指導者)でも必要なものとなっている。吹奏楽作品の楽曲分析、小編成のアンサンブル曲の編曲などを行い実践的な作曲・編曲ができるようになることを目的とする。	
専門科目	コンピュータ音楽概論	コンピュータ音楽について基本となるDTM(コンピュータを使用した音楽制作)に必要な知識と技法について修得する。DTMにおける楽譜の浄書技術、シンセサイジング、サンプリング、MIDI・オーディオデータの編集、プラグイン・エフェクト、ミキシングについて、用語の理解と基本的な操作法について学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	デジタルミュージック概論	1950年以降におけるテクノロジーの進化とともに変化し続ける音楽について、その歴史的背景とそれぞれの年代における音楽作品を取り上げて考察していく。また、映像と音楽についての作品事例、作品の歴史的背景を考察していく。テクノロジーによる音楽とその他の芸術のコラボレーションの事例を取り上げ、自らの創作のコンセプトに活かすための知識を修得する。	
専門科目	ポピュラー音楽概論	ポピュラー音楽の100年余の流れを、地域や時代ごとに概観する。日本及び世界各国のポピュラー音楽のさまざまな楽曲を鑑賞し、多彩なサウンドやリズム、各国の歌手やバンドの歌唱や演奏などの多様な表現様式を把握する。更に、音楽と社会の相関関係を理解する。	
専門科目	映像の音楽	映像作家と共同制作をする上において必要な基礎的知識、制作の現場の実情と、映像作家として必要とされる技術について講義を行う。具体的な映像に合わせて音楽制作の方針を立てて作曲する技法及び映像音楽作家としての基礎を修得する。	
専門科目	サウンドデザイン演習	サウンドデザイン及び電子音響音楽の技法について修得する。ソフトウェアの操作法を応用し、サウンド素材の録音方法、編集方法、音響合成、プログラミングを学んでいく。音響効果、MAにおけるサウンドデザイナーとしての能力と、メディアに定着させた音楽芸術作品における創作技術を高め、電子音響音楽の作曲家としての能力を養う。	
専門科目	グラフィックデザイン演習	コンピュータを使用したアート作品においては、音楽・音響のみならずグラフィックと映像制作の知識と技術は必要不可欠である。映像制作の基礎は、動画の根本的な仕組みの理解と、静止画制作の能力、そのためのツールの修得である。従って、動画の仕組みを応用した制作演習及びPhotoshop、Illustratorの演習を行う。更に制作物に関するプレゼンテーションも併せて行う。	
専門科目	音楽プログラミング演習	音楽映像プログラミング環境のMaxを使用した音楽の表現手法と基本的な知識を学ぶ。Maxで作られたアプリケーションを使用した音楽表現方法、Maxのプログラミング機能によるアイデアの実現などの創作技術を深める。	
専門科目	映像制作演習	映像作品の鑑賞と制作を通して、映像制作者としての基礎と映像に関する教養を学ぶことを目標とする。映像の作り方、企画の立て方、発表の仕方など制作の基本を学ぶことから始め、同時に映像史、映像の原理、著作権、制作者倫理等について幅広く参照し考察する。更に映像の応用可能性について広く学修することを目標とする。	
専門科目	音楽プロデュース論	「個々の作品が適切にプロデュースされているか」「音楽家として、どのようにプロデュースされているか」について考察を行い、こんにちの音楽制作に必要な技術を修得する。自己のイメージを明確に持ち、それを社会に対して示す能力と、個々の作品のコンセプトや意義を理解し明確に示すことができる、あるいは、予め示されたコンセプトに沿って作品をつくることのできる能力を修得する。	
専門科目	スタジオワークス①	本科目はレコーディングとミキシングを行うためのノウハウ、更にレコーディング全般、特にレコーディングをプロデュースまたはディレクションするための知識と技術を修得することを目標とする。具体的には、音源制作の基本ツールであるProToolsの基本的な機能と操作方法を理解し、編集及びミキシングの技術を修得する。またレコーディング、ミキシング、マスタリングを実践することで、スタジオでのレコーディング作業の流れを理解して、自らの作品を完成させる能力を身につける。	
専門科目	スタジオワークス②	スタジオワークス①で学んだ内容を踏まえて、本科目では、エンジニアリング、ディレクション、プロデュースを各自が受け持ち、音楽制作現場の実践を行う。ProToolsを使用して各個人のレコーディング、ミキシング、マスタリングを実践し、自らの作品をブラッシュアップし完成させる技術を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ソングライティング演習①	ポピュラー音楽制作に必要な作詞と作曲技術を修得する。CMソング等を題材にシミュレーションして、社会的ニーズに応えられる音楽制作力を養う。課題作品は履修者でディスカッションを行い、音楽業界でクリエイティブに活動できる能力を養うことを目的とする。	
専門科目	ソングライティング演習②	ソングライティング演習①で修得した知識と技術を応用し、ポピュラー音楽制作に必要な作詞と作曲の能力を養うことを目的とする。課題作品は履修者でディスカッションを行い、音楽業界でクリエイティブに活動できる能力を養うことを目的とする。またDTM環境に頼らず、記譜によるソングライティングの知識と技術を修得する。	
専門科目	PA演習	電子音響音楽作品の創作や再生で音響機器を用いる場合、ホールでのPAは避けては通れない重要な要素である。またポピュラー音楽におけるPAは単に音響を拡声するのみではなく、音響空間を創ることが必要とされる。本科目では、音楽作品のコンサートでの原音に対する音響補正と音響作品の再生技術の理論と実践を学び、楽曲制作や現場に対応できる知識と技術を修得する。	
専門科目	録音制作Ⅰ	本科目では録音と再生の歴史を概観し、情報手段としての録音と再生の役割を検討する。録音の基礎である芸術音楽の録音(CD)制作を中心に、音の伝え方と音楽の伝わり方の関係という制作技術の根本に着目し、優れた録音物や現在の制作現場から様々な考え方を学び、媒体を通じた音楽表現の可能性及びそのありかたを考察する。	
専門科目	録音制作Ⅱ	本科目では録音の基礎である芸術音楽の録音制作を取り上げる。芸術音楽の録音制作では、実際の演奏による音響情報を、作品、演奏を損なわず適切に記録することが求められており、その制作工程では、制作技術が重要な役割を担っている。制作技術の修得とともに、録音における音楽表現の可能性を考察する。	
専門科目	録音制作Ⅲ	現在の音楽及び映像業界での標準ツールであるProToolsを使用して、録音制作技術を修得する。まず、ソフトウェアの概要や機能を把握、理解する。その上で課題曲について編集やミキシング等を実践する。更に、レコーディングに関わる作業の全般を実践し、これによって録音制作の知識と技術を総合的に修得する。	
専門科目	ピアノ実技Ⅰ①	ピアノ演奏家Ⅰコースとピアノ演奏家Ⅱコースの実技個人レッスンである。演奏家として身につけるべきレパートリーのうち、協奏曲・独奏曲を中心に学修する。バロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を研究対象とする。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した時代背景などについても研究する。様々な奏法を身につけ、和声感、リズム感など演奏表現に必要な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。	
専門科目	ピアノ実技Ⅰ②	ピアノ演奏家Ⅰコースとピアノ演奏家Ⅱコースの実技個人レッスンである。演奏家として身につけるべきレパートリーのうち、協奏曲・独奏曲を中心に学修する。ピアノ実技Ⅰ①で学修した内容をより発展させる。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した時代背景などについて更に多角的に研究する。様々な奏法を身につけ、和声感、リズム感など演奏表現に必要な要素を磨き、演奏家として必要な表現力をより高めていく。	
専門科目	ピアノ実技Ⅰ③	ピアノ演奏家Ⅰコースとピアノ演奏家Ⅱコースの実技個人レッスンである。各学生が、ピアノ実技Ⅰ①②で学修したレパートリーを踏まえ、自らの専門性をより高めるため、研究対象楽曲を精査・選択し、その音楽的内容、作品が成立した時代背景などについて研究を発展させる。様々な奏法を身につけ、和声感、リズム感など演奏表現に必要な要素を磨き、演奏家として必要な表現力のさらなる向上をはかる。	
専門科目	ピアノ実技Ⅰ④	ピアノ演奏家Ⅰコースとピアノ演奏家Ⅱコースの実技個人レッスンである。各学生が、ピアノ実技Ⅰ①～③で学修したレパートリー、学修内容を総括する。また、本科目の前期課題曲はピアノと管弦楽のための作品(ピアノ協奏曲)であり、ピアノ、電子オルガン、管弦楽等との共演を通じて、更に幅広い独奏者としての能力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ピアノ実技Ⅱ①	本科目はピアノ演奏家Ⅱコースに開講する実技個人レッスンである。ピアノ実技Ⅰ①に連動して学修を深めることを目的とする。演奏会出演やコンクール参加等の実践経験を重ね、演奏家に必要な肉体的、精神的能力の向上を図る。作品に即した様々な演奏法、多彩な音色(タッチ)について研究する。また、和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨く。これにより演奏家として必要な、基礎的な表現力を修得する。	
専門科目	ピアノ実技Ⅱ②	本科目はピアノ演奏家Ⅱコースに開講する実技個人レッスンで、ピアノ実技Ⅱ①の既修者を対象とする。ピアノ実技Ⅰ②に連動して学修を深めることを目的とする。演奏会出演やコンクール参加等の実践的経験を重ね、演奏家に必要な肉体的、精神的能力の向上を図る。作品に即した様々な演奏法、多彩な音色(タッチ)について研究する。また、和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨く。これにより演奏家として必要な、応用的な表現力を修得する。	
専門科目	ピアノ実技Ⅱ③	本科目はピアノ演奏家Ⅱコースに開講する実技個人レッスンで、ピアノ実技Ⅱ①②の既修者を対象とする。ピアノ実技Ⅰ③に連動して学修を深めることを目的とする。演奏会出演やコンクール参加等の実践的経験を重ね、演奏家に必要な肉体的、精神的能力の向上を図る。作品に即した様々な演奏法、多彩な音色(タッチ)について研究する。また、和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨く。これにより演奏家として必要な、実践的な表現力を修得する。	
専門科目	ピアノ実技Ⅱ④	本科目はピアノ演奏家Ⅱコースに開講する実技個人レッスンで、ピアノ実技Ⅱ①～③の既修者を対象とする。ピアノ実技Ⅰ④に連動して学修を深めることを目的とする。演奏会出演やコンクール参加等の実践的経験を重ねて、演奏家に必要な肉体的、精神的能力の向上を図る。作品に即した様々な演奏法、多彩な音色(タッチ)について研究する。また、和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨く。これにより演奏家として必要な表現力をより豊かにする。	
専門科目	ピアノⅠ①	ピアノ音楽コースとピアノ指導者コースの実技個人レッスンである。主としてヨーロッパ音楽の歴史的な流れに沿って、様々な演奏法、多彩な音色とタッチについて研究し、和声感、リズム感など演奏に求められる表現力を養う。本科目では、基礎的なテクニックを修得し、古典派、ロマン派のレパートリーを中心に研究する。また年間を通じて開催される招聘教授の公開講座、レッスン、演奏会等により技術と知識の向上を図る。	
専門科目	ピアノⅠ②	ピアノ音楽コースとピアノ指導者コースの実技個人レッスンである。主としてヨーロッパ音楽の歴史的な流れに沿って、様々な演奏法、多彩な音色とタッチについて研究し、和声感、リズム感など演奏に求められる表現力を養う。本科目では、スケール全調を修得し、バロック時代及び近現代のレパートリーを中心に研究する。また年間を通じて開催される招聘教授の公開講座、レッスン、演奏会等により技術と知識の向上を図る。	
専門科目	ピアノⅠ③	ピアノ音楽コースとピアノ指導者コースの実技個人レッスンである。主としてヨーロッパ音楽の歴史的な流れに沿って、様々な演奏法、多彩な音色とタッチについて研究し、和声感、リズム感など演奏に求められる表現力を養う。本科目では、ピアノⅠ①②の学修を更に深め、各人の個性にあった多様なレパートリーを研究する。また年間を通じて開催される招聘教授の公開講座、レッスン、演奏会等により技術と知識の向上を図る。	
専門科目	ピアノⅠ④	ピアノ音楽コースとピアノ指導者コースの実技個人レッスンである。主としてヨーロッパ音楽の歴史的な流れに沿って、様々な演奏法、多彩な音色とタッチについて研究し、和声感、リズム感など演奏に求められる表現力を養う。本科目では、卒業試験に向けて4年間の研究の成果を総括し、演奏技術・表現のさらなる向上を目指す。また年間を通じて開催される招聘教授の公開講座、レッスン、演奏会等により技術と知識の向上を図る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ピアノ①	作曲コースと指揮コースに開講する実技個人レッスンである。ピアノ演奏能力の高さは、作曲や指揮の学修・研究を進めていく上で必要な条件の一つである。本科目では、鍵盤音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。また作品構造の検証とともに演奏能力の向上に欠くことのできない技術的諸問題についても研究していく。更に、各個人の基礎技術的な問題点を見極め、課題をこなしていく。	
専門科目	ピアノ②	作曲コースと指揮コースに開講する実技個人レッスンである。ピアノ演奏能力の高さは、作曲や指揮の学修・研究を進めていく上で必要な条件の一つである。本科目では、鍵盤音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。また作品構造の検証とともに演奏能力の向上に欠くことのできない技術的諸問題についても研究していく。更に、ヨーロッパ音楽の基礎となる要素を学び、演奏法を修得していく。	
専門科目	ピアノ③	作曲コースと指揮コースに開講する実技個人レッスンである。ピアノ演奏能力の高さは、作曲や指揮の学修・研究を進めていく上で必要な条件の一つである。本科目では、鍵盤音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。また作品構造の検証とともに演奏能力の向上に欠くことのできない技術的諸問題についても研究していく。更に、扱う作品の幅を広げ、様々な表現法について学修していく。	
専門科目	ピアノ④	作曲コースと指揮コースに開講する実技個人レッスンである。ピアノ演奏能力の高さは、作曲や指揮の学修・研究を進めていく上で必要な条件の一つである。本科目では、鍵盤音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。また作品構造の検証とともに演奏能力の向上に欠くことのできない技術的諸問題についても研究していく。更に、規模の大きな作品をまとめ上げることを中心に学修していく。	
専門科目	ピアノⅡ①	本科目は、グループの形態で行われる実技レッスンで、ピアノ演奏の基本を学修する。グループというスタイルを活かし、アンサンブルなどで、音楽力の幅を広げる。また、学修者は演奏技術や音楽能力が異なるため、それぞれのレベルに応じた課題に取り組むことにより、楽器の演奏能力を高めることができる。ピアノ演奏を通じて、音楽を多角的に捉えることを目指す。	
専門科目	ピアノⅡ②	本科目は、グループの形態で行われる実技レッスンで、ピアノⅡ①の学びの上に立ち、更にピアノ演奏を学修する。グループというスタイルを活かし、アンサンブルなどで、音楽力の幅を広げる。また、学修者は演奏技術や音楽能力が異なるため、それぞれのレベルに応じた課題に取り組むことにより、楽器の演奏能力を高めることができる。ピアノ演奏を通じて、音楽をより多角的に捉えることを目指す。	
専門科目	ピアノⅡ③	本科目は、グループの形態で行われる実技レッスンで、ピアノⅡ①②の学びの上に立ち、更にピアノ演奏を学修する。グループというスタイルを活かし、アンサンブルなどで、音楽力の幅を広げる。また、学修者は演奏技術や音楽能力が異なるため、それぞれのレベルに応じた課題に取り組むことにより、楽器の演奏能力を高めることができる。ピアノ演奏を通じて、音楽を多角的に深く理解することを目指す。	
専門科目	ピアノⅡ④	本科目は、グループの形態で行われる実技レッスンで、ピアノⅡ①～③の学びの上に立ち、更にピアノ演奏を学修する。グループというスタイルを活かし、アンサンブルなどで、音楽力の幅を広げる。また、学修者は演奏技術や音楽能力が異なるため、それぞれのレベルに応じた課題に取り組むことにより、楽器の演奏能力を高めることができる。ピアノ演奏を通じて、音楽を多角的に捉え、より深く理解することを目指す。	
専門科目	ピアノアンサンブル①	室内楽と声楽の両面からアンサンブルについての基礎知識を学修・理解し、ピアニストにとって欠くことのできないアンサンブルの能力を、実際の演習を通して身につける。室内楽では、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタを教材として取り上げる。楽曲分析や作曲の背景などを理解した上で、ヴァイオリニストとの演習を通して、アンサンブルの基礎力を身につけていく。声楽とオペラでは日本歌曲、イタリア古典歌曲を中心に歌詞の解釈、及びその伴奏法を、実習を通して学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ピアノアンサンブル②	ピアノアンサンブル①で学んだ基礎の上に、更に高度なアンサンブル演奏表現能力を身につけることを目的とする。声楽ではドイツ歌曲、イタリア歌曲、フランス歌曲の伴奏法を学ぶ。オペラではベッリーニ、ロッシーニ、ドニゼッティの作品を取り上げ、作品の内容とその演奏表現法を、実習を通して学ぶ。室内楽では、ピアノ三重奏曲を教材とし、はじめに楽曲分析により作品をよく理解する。その後、ピアノパートのレッスン、ヴァイオリニスト、チェリストとの演習を通してより高度なアンサンブル能力を磨く。	
専門科目	ピアノアンサンブル③	オペラ伴奏、歌曲伴奏、室内楽の3つのジャンルから履修者がひとつを選択し、専門的にアンサンブルを研究することによって、ピアニストに求められる高度なアンサンブル能力の修得を目標としている。オペラ伴奏ではオペラの楽譜を分析・解釈し、ドラマの内容に即した伴奏法を研究する。歌曲伴奏ではドイツ歌曲を中心に、イタリア歌曲・フランス歌曲・日本歌曲等の総合的な歌曲伴奏を研究する。室内楽では古典から近・現代までの室内楽作品に触れる。	
専門科目	ピアノアンサンブル④	ピアノアンサンブル③から継続して、オペラ伴奏、歌曲伴奏、室内楽の3つのジャンルから選択したものを専門的に研究し、ピアニストとして卒業後に即戦力となり得る高度なアンサンブル能力の修得を目標とする。オペラ伴奏ではオペラの楽譜を分析・解釈し、ドラマの内容に即した伴奏法を研究する。歌曲伴奏ではドイツ歌曲を中心に、イタリア歌曲・フランス歌曲・日本歌曲等の総合的な歌曲伴奏を研究する。室内楽では古典から近・現代までの室内楽作品に触れる。	
専門科目	アンサンブル I ①	本科目はピアノ演奏家Ⅱコースに在籍し、ピアノ実技Ⅰを履修する学生に開講する科目である。演奏家は、実際の演奏の場において伴奏分野での活動も多く、アンサンブル奏者としての能力も必要となる。そこで本科目では、履修者の高い演奏能力を踏まえ、教員レベルの演奏者との共演を通して、高度なアンサンブル演奏の基礎的なスキルを修得する。	
専門科目	アンサンブル I ②	本科目はピアノ演奏家Ⅱコースに在籍し、ピアノ実技Ⅰを履修する学生に開講する科目で、アンサンブル I ①を修得した学生が履修することができる。演奏家は、実際の演奏の場において伴奏分野での活動も多く、アンサンブル奏者としての能力も必要となる。そこで本科目では、履修者の高い演奏能力を踏まえ、教員レベルの演奏者との共演を通して、高度なアンサンブル演奏の応用的なスキルを修得する。	
専門科目	アンサンブル I ③	本科目はピアノ演奏家Ⅱコースに在籍し、ピアノ実技Ⅰを履修する学生に開講する科目で、アンサンブル I ①②を修得した学生が履修することができる。演奏家は、実際の演奏の場において伴奏分野での活動も多く、アンサンブル奏者としての能力も必要となる。そこで本科目では、履修者の高い演奏能力を踏まえ、教員レベルの演奏者との共演を通して、高度なアンサンブル演奏の実践的なスキルを修得する。	
専門科目	アンサンブル I ④	本科目はピアノ演奏家Ⅱコースに在籍し、ピアノ実技Ⅰを履修する学生に開講する科目で、アンサンブル I ①～③を修得した学生が履修することができる。演奏家は、実際の演奏の場において伴奏分野での活動も多く、アンサンブル奏者としての能力も必要となる。そこで本科目では、履修者の高い演奏能力を踏まえ、教員レベルの演奏者との共演を通して、高度なアンサンブル演奏のスキルの完成を図る。	
専門科目	アンサンブル II ①	本科目はピアノ演奏家Ⅱコースに在籍し、ピアノ実技Ⅱを履修する学生に開講する科目である。演奏家は、実際の演奏の場において伴奏分野での活動も多く、アンサンブル奏者としての能力も必要となる。そこで本科目では、履修者の卓越した演奏能力を踏まえ、より実践に即した教育内容を目指し、教員レベルの演奏者との共演を通して、より高度なアンサンブル演奏の基礎的なスキルを修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	アンサンブルⅡ②	本科目はピアノ演奏家Ⅱコースに在籍し、ピアノ実技Ⅱを受講する学生に開講する科目である。アンサンブルⅡ①の既修者が履修することができる。演奏家は、実際の演奏の場において伴奏分野での活動も多く、アンサンブル奏者としての能力も必要となる。そこで本科目では、履修者の卓越した演奏能力を踏まえ、より実践に即した教育内容を目指し、教員レベルの演奏者との共演を通して、より高度なアンサンブル演奏の応用的なスキルを修得する。	
専門科目	アンサンブルⅡ③	本科目はピアノ演奏家Ⅱコースに在籍し、ピアノ実技Ⅱを受講する学生に開講する科目である。アンサンブルⅡ①②の既修者が履修することができる。演奏家は、実際の演奏の場において伴奏分野での活動も多く、アンサンブル奏者としての能力も必要となる。そこで本科目では、履修者の卓越した演奏能力を踏まえ、より実践に即した教育内容を目指し、教員レベルの演奏者との共演を通して、より高度なアンサンブル演奏の実践的なスキルを修得する。	
専門科目	アンサンブルⅡ④	本科目はピアノ演奏家Ⅱコースに在籍し、ピアノ実技Ⅱを受講する学生に開講する科目である。アンサンブルⅡ①～③の既修者が履修することができる。演奏家は、実際の演奏の場において伴奏分野での活動も多く、アンサンブル奏者としての能力も必要となる。そこで本科目では、履修者の卓越した演奏能力を踏まえ、より実践に即した教育内容を目指し、教員レベルの演奏者との共演を通して、より高度なアンサンブル演奏のスキルの完成を図る。	
専門科目	伴奏実習基礎	本科目は、バレエ・レッスンに伴うピアノ演奏に必要な基本的要素を学修するとともに、バレエ・レッスンに適した音楽のあり方やバレエに特化した演奏ルールを把握し、バレエ・ピアノへの理解を深めることを目的とする。前期にはバー・レッスン、後期にはセンター・レッスンの各項目について、(1)バレエ用語の理解、(2)映像による動きとその目的の把握、(3)音楽と動きとの関連の検討、(4)演奏法の探究を行い、知識の獲得と実践との両側面からバレエ・ピアノにアプローチしていく。	
専門科目	伴奏実習①	伴奏はピアニストにとって大変重要な分野である。本科目では声楽、器楽、オペラ、バレエ、ミュージカルの実践的な伴奏を学修する。伴奏を学ぶことにより音楽的な視野を拡大することができるとともに、実践的な技能を身につけることができる。将来、伴奏者として活動することを目指す学生にとっては実践的な技能を修得し、伴奏者として必要なコミュニケーション力を身につけることができる、実践的なキャリア教育の一環となる。	
専門科目	伴奏実習②	伴奏はピアニストにとって大変重要な分野である。本科目では伴奏実習①を踏まえて、声楽、器楽、オペラ、バレエ、ミュージカルのより実践的な伴奏を学修する。将来、伴奏者として活動することを目指す学生にとっては実践的な技能を修得し、伴奏における演奏表現の幅を広げることができる、実践的なキャリア教育の一環となる。	
専門科目	伴奏実習③	伴奏はピアニストにとって大変重要な科目である。この科目では伴奏実習①②を踏まえて、声楽、器楽、オペラ、バレエ、ミュージカルの高度な伴奏を学修する。将来、伴奏者として活動することを目指す学生にとっては伴奏における演奏表現の幅を広げ、伴奏者として音楽活動することができる演奏能力を身につけることができる、実践的なキャリア教育の一環となる。	
専門科目	伴奏法Ⅰ①	ピアノは1人で演奏することが多いが、伴奏や合奏では2人以上の協力関係によって音楽を作り上げる。本科目では、協力して演奏することにより異なった角度から音楽にアプローチし、音楽表現の幅を広げる。また歌詞の意味や言葉の響きの美しさを味わい、旋律及び和声の分析から得られる解釈をもとに、より高い演奏法を追求する。まず教育実習で必要な中学・高校の必修教材を扱い、その後イタリア歌曲やドイツリート等の伴奏研究へと幅を広げていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	伴奏法Ⅰ②	伴奏法①で学修したことを踏まえ、本科目では歌手、器楽奏者との演習を通じて、伴奏に必要な音楽的、技術的能力を養う。また、他の学生の演奏を聴き、問題点等を共有し検討することで、問題解決力や自身の演奏に応用できる客観性を身につける。伴奏の基本を再確認し、より高いレベルの演奏を目指す。質の高い技術、表現力を養い、独奏にも応用できる力を身につける。	
専門科目	伴奏法Ⅱ	本科目では、教育実習を視野に入れ、主に中学校、高校の授業で扱われる歌曲、合唱曲、器楽曲を取り上げる。各回の授業では、クラスメートの歌やリコーダー等の合奏に合わせて、交替でピアノ伴奏を弾く。これを通して、ピアノで伴奏することに慣れ、教育実習で授業を展開していく力をつける。また年間を通じて、主要三和音による伴奏づけと弾き歌いを学修する。	
専門科目	演奏会実習	弦・管・打楽器演奏家Ⅰコース及びピアノ演奏家Ⅰコースに開講する科目で、これまでに学修した演奏技術、音楽表現力、レパートリーを基に、演奏会という場で聴衆を前にして実際に演奏することにより学修成果の確認を行う。また、プログラムビルディングの重要性及び企画広報、ステージ運営といった演奏会に必要な要素を同時に学修し、自らの演奏活動等での成果を活かした運用ができるようになる。	
専門科目	演奏会実習Ⅰ	ピアノ演奏家Ⅱコースに開講する科目である。一般に、演奏会に出演した経験は、演奏能力の向上に繋がるとされる。また、演奏家として活動するために、コンクールは決して無視することができない。本科目の履修者は、国内外の演奏会やコンクールに参加・出演し、演奏活動の経験を積むとともに、それに向けた準備のしかたについて学ぶ。これにより演奏家として活動するために必要なスキルを身につける。	
専門科目	演奏会実習Ⅰ①	弦・管・打楽器演奏家Ⅱコースに開講する科目で、学修によって蓄積された演奏技術、音楽表現力及びレパートリーを基に実際に演奏会を行う。本科目では、リサイタルに向けての準備や練習の進め方を学びながら、プログラムビルディングの重要性及び企画広報、ステージ運営といった演奏会に必要な要素を同時に学修する。様々な演奏活動に必要なスキルを身につけることができる。	
専門科目	演奏会実習Ⅰ②	弦・管・打楽器演奏家Ⅱコースに開講する科目で、学修によって蓄積された演奏技術、音楽表現力及びレパートリーをもとに実際に演奏会を行う。演奏会実習Ⅰ①で修得した、リサイタルに向けての準備や練習の進め方、プログラムビルディングの重要性、企画広報、ステージ運営といった演奏会に必要な要素を更に発展させ、リサイタルの全てを実践し、卒業後の演奏活動にスムーズに移ることができるよう指導する。	
専門科目	演奏会実習Ⅱ①	弦・管・打楽器演奏家Ⅱコース及びピアノ演奏家Ⅱコースに開講する科目で、学内外において豊富な演奏経験を積み演奏能力を高めることを目標とする。国内外のコンクール、演奏会等へ参加することで得る経験からさまざまな事柄を学修し、成長することを目指す。プロフェッショナル奏者として国際的に活躍するために必要なアンサンブル能力、コミュニケーション能力を身につけ、アーティストとしての技量を総合的に高めながら感性豊かな表現能力を身につける。	
専門科目	演奏会実習Ⅱ②	弦・管・打楽器演奏家Ⅱコース及びピアノ演奏家Ⅱコースに開講する科目で、学内外において豊富な演奏経験を積み演奏能力を高めることを目標とする。演奏会実習Ⅱ①で修得した内容を発揮しながら国内外のコンクール、演奏会等へ積極的に参加することで得る経験からさまざまな事柄を学修し、成長することを目指す。プロフェッショナル奏者として国際的に活躍するために必要なアンサンブル能力、コミュニケーション能力を身につけ、アーティストとしての技量を総合的に高めながら感性豊かな表現能力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	演奏会実習Ⅱ③	弦・管・打楽器演奏家Ⅱコース及びピアノ演奏家Ⅱコースに開講する科目で、学内外において豊富な演奏経験を積み演奏能力を高めることを目標とする。演奏会実習Ⅱ①②での経験を踏まえ、更に視野を広げ、国内外のコンクール、演奏会等へ積極的に参加することで得る経験からさまざまな事柄を学修し、一演奏家としての地位を確立させることを目指す。また同時に、プロフェッショナル奏者として国際的に活躍するために必要なアンサンブル能力、コミュニケーション能力を身につけ、アーティストとしての技量を総合的に高めながら感性豊かな表現能力を身につける。	
専門科目	演奏会実習Ⅱ④	弦・管・打楽器演奏家Ⅱコース及びピアノ演奏家Ⅱコースに開講する科目で、学内外において豊富な演奏経験を積み演奏能力を高めることを目標とする。国内外のコンクール、演奏会等へ積極的に参加することで得る経験からさまざまな事柄を学修し、一演奏家としての地位を確立させることを目指す。また演奏会実習Ⅱ①～③で修得した能力を応用しながらプロフェッショナル奏者として国際的に活躍するために必要なアンサンブル能力、コミュニケーション能力を確かに身につけ、アーティストとしての技量や感性豊かな表現能力を身につける。	
専門科目	演奏会実習Ⅲ	ピアノ演奏家Ⅱコースに開講する科目である。演奏家として世に出るための登竜門としてのコンクールの存在は決して無視することのできないもので、演奏芸術においては演奏会出演頻度が演奏能力の向上と結びついている。本科目は、国内外のコンクールへの積極的な参加を推奨し、更に学内外の演奏会への出演の場を与えるもので、演奏活動の機会を多く持つことができるように配慮した科目である。	
専門科目	演奏分析	ピアニストにとって必要かつ重要なレパートリー(独奏曲、協奏曲、ピアノを含む室内楽曲及びデュオ)の演奏法について研究する。特にコンクールにおいて演奏することを目的として選定した作品について詳細な研究を行い、より高度な演奏に繋げていく。同時に自己の演奏に対する客観性を養うように努める。作品に対する理解が深まり、より説得力のある演奏を行う能力が身につく。	
専門科目	演奏解釈	ピアニストにとって必要かつ重要なレパートリー(独奏曲、協奏曲、ピアノを含む室内楽曲及び伴奏、デュオ)の演奏法について研究する。多様な価値観を持った、様々な演奏家の録音資料、校訂譜、原典譜等を分析・検討し自己の演奏表現確立を目指す。なお、時代的にはバロックから現代までを包括している。	
専門科目	メディア創作演習①	本科目はピアノミュージッククリエイターコースに開講する科目で、グループによる創作を行う。各回の課題を基に、メロディー創作、形式の理解、和音の学修などを包括して行い、理論と表現の結びついた演奏ができるようにする。また演奏をビデオ撮影して、動画投稿サイトで共有することにより、受講者が互いの作品を評価し、意見交換する。	
専門科目	メディア創作演習②	本科目はピアノミュージッククリエイターコースに開講する科目である。メディア創作演習①での学修を基に、グループによる創作を行う。各回の課題を基に、メロディー創作、形式の理解、和音の学修などを包括して行い、理論と表現を連携させ、意志のある演奏ができるようにする。また演奏をビデオ撮影して、編集する。これを動画投稿サイトで共有することにより、受講者が互いの作品を評価し、意見交換する。	
専門科目	メディア創作演習③	本科目はピアノミュージッククリエイターコースに開講する科目である。メディア創作演習①②での学修を基に、グループによる創作を行う。各回の課題を基に、メロディー創作、形式の理解、和音の学修などを包括して行い、意図を持って表現と理論を結びつけた演奏ができるようにする。また演奏をビデオ撮影して、演出、編集する。これを動画投稿サイトで共有することにより、受講者が互いの作品を評価し、意見交換する。	
専門科目	メディア創作演習④	本科目はピアノミュージッククリエイターコースに開講する科目である。メディア創作演習①～③での学修を基に、グループによる創作を行う。各回の課題を基に、メロディー創作、形式の理解、和音の学修などを包括して行い、意図と意志が感じられる演奏ができるようにする。また音楽ビデオ作品を創作し、これを動画投稿サイトで共有することにより、受講者が互いの作品を評価し、意見交換する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	インターンシップ	本科目は指導者を目指す学生に必要な知識、音楽力、指導力、コミュニケーション力をつけることを目的としている。指導に用いる教材の選択からグループでの模擬レッスン、意見交換、実習後の発表、アンサンブル演奏、発表会企画などをおこなう。これらを通して、楽譜の読み方、伴奏づけなどの指導の方法と、成果発表の実施方法を学修することによって、指導法の全般を修得することができる。	
専門科目	指導教材研究	ピアノを学ぶにあたり用いる教材とは、初心者にとって最初の出会いでもあり、それがその後の習熟度の向上に大きな影響を与えることは明らかである。したがって、教材の選択には十分に意を用いなければならない。ピアノ導入期向けの教材には多種多様なものがある。本科目ではそれらの教材を検討し、それぞれの教材の特徴、特質を理解する。また、これをレポートにまとめる。これにより論旨の展開の仕方を学び、論文の書き方を学ぶ。	
専門科目	指導者基礎Ⅰ	指導者となるためには何が必要であるかを知り、ピアノ指導者となるための基本的な事柄を学ぶ。初歩の段階で自身が学んだ教本を再研究することにより、指導法全般に関する概要を理解する。ピアノ指導者としての視点を持つことができるようになる。主に導入及び初級教材を研究することにより、各教育内容の特色や到達目標を知り、実践に活かせるようになる。様々な作曲家の小品を数多く研究することにより、音楽的な知識や視野が広がり、進度に相応しい選曲ができるようになる。指導者としての基礎能力の向上を図る。	
専門科目	指導者基礎Ⅱ	ピアノ指導者となるための基本的な事柄を学ぶ。初級教材から難易度の高い中級教材、大人の初心者のための教材を研究し、大人、子どもに関わらず指導法全般についての概要を理解する。親とのコミュニケーションの取り方、大人の生徒との接し方についても教員、学生同士で意見交換する。その上で指導に必要なピアノ小品を多数演奏し、作曲家や作品についての知識を増やす。音楽会等の企画を実践することによって、演奏者の立場、マネジメントの立場が理解でき、自己能力の向上と確立を図る。	
専門科目	児童心理	人は生涯にわたり変化する存在であり、特に子どもの1日1日の変化は著しい。乳児期から児童期(0歳頃～12歳頃)までの子どもの心理的、身体的発達を学び、この時期の子どもがどのような道筋をたどり成長・発達していくか、様々な側面から学修していく。また、それぞれの時期の子どもの発達の特徴を知り、今後の音楽活動に活かすことができる。加えて、現代社会の中での子どもの育ちに対する保障について考えることで、人の発生、人の尊厳を再考し、社会的な教養を身につけることができる。	
専門科目	卒業演奏	本科目はピアノ演奏家Ⅱコースに在籍し、ピアノ実技Ⅰとピアノ実技Ⅱを履修する学生に開講する科目である。これまでの演奏法や楽曲に関する研究、コンクールへの参加や演奏会等の豊富な実践的経験の成果を発表するために演奏会形式で行う。4年間の集大成として相応しい内容の演奏が求められる。ピアニストとして必要な様々な能力を獲得することができる。また演奏上必要なレパートリーに精通するようになる。	
専門科目	卒業論文	ピアノ指導者コース4年間の総括として、3年次までのピアノ実技、西洋音楽史、和声学等、数々の授業で修得した知識を基にテーマを設定し、担当教員の指導の下に研究を重ね、卒業論文として執筆する。前期は論文執筆のスキルを養成するクラス授業を行い、後期は指定された論文指導担当教員の指導を受け論文を完成させ、論文発表と口頭試問審査を行う。多くの文献に触れながら、深く考察することにより演奏者として必要な知識を高め、文章表現力、構成力など職業に就く上で必要なスキルを向上させることができる。	
専門科目	オルガンⅠ①	オルガンの実技個人レッスンである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。本科目では、オルガンのしくみ(構造、パイプの種類、ストップの種類など)、オルガン史を把握し、演奏姿勢、古典的運指、アーティキュレーション、ペダル奏法を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	オルガンⅠ②	オルガンの実技個人レッスンである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。本科目では、オルガンⅠ①で学修した内容を応用し、J.S.バッハの初期の作品を取り上げる。どの作曲家(または国)から影響を受けたのかを知り、読譜力、アナリーゼ力を高める。テンポリレーションを修得する。オーダーメイドであるオルガンの特性や個性を知るために、日本ならではの各地で行われているホールや教会などに設置されているオルガンについても学ぶ。	
専門科目	オルガンⅠ③	オルガンの実技個人レッスンである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。本科目では、フランス古典の作品を取り上げる。今までのドイツ作品と根本的に異なるオルガン語法、拍節感を学ぶ。重要なジャンルであるミサ曲の中で、オルガンの典礼上の役割を知り、グレゴリオ聖歌についても学ぶ。ミサに関わる作品の時代背景を調べ、頻繁に移る趣味(センス)の変化を知る。フランス古典特有の数々の裝飾音、ストップの組み合わせを知り、イネガルを修得する。	
専門科目	オルガンⅠ④	オルガンの実技個人レッスンである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。本科目はこれまでの総括となる。卒業試験曲として、J.S.バッハの後期の作品に取り組む。バッハ作品の緻密に組み立てられたポリフォニーを理解し、全ての声部を生き生きと歌うことができるようにする。時期によって異なるバッハの楽器と照らし合わせて、それが作品にどのように反映されているか、曲の構成、調性の性格、バッハの他のジャンルの作品との関連等を学ぶ。	
専門科目	オルガンⅡ①	グループの形態で行うオルガンの実技レッスンである。オルガン演奏により得られるさまざまな知識や技術、演奏することの喜びや厳しさを通じて、音楽を多角的に捉え、理解する能力を養う。学修者それぞれのレベルに応じた課題に取り組むことにより、演奏能力を高め、各自の専攻実技への応用力を養う。本科目ではオルガンのしくみ(構造、パイプの種類、ストップの種類など)、オルガンの歴史を把握し、演奏姿勢、古典的運指、アーティキュレーション、ペダル奏法を修得する。ルネッサンス時代の作品を中心に実際に演奏する。	
専門科目	オルガンⅡ②	グループの形態で行うオルガンの実技レッスンである。さまざまな知識や技術、演奏することの喜びや厳しさを通じて、音楽を多角的に捉え、理解する能力を養う。学修者それぞれのレベルに応じた課題に取り組むことにより、演奏能力を高め、各自の専攻実技への応用力を養う。本科目では、ハルモニウムやリードオルガン作品など、フランス・ロマン派の作品を取り上げる。古典的アーティキュレーションとは異なったレガート奏法を学ぶ。実際に設置されている様々なオルガンからオーダーメイドであるオルガンの特性や個性を知る。	
専門科目	オルガンⅡ③	グループの形態で行うオルガンの実技レッスンである。さまざまな知識や技術、演奏することの喜びや厳しさを通じて、音楽を多角的に捉え、理解する能力を養う。本科目では通奏低音を学ぶ。数字の理解、課題のトレーニングを重視する。また、お互いの課題の内容を聴いて、感想を言い合い、通奏低音を担当する者、コーラルを歌う者(弦楽器や管楽器が専攻の学生は各自の楽器を演奏する)に分かれて、グループレッスンならではのアンサンブルを実践する。	
専門科目	オルガンⅡ④	グループの形態で行うオルガンの実技レッスンである。さまざまな知識や技術、演奏することの喜びや厳しさを通じて、音楽を多角的に捉え、理解する能力を養う。本科目ではこれまでに培った知識、演奏技術を総括する。技術的に難度の高いフランス・ロマン派の作品に取り組む。	
専門科目	電子オルガンⅠ①	電子オルガンの演奏技術、表現力を高めることを目的として、スコアリーディングの基礎、音色設定、アレンジの基礎を学修する。クラシック音楽からポピュラー音楽まで幅広い音楽ジャンルを包括して学び、様々な作品を数多く経験していく中で、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求する。電子オルガン演奏に必要な総合的音楽力を身につけるための学修を主とするが、指導者を目指す者には資格取得のための学修にも対応する。担当教員と相談の上、各自の適性や能力、目指す将来像に合わせて具体的目標を立てて学修していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	電子オルガンⅠ②	電子オルガンの演奏技術、表現力を高めることを目的として、楽曲を理解した上での編曲、自ら楽器の機能を活かした音色設定に基づいた演奏を学修する。クラシック音楽からポピュラー音楽まで幅広い音楽ジャンルを包括して学び、様々な作品を数多く経験していく中で、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求する。電子オルガン演奏に必要な総合的音楽力を身につけるための学修を主とするが、指導者を目指す者には資格取得のための学修にも対応する。	
専門科目	電子オルガンⅠ③	電子オルガンの演奏技術、表現力を高めることを目的として、電子オルガンⅠ①②で学修した内容を基に、構造がより複雑な楽曲の編曲、音色設定に取り組み、多様な奏法を修得する。クラシック音楽からポピュラー音楽まで幅広い音楽ジャンルを包括して学び、様々な作品を数多く経験していく中で、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求する。電子オルガン演奏に必要な総合的音楽力を身につけるための学修を主とするが、指導者を目指す者には資格取得のための学修にも対応する。	
専門科目	電子オルガンⅠ④	電子オルガンの演奏技術、表現力を高めることを目的に、即興演奏力をはじめとする、自由な演奏表現も身につけ、自分自身の音楽を確立し演奏表現をする。クラシック音楽からポピュラー音楽まで幅広い音楽ジャンルを包括して学び、様々な作品を数多く経験していく中で、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求する。電子オルガン演奏に必要な総合的音楽力を身につけるための学修を主とするが、指導者を目指す者には資格取得のための学修にも対応する。	
専門科目	電子オルガンⅡ①	電子オルガンの実技グループレッスンである。グループという形態で行うことにより、音楽の楽しみを知り、コミュニケーション力を高める。個々の演奏力を向上させるため、担当教員と相談の上、各人のレベルに合わせて年次目標を立て学修していく。電子オルガンの多様な音色に触れ、弦・管・打楽器等の表現法を理解し、それらの表現のための電子オルガン奏法を修得する。本科目では、入門者として演奏姿勢から入り、併せて楽器の機能、コード奏法など、電子オルガンを演奏することに必要な知識も学んでいく。	
専門科目	電子オルガンⅡ②	電子オルガンの実技グループレッスンである。グループという形態で行うことにより、音楽の楽しみを知り、コミュニケーション力を高める。個々の演奏力を向上させるため、担当教員と相談の上、各人のレベルに合わせて年次目標を立て学修していく。本科目では、電子オルガンⅡ①を踏まえて演奏の基礎固めをし、併せてスコアリーディング、バンド譜の理解など、幅広いジャンルに対応できる力へ繋がる知識を蓄える。	
専門科目	電子オルガンⅡ③	電子オルガンの実技グループレッスンである。グループという形態で行うことにより、音楽の楽しみを知り、コミュニケーション力を高める。個々の演奏力を向上させるため、担当教員と相談の上、各人のレベルに合わせて年次目標を立て学修していく。本科目では電子オルガンⅡ①②で学修した内容を踏まえて、多様なジャンルに対応が可能な音楽力を修得する。また指導者としても必要な総合的音楽力と幅広い応用力を身につけることを目指す。	
専門科目	電子オルガンⅡ④	電子オルガンの実技グループレッスンである。グループという形態で行うことにより、音楽の楽しみを知り、コミュニケーション力を高める。個々の演奏力を向上させるため、担当教員と相談の上、各人のレベルに合わせて年次目標を立て学修していく。本科目では、電子オルガンⅡ①～③での学修を踏まえて、更に多様なジャンルにも対応が可能な音楽力を修得し、自分自身の音楽表現の手段として、電子オルガンを活用できるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	電子オルガンアンサンブル①	クラシック、ポピュラーそれぞれのジャンルの音楽のアンサンブルを行い、幅広い音楽表現の技法を修得する。それぞれのジャンルは、それを専門とする教員が教育を担当する。特にアルト記号や移調楽器の読譜の能力を身につける。これにより音楽実践の多様な現場に対応できるようになる。 (オムニバス方式／全30回) (136 寺島 康朗／25回) クラシック音楽の古典派の楽曲を中心にスコアリーディングし、アンサンブルの基礎を学修する。 (280 池田 雅明／5回) ポピュラー音楽の演奏に必須なコードネームの成り立ちを理解し、多様なリズムパターンを修得する。	オムニバス方式
専門科目	電子オルガンアンサンブル②	クラシック、ポピュラーそれぞれのジャンルの音楽のアンサンブルを行い、幅広い音楽表現の技法を修得する。それぞれのジャンルは、それを専門とする教員が教育を担当する。特にテナー記号や移調楽器の読譜の能力を身につける。これにより音楽実践の多様な現場に対応できるようになる。 (オムニバス方式／全30回) (136 寺島 康朗／25回) クラシック音楽のロマン派に属する作曲家の作品を対象に、和声進行に合わせたアゴーギクと音色作りを学修する。 (280 池田 雅明／5回) ポピュラー音楽の演奏に必須なコードネームの成り立ちを理解し、より多様なリズムパターンを修得する。	オムニバス方式
専門科目	電子オルガンアンサンブル③	クラシック、ポピュラーそれぞれのジャンルの音楽のアンサンブルを行い、幅広い音楽表現の技法を修得する。それぞれのジャンルは、それを専門とする教員が教育を担当する。特に変拍子の楽曲の読譜の能力を身につける。これにより音楽実践の多様な現場に対応できるようになる。 (オムニバス方式／全30回) (136 寺島 康朗／25回) クラシック音楽のロマン派に属する作曲家及び近代の作曲家の作品を対象に、和声進行に合わせたアゴーギクと音色作りを学修し、適切なレジストレーションができるようにする。 (280 池田 雅明／5回) ポピュラー音楽のアドリブができるようにする。	オムニバス方式
専門科目	電子オルガンアンサンブル④	クラシック、ポピュラーそれぞれのジャンルの音楽のアンサンブルを行い、幅広い音楽表現の技法を修得する。それぞれのジャンルは、それを専門とする教員が教育を担当する。特にオーケストラの特殊奏法の読譜の能力を身につける。これにより音楽実践の多様な現場に対応できるようになる。 (オムニバス方式／全30回) (136 寺島 康朗／25回) クラシック音楽の作曲家のそれぞれに個性的な様式に即した演奏ができるようにする。それぞれの様式にふさわしいレジストレーションができる。 (280 池田 雅明／5回) ポピュラー音楽でのアドリブ能力を強化する。	オムニバス方式
専門科目	電子オルガン演習①	クラシック、ジャズ、ポピュラーを問わず電子オルガン奏者として必要な幅広い音楽知識と感性を身につける。実際に演奏を行いながら、音楽の基礎となる楽典やコード進行法を学修し、楽曲の編曲、即興演奏またスコアリーディングに通じる応用力を身につけ、演奏力の向上を目指す。本科目では、音楽の構成などを理解し、実技(即興等を含む)、編曲、オリジナル制作などに反映させるための基礎としてコード進行法を学修する。また、音楽教室講師採用試験に必要な知識も身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	電子オルガン演習②	クラシック、ジャズ、ポピュラーを問わず電子オルガン奏者として必要な幅広い音楽知識と感性を身につける。実際に演奏を行いながら、音楽の基礎となる楽典やコード進行法を学修し、楽曲の編曲、即興演奏またスコアリーディングに通じる応用力等を身につけ、演奏力の向上を目指す。本科目では電子オルガン演習①を基礎として、四声体と和声、メロディーに適切な和音付け及びリハーモナイズ、高次のメロディーの作成と即興演奏、カウンターメロディーを発展させたオブリガートの作成を学修する。また、音楽教室講師採用試験に必要な知識も身につける。	
専門科目	電子オルガン演習③	クラシック、ジャズ、ポピュラーを問わず電子オルガン奏者として必要な幅広い音楽知識と感性を身につける。実際に演奏を行いながら、音楽の基礎となる楽典やコード進行法を学修し、楽曲の編曲、即興演奏またスコアリーディングに通じる応用力等を身につけ、演奏力の向上を目指す。本科目では電子オルガン演習①②を踏まえて、鍵盤奏者として必要な音楽的な応用演奏のための基礎的な素養を身につける。また、音楽教室講師採用試験に必要な知識も身につける。	
専門科目	電子オルガン演習④	クラシック、ジャズ、ポピュラーを問わず電子オルガン奏者として必要な幅広い音楽知識と感性を身につける。実際に演奏を行いながら、音楽の基礎となる楽典やコード進行法を学修し、楽曲の編曲、即興演奏またスコアリーディングに通じる応用力等を身につけ、演奏力の向上を目指す。また、音楽教室講師採用試験に必要な知識も身につける。本科目では、電子オルガン演習①～③などで培った能力を基にコード奏、ヘッドアレンジによる演奏など、電子オルガンを使い即興的で自由な音楽表現を学修する。	
専門科目	電子楽器研究	電子オルガンは、従来のアコースティック楽器とは異なり、コンピューターを内蔵して様々な機能を持つ。これらの機能を活かして多様な音楽表現をおこなうために、演奏者はこの楽器に関する多種多様な知識と技術を修得しなければならない。本科目では、ハードとしての楽器、リズム、アコースティック楽器、音の認知、音響、国際性など、様々なテーマを設定し、広く電子楽器に関する内容を学修する。電子オルガンの演奏のみならず、レジストレーション設定・操作、作曲編曲等の様々な事柄を身につける。	
専門科目	リトミック①	音楽の三大要素の一つであるリズムと、それに伴うニュアンスを、聴覚に偏ることなく、全身を使って実体験する。ここから、抽象的にではなく、具体的に音楽を捉える。同時に、音高に対する明確な識別、音色の聴き分け、終止感や音階各音の和声的な働きの認識が可能なソルフェージュ力を培う。これにより発展的に、二声以上のリズムの聴き分け、対位法についての基本的感覚、クロスリズム(3:2, 2:3)を修得していく。	
専門科目	リトミック②	リトミック①で修得した内容をもとに、ダルクローズ・メソッドを用いて更に学修内容を深めていく。音高、音色、調性感を磨き、七の和音の聴き分け、及び長調・短調の働きを理解していく。リズムでは、変拍子、クロスリズム(4:3, 3:4)、ヘミオラ等を修得していく。このような、指導者としても表現者としても不可欠な内容を、全身を使って学ぶことによって、音楽を平面的でなく、立体的に表現できるようになることを目標とする。	
専門科目	ピアノ指導法研究	本科目はピアノ指導者コースに開講する科目である。この授業はピアノ指導者に求められる指導力を身につけることを目標とし、主に大人のピアノ学習者へのレッスン方法を中心に研究する。前期はピアノ指導に必要な心構え、更には大人向けのピアノ指導教材について研究した後、「大人の初心者に対する模擬レッスン」を指導する側と学習する側の両方の立場から行い、後期には同様に「大人の上級者」を対象とした模擬レッスンをを行い、コミュニケーション力の向上を図る。	
専門科目	ピアノ指導法特論	本科目はピアノ指導者コースに開講する科目である。本科目では、卒業後有能な指導者として活躍するために求められる多面的な能力を、学内外の様々な分野の専門家を招いて、身につけることを目標とする。複数の教員の考え方を知ることにより自身の演奏についても精神面、肉体面からの考察を深め演奏力を高めながら、同時に様々な指導法についての知識を得て生徒指導に関するスキルの向上を図る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	バレエ音楽演習	「バレエは音楽の視覚化」と言われることがある。本科目はこの観点から音楽を感覚及び知性から知覚・把握する。特に、バレエのリズムについて深く知ることで、音楽の拍節感と舞踊の拍節感を連結し、音楽的な感動が舞踊の感動につながるような実践力を育む。また、旋律と響きのもつドラマ性に着目し、それを舞踊に応用できる能力を身につける。	
専門科目	鍵盤演奏表現Ⅰ	ピアノ演奏経験のない学生を対象とする、ミュージック・ラボラトリーシステムによる科目で、グループレッスンの形態で行う。基本的音楽知識やピアノの基本的演奏力の修得とともに、多様化した音楽に対応し得る能力の開発を目標とする。毎回の授業では楽典、音楽の基本知識、音楽理論を鍵盤と結びつけながら学ぶとともに、ピアノ演奏に必要なテクニックを基礎から学修し、難易度の低い楽曲から順に演奏できるようにしていく。またポピュラー音楽やアンサンブル、即興演奏も取り入れて、音楽を総合的に把握できるようにする。	
専門科目	鍵盤演奏表現Ⅱ	教職課程履修者のうちピアノ演奏経験の少ない学生を対象とした科目である。教育実習に向けて、前期は唱歌の弾き歌いができるようにし、後期は合唱指導の際に必要なスキルを身につけることを目的としている。ミュージック・ラボラトリーシステムを使用して中学校歌唱共通教材を取り上げ、合唱曲は中学・高校の授業で歌う機会が多い合唱曲をレベル別を選択し、教育実習で円滑に伴奏ができるようレパートリーを増やしていく。テーマとなる楽曲を基に、音楽の約束事である楽典の確認、コードネームなどの理論面を学び、楽曲を多方面から理解する。	
専門科目	鍵盤演奏表現Ⅲ	鍵盤楽器による自由な演奏表現の中から、特に高度な演奏表現である伴奏付け、即興演奏、弾き歌い、移調奏等を勉強する。授業ではミュージック・ラボラトリーシステムを使用する。音楽家・指導者に必要なコード奏の力を特に強化する。授業ごとに与えられた様々な曲想の課題を解き、実践する。パターンに当てはめるのではなく、柔軟な伴奏付けができるようにする。グレード試験や、音楽教室講師試験対策も視野に入れる。	
専門科目	鍵盤演奏表現Ⅳ	ピアノ演奏経験がある学生を対象とした科目で、ミュージック・ラボラトリーシステムを使用する。読めて弾く事のできるスコアリーディング力を身につける。オーケストラスコアの読譜を楽器法を含めた基本からはじめ、ドリル課題によりスコアリーディングの実践を行う。また、実際に鍵盤を使い、アンサンブルを通して、音楽のコミュニケーション能力の向上と、ピアノによる表現力を強化していくことを目標とする。	
専門科目	海外研修Ⅰ	本学がイタリアにもつ研修施設を拠点とし、外国人講師による個人レッスンと、オペラや室内楽を実習するほか、イタリア語会話を学ぶ。更に、イタリアの風土・習慣・文化等に触れながらヨーロッパを総合的に体験し、芸術に対する感性や音楽観を養い向上させる。	
専門科目	海外研修Ⅱ	本科目では次の通り複数の研修内容を実施する。アートマネジメント・舞台スタッフ研修では、世界有数の芸術文化施設を訪問し、バックステージツアーや専門家の講義を受講し、各種の舞台芸術を鑑賞する。ニューヨーク見学研修ではアメリカのニューヨークおよびその近郊において市内見学、舞台鑑賞等を行う。バレエ研修では、イギリスのロンドンにおいて美術館や博物館の見学、舞台鑑賞をし、現地講師によるバレエ・クラスを受講する。ミュージカル実技研修ではアメリカのニューヨークにおいて、ダンス、ヴォーカルのレッスン受講、市内見学、舞台鑑賞をする。ヨーロッパ実技研修では、本学イタリア研修所での実技レッスン受講のほか、イタリア各都市を巡る。	
専門科目	海外研修Ⅳ	オーストリア、イタリア等のヨーロッパ各都市を巡り、本場ヨーロッパ文化の源流に触れることを目的とする。現地での研修(都市見学等)のほか、学内での事前研修と課題(レポート)提出を含めた学修時間により、単位を付与する。	
専門科目	海外研修Ⅴ	普段国内で体験することのできない海外での音楽体験は、学生の意識に大きな影響を与え、今後の演奏、音楽活動の力となる。本科目では、事前学修として、海外における個人レッスンやコンサート及びコンクール等の準備、出演にかかる学修を担当教員の指導のもとで総合的に行う。履修にあたっては、その計画を、教員で構成される海外研修委員会により確認し、実施後にレポートを課する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	海外研修VI	普段国内で体験することのできない海外での音楽体験は、学生の意識に大きな影響を与え、今後の演奏、音楽活動の力となる。本科目では、事前学修として、海外における個人レッスンやコンサート及びコンクール等の準備、出演にかかる学修を担当教員の指導のもとで総合的に行う。履修にあたっては、その計画を、教員で構成される海外研修委員会により確認し、実施後にレポートを課する。	
専門科目	海外研修VII	普段国内で体験することのできない海外での音楽体験は、学生の意識に大きな影響を与え、今後の演奏、音楽活動の力となる。本科目では、国内での事前学修を十分に行い、海外における個人レッスンやコンサート及びコンクール等の準備、出演にかかる学修を担当教員の指導のもとで総合的に行う。履修にあたっては、その計画を、教員で構成される海外研修委員会により確認し、実施後にレポートを課する。	
専門科目	海外研修VIII	普段国内で体験することのできない海外での音楽体験は、学生の意識に大きな影響を与え、今後の演奏、音楽活動の力となる。本科目では、事前学修として、海外における個人レッスンやコンサート及びコンクール等の準備、出演にかかる学修を担当教員の指導のもとで総合的に行う。履修にあたっては、その計画を、教員で構成される海外研修委員会により確認し、実施後にレポートを課する。	
専門科目	海外研修IX	普段国内で体験することのできない海外での音楽体験は、学生の意識に大きな影響を与え、今後の演奏、音楽活動の力となる。本科目では、1年次に積んだ音楽経験を活かし、事前学修として、海外における個人レッスンやコンサート及びコンクール等の準備、出演にかかる学修を担当教員の指導のもとで総合的に行う。履修にあたっては、その計画を、教員で構成される海外研修委員会により確認し、実施後にレポートを課する。	
専門科目	海外研修X	普段国内で体験することのできない海外での音楽体験は、学生の意識に大きな影響を与え、今後の演奏、音楽活動の力となる。本科目では、1年次に積んだ音楽経験を活かし、事前学修として、海外における個人レッスンやコンサート及びコンクール等の準備、出演にかかる学修を担当教員の指導のもとで総合的に行う。履修にあたっては、その計画を、教員で構成される海外研修委員会により確認し、実施後にレポートを課する。	
専門科目	海外研修XI	普段国内で体験することのできない海外での音楽体験は、学生の意識に大きな影響を与え、今後の演奏、音楽活動の力となる。本科目では、1年次に積んだ音楽経験を活かし、事前学修として、海外における個人レッスンやコンサート及びコンクール等の準備、出演にかかる学修を担当教員の指導のもとで総合的に行う。履修にあたっては、その計画を、教員で構成される海外研修委員会により確認し、実施後にレポートを課する。	
専門科目	海外研修XII	普段国内で体験することのできない海外での音楽体験は、学生の意識に大きな影響を与え、今後の演奏、音楽活動の力となる。本科目では、1年次に積んだ音楽経験を活かし、国内での事前学修を十分に行い、海外における個人レッスンやコンサート及びコンクール等の準備、出演にかかる学修を担当教員の指導のもとで総合的に行う。履修にあたっては、その計画を、教員で構成される海外研修委員会により確認し、実施後にレポートを課する。	
専門科目	海外研修XIII	普段国内で体験することのできない海外での音楽体験は、学生の意識に大きな影響を与え、今後の演奏、音楽活動の力となる。本科目では、1～2年次に積んだ音楽経験を活かし、国内での事前学修を十分に行い、海外における個人レッスンやコンサート及びコンクール等の準備、出演にかかる学修を担当教員の指導のもとで総合的に行う。履修にあたっては、その計画を、教員で構成される海外研修委員会により確認し、実施後にレポートを課する。	
専門科目	海外研修XIV	普段国内で体験することのできない海外での音楽体験は、学生の意識に大きな影響を与え、今後の演奏、音楽活動の力となる。本科目では、1～2年次に積んだ音楽経験を活かし、国内での事前学修を十分に行い、海外における個人レッスンやコンサート及びコンクール等の準備、出演にかかる学修を担当教員の指導のもとで総合的に行う。履修にあたっては、その計画を、教員で構成される海外研修委員会により確認し、実施後にレポートを課する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	器楽実技Ⅰ①	本科目は、弦・管・打楽器演奏家Ⅰ・Ⅱコースの実技個人レッスンである。演奏家コースとしての目的意識を明確に持ち、専攻する楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術を確認させ、音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。アーティストとしての能力を総合的に高め、感性豊かな表現能力を身につける。	
専門科目	器楽実技Ⅰ②	本科目は、これまでより高度な作品に取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、演奏技術の総合的な向上を目指す。基礎力の向上とともに、その応用として様々な作品を取り上げ、ピアノとのアンサンブルやアナリーゼを充実させ、音楽を表現する方法について多くの可能性や選択肢を身につける。演奏する際に生じてくる技術的な問題点を克服する練習方法を学び実践することにより、高い適応力、確実性を備え持った演奏家を育てる。	
専門科目	器楽実技Ⅰ③	本科目は、これまでの学修に加えて、作品の背景にある時代性や地域性も含めて考え、深い音楽的表現を追求するために必要な能力を身につける。主体的な表現に着目し、学生自身が考える解釈を担当教員と意見交換するなどして、固定観念にとらわれない幅広い知識を身につける。実技試験においては、学んできた成果を発表するにふさわしい作品を取り上げ、技術、表現力、スタイル、ひいては自分の個性や演奏理念にいたるまでを余すことなく発揮した演奏ができるようになる。	
専門科目	器楽実技Ⅰ④	本科目は、これまでに修得した演奏技術、音楽的知識等を基に、演奏家として更に学生自身の音楽的方向と目的意識を明確にし、作品成立の背景や内容を深く掘り下げた分析を行う。また、作曲家毎の特徴や音楽理論、作品の歴史的背景や様式を十分に理解し、演奏にその知識を自在に反映させることを目指す。改めて自身の演奏能力を客観的に分析し、改善すべき点においては理論的に思考することで、プロフェッショナル奏者への第一歩としての自覚を持つことができる。	
専門科目	器楽実技Ⅱ①	本科目は、弦・管・打楽器演奏家Ⅰ・Ⅱコースの実技個人レッスンであり、器楽実技Ⅰ①を強化するものである。演奏家コースとしての目的意識を明確に持ち、専攻する楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術を確認させ、音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。アーティストとしての能力を総合的に高め、感性豊かな表現能力を身につける。	
専門科目	器楽実技Ⅱ②	本科目は、弦・管・打楽器演奏家Ⅰ・Ⅱコースの実技個人レッスンであり、器楽実技Ⅰ②を強化するものである。これまでより高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。また器楽実技Ⅰ①の応用として様々な作品を取り上げ、ピアノとのアンサンブルやアナリーゼを充実させ、音楽を表現する方法について多くの可能性を見つける。演奏する際に生じてくる技術的な問題点を克服する練習方法を学び実践することにより、高い適応力、確実性を備え持った演奏家を育てる。	
専門科目	器楽実技Ⅱ③	本科目は、弦・管・打楽器演奏家Ⅰ・Ⅱコースの実技個人レッスンであり、器楽実技Ⅰ③を強化するものである。これまでの学修に加えて、作品の背景にある時代性や地域性も含めて考え、深い音楽的表現を追求するために必要な能力を身につける。主体的な表現に着目して学生自身が考える解釈を演奏に反映し、固定観念にとらわれない幅広い知識を身につける。実技試験においては、学んできた成果を発表するにふさわしい作品を取り上げ、技術、表現力、スタイル、ひいては自分の個性や演奏理念にいたるまでを余すことなく発揮した演奏ができるようになる。	
専門科目	器楽実技Ⅱ④	本科目は、弦・管・打楽器演奏家Ⅰ・Ⅱコースの実技個人レッスンであり、器楽実技Ⅰ④を強化するものである。これまでに修得した演奏技術、音楽的知識等を基に、演奏家として更に学生自身の音楽的方向と目的意識を明確にし、作品成立の背景や内容を深く掘り下げた分析を行う。また、作曲家毎の特徴や音楽理論、作品の様式を十分に理解し、その知識を演奏を通じて発揮させることを目指す。自身の能力を客観的に分析し、改善すべき点においては理論的に思考することで、プロフェッショナル奏者への第一歩としての自覚を持つ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	器楽実技Ⅲ①	本科目は、弦・管・打楽器演奏家Ⅱコースに開講する実技個人レッスンであり、器楽実技Ⅰ①、器楽実技Ⅱ①を強化するものである。演奏家コースとしての目的意識を明確に持ち、専攻する楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術を確立させ、音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。アーティストとしての能力を総合的に高め、感性豊かな表現能力を身につける。	
専門科目	器楽実技Ⅲ②	本科目は、弦・管・打楽器演奏家Ⅱコースに開講する実技個人レッスンであり、器楽実技Ⅰ②、器楽実技Ⅱ②を強化するものである。これまでより高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。また様々な作品を取り上げ、アンサンブルやアナリーゼの機会を充実させ、音楽を表現する方法について多くの可能性を見つける。演奏する際に生じてくる技術的な問題点を克服する練習方法を学び実践することにより、高い適応力、確実性を備え持った演奏家を育てる。	
専門科目	器楽実技Ⅲ③	本科目は、弦・管・打楽器演奏家Ⅱコースに開講する実技個人レッスンであり、器楽実技Ⅰ③、器楽実技Ⅱ③を強化するものである。作品の背景にある時代性や地域性を考え、深い音楽的表現を追求するために必要な能力を身につける。主体的な表現に着目して学生自身が考える解釈を演奏に反映し、固定観念にとらわれない幅広い知識を身につける。実技試験においては、学んできた成果を発表するにふさわしい作品を取り上げ、技術、表現力、スタイル、ひいては自分の個性や演奏理念にいたるまでを余すことなく発揮した演奏ができるようになる。	
専門科目	器楽実技Ⅲ④	本科目は、弦・管・打楽器演奏家Ⅱコースに開講する実技個人レッスンであり、器楽実技Ⅰ④、器楽実技Ⅱ④を強化するものである。演奏家コースとしての目的意識を明確に持ち、専攻する楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術を確立させ、音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。アーティストとしての能力を総合的に高め、感性豊かな表現能力を身につける。	
専門科目	器楽Ⅰ①	本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、基礎的なテクニックを確立させることや楽譜から音楽的な情報を読み取る力を養うことを目指す。また、ピアノとのアンサンブルにも取り組み、音楽を表現することの基礎をはじめ、個々の長所や短所を理解し、短所を克服するための手段を学ぶ。これらにより音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本、総合的な演奏技術力を身につけることができる。	
専門科目	器楽Ⅰ②	本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目標に学修する。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏を目指す。学修した様々な楽曲を取り組むことにより、演奏家として、また指導者としての能力を高め、学生ひとり一人に適した将来を見極めることができるようになる。	
専門科目	器楽Ⅰ③	本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、豊かな表現力と個性を伴った演奏を目指す。これまで積み上げてきた学修成果を軸に、更に高度な作品や様々な時代の作品にも取り組む。これにより多彩なレパートリーを得ることができる。また演奏者として演奏技術のみならず、精神面のコントロールやステージマナーについても学修し、より実践的な力を身につける。	
専門科目	器楽Ⅰ④	本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、ひとつの考え方にとらわれない幅広い知識と、色彩感のある表現技術の修得を目指す。卒業後の進路に合わせ、自己の目標に向けて主体的に学修し、総合的な技術力と表現力を自身の演奏に反映させることができるようになる。卒業試験ではこれまでよりも長い演奏時間を可能とし、4年間の学修成果を存分に発揮することができる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	器楽Ⅱ①	本科目はグループの形態で行われる実技レッスンである。弦・管・打楽器のうち一つの楽器を選択し、履修者の能力や経験に応じて、楽器の歴史などを含む基礎的な内容から学修し、演奏に必要な最低限のスキルを確立することを目指す。また、学修者それぞれのレベルに応じた課題に取り組むことにより、楽器の演奏能力を高めることができる。器楽演奏を通じて演奏することの喜びや厳しさを学び、それぞれの専攻実技への応用力を養うことができる。	
専門科目	器楽Ⅱ②	本科目は器楽Ⅱ①に続き、グループの形態で行われる実技レッスンである。器楽演奏を通じて得られる様々な知識や技術を理解し、各々の専攻における学修に反映させることを目指す。また、基礎的な教材や作品を中心に取り組むことにより、楽器の演奏技術を高め、学生自身の表現力を活かした演奏を目指す。履修者同士の演奏を聴きあうことにより、音楽を広く深く理解する能力を養い、音楽を多角的に捉え理解することができるようになる。	
専門科目	器楽Ⅱ③	本科目は器楽Ⅱ①②に続き、グループの形態で行われる実技レッスンである。これまで学修してきた成果を活かし、徐々に技術的に難易度の高い作品に取り組み、総合的な演奏技術力を身につける。履修者同士のアンサンブルを積極的に行い、一つの作品を仕上げることの難しさ、自分以外のパートを聴く難しさを学ぶ。また同時にアンサンブル能力の向上を目指し、編成が大きくても対応できる技術力、ソルフェージュ能力、コミュニケーション能力を養う。	
専門科目	器楽Ⅱ④	本科目は器楽Ⅱ①～③に続き、グループの形態で行われる実技レッスンである。修得した基礎演奏技術を自己の表現、あるいはアンサンブルグループの表現として演奏できることを目指す。また、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解する力を養い、理論的な思考を学修する。これまでに得た知識や能力を、それぞれの専門においてどのように活かせるかを熟考し、実践していくことで、楽器演奏のみにとらわれない幅広い適応力を身につけることができるようになる。	
専門科目	ヴァイオリンステップアップ①	ヴァイオリンを専攻する学生の基礎実力の強化と、将来にわたり必要なテクニックを身につけるために、本科目の担当教員が、実技の個人レッスン担当教員と連携してレッスンをを行う。ヴァイオリンにおけるボウイングの基本、スケール、分散和音などの演奏方法、左手のフォームやポジションチェンジ、フィンガリング等の基礎を徹底的に学び、正確な演奏法の修得を目指す。	
専門科目	ヴァイオリンステップアップ②	ヴァイオリンを専攻する学生の基礎実力の強化と、将来にわたり必要なテクニックを身につけるために、本科目の担当教員が、実技の個人レッスン担当教員と連携してレッスンをを行う。ヴァイオリンステップアップ①で学修した内容に加え、教本を用いながら3度、6度、オクターブの重音音階、ヴィヴァラートの方法等を取り上げ、様々な楽曲に対応できる技術力を養う。これにより、多角的な観点で能力を確実に発揮することができるようになる。	
専門科目	ヴァイオリンステップアップ③	ヴァイオリンを専攻する学生の基礎実力の強化と、将来にわたり必要なテクニックを身につけるために、本科目の担当教員が、実技の個人レッスン担当教員と連携してレッスンをを行う。ヴァイオリンステップアップ①②で修得した技術をより確実なものとするための手段を自ら考え、実践していくことを目標とする。加えて、個々の弱点を判断し克服することに取り組み、高い適応力を備え持ったヴァイオリニストを目指す。	
専門科目	ヴァイオリンステップアップ④	ヴァイオリンを専攻する学生の基礎実力の強化と、将来にわたり必要なテクニックを身につけるために、本科目の担当教員が、実技の個人レッスン担当教員と連携してレッスンをを行う。これまで学修した奏法など総合的な技術力を更に高め、実際の演奏に反映させる能力を身につける。自己の音楽に特化した表現をすることを目指し、安定感があり表現豊かな演奏ができるようになることを目標とする。	
専門科目	合奏Ⅰ①	多様な編成の合奏における演奏実践により演奏技術を向上させる。特に自分の楽器の特色と合奏における役割を学び、アンサンブルの基本的な素養を身につける。フルート、サクソフォン、クラシックギターによる合奏及び吹奏楽、オーケストラにおいて複数の履修者が一つの曲をまとめることで、合奏におけるマナー、ルール、制約などを理解する。ひいては、演奏家として持つべきステージマナーを身につけ、また演奏への高い意識を涵養する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	合奏Ⅰ②	多様な編成の合奏における演奏実践により演奏技術を向上させる。特に自分の楽器の特色と合奏における役割を学び、より高度な演奏技術を身につける。吹奏楽、オーケストラ及びクラシックギターのアンサンブルにおいて複数の履修者が一つの曲をまとめることで、合奏におけるマナー、ルール、制約などを理解する。ひいては、演奏家として持つべきステージマナーを身につけ、また演奏への高い意識を涵養する。	共同
専門科目	合奏Ⅰ③	多様な編成の合奏における演奏実践により演奏技術を向上させる。特に自分の楽器の特色と合奏における役割を学び、演奏技術を強化する。吹奏楽、オーケストラ及びクラシックギターのアンサンブルにおいて複数の履修者が一つの曲をまとめることで、合奏におけるマナー、ルール、制約などを理解する。ひいては、演奏家として持つべきステージマナーを身につけ、また演奏への高い意識を涵養する。	共同
専門科目	合奏Ⅰ④	多様な編成の合奏における演奏実践により演奏技術を向上させる。特に合奏におけるハーモニーと音量のバランスに留意し、プロフェッショナルな演奏技術を身につける。吹奏楽、オーケストラ及びクラシックギターのアンサンブルにおいて複数の履修者が一つの曲をまとめることで、合奏におけるマナー、ルール、制約などを理解する。ひいては、演奏家として持つべきステージマナーを身につけ、また演奏への高い意識を涵養する。	共同
専門科目	合奏Ⅱ	本科目のピアノ専攻者以外を対象としたクラスでは、リコーダーアンサンブルを行う。長い歴史をもち、教育楽器としても使用されることもあるリコーダーの多面性を理解し、基本的な奏法を修得するとともに、リコーダーにとどまらず応用できるアンサンブル能力を高める。 ピアノ専攻者向けのクラスにおいては、前期にピアノの連弾及び2台ピアノのアンサンブルをおこない、相手の演奏を聴くという基本的な姿勢を身につけ、独奏とは異なる演奏技術を修得する。後期はリコーダーの基本的な奏法を学び、アンサンブルの能力を身につける。	
専門科目	合奏Ⅲ①	吹奏楽、オーケストラ、ジャズのビッグバンドにおいて合奏技術を学び、それぞれの公演に向けて集中して一つの音楽を創りあげる。また、各奏者の演奏レベルを高める。大編成による合奏を行う上での様々な制約、約束ごとを理解し、演奏家として必須の人間性、社会性を身につける。	共同
専門科目	合奏Ⅲ②	吹奏楽、オーケストラ、ジャズのビッグバンドにおいて合奏技術を学び、それぞれの公演に向けて集中して一つの音楽を創りあげる。また、各奏者はより高度な演奏技術を修得する。大編成による合奏を行う上での様々な制約、約束ごとを理解し、演奏家として必須の人間性、社会性を身につける。	共同
専門科目	合奏Ⅲ③	吹奏楽、オーケストラにおいて合奏技術を学び、それぞれの公演に向けて集中して一つの音楽を創りあげる。また各奏者は合奏における演奏技術を強化する。大編成による合奏を行う上での様々な制約、約束ごとを理解し、演奏家として必須の人間性、社会性を身につける。	共同
専門科目	合奏Ⅲ④	吹奏楽、オーケストラにおいて合奏技術を学び、それぞれの公演に向けて集中して一つの音楽を創りあげる。また、各奏者はプロフェッショナルな演奏技術を身につける。大編成による合奏を行う上での様々な制約、約束ごとを理解し、演奏家として必須の人間性、社会性を身につける。	共同
専門科目	合奏Ⅳ①	本科目は弦・管・打楽器以外を専攻する学生を対象とする。吹奏楽、オーケストラにおいて合奏技術を学び、それぞれの公演に向けて集中して一つの音楽を創りあげる。また、各奏者の演奏レベルを高める。大編成による合奏を行う上での様々な制約、約束ごとを理解し、演奏家として必須の人間性、社会性を身につける。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	合奏Ⅳ②	本科目は弦・管・打楽器以外を専攻する学生を対象とする。吹奏楽、オーケストラにおいて合奏技術を学び、それぞれの公演に向けて集中して一つの音楽を創りあげる。また、各奏者はより高度な演奏技術を修得する。大編成による合奏を行う上での様々な制約、約束ごとを理解し、演奏家として必須の人間性、社会性を身につける。	共同
専門科目	合奏Ⅳ③	吹奏楽、オーケストラにおいて合奏技術を学び、それぞれの公演に向けて集中して一つの音楽を創りあげる。また、各奏者は合奏における演奏技術を強化する。大編成による合奏を行う上での様々な制約、約束ごとを理解し、演奏家として必須の人間性、社会性を身につける。	共同
専門科目	合奏Ⅳ④	吹奏楽、オーケストラにおいて合奏技術を学び、それぞれの公演に向けて集中して一つの音楽を創りあげる。また、各奏者は合奏における演奏技術を更に強化する。大編成による合奏を行う上での様々な制約、約束ごとを理解し、演奏家として必須の人間性、社会性を身につける。	共同
専門科目	室内楽Ⅰ①	小編成のアンサンブルを数多く経験することで、様式感やハーモニーの捉え方などについて理解を深めるとともに、各自の音楽上の関わりかたを向上させる。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。これにより学年の垣根を越えて、互いに切磋琢磨しながら学修することができる。それぞれの作品を演奏するにあたり、ふさわしい表現や奏法等アンサンブルの基礎を十分に学び、ソロや大編成に発展する際の根幹となる能力を身につける。	
専門科目	室内楽Ⅰ②	小編成のアンサンブルを数多く経験することで、様式感やハーモニーの捉え方などについて理解を深めるとともに、各自の音楽上の関わりかたを向上させる。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。これにより学年の垣根を越えて、互いに切磋琢磨しながら学修することができる。室内楽Ⅰ①の応用としてそれぞれの作品を演奏するにあたり、ふさわしい表現や奏法、グループごとの個性を研究し、ソロや大編成に発展する際の根幹となる能力を身につける。	
専門科目	室内楽Ⅱ①	本科目は弦・管・打楽器とピアノの専攻者を対象として、高水準の小編成のアンサンブルを実践的に学修する。演奏技術を向上させるだけでなく、作曲者とその時代など、作品成立の背景を考慮することで、より深く作品を理解し、音楽性を高める。また、さまざまなジャンルや時代の作品を学び、他の楽器とのアンサンブルを経験することにより、レパートリーを増やす。	
専門科目	室内楽Ⅱ②	本科目は弦・管・打楽器とピアノの専攻者を対象として、より高水準の小編成のアンサンブルを実践的に学修する。演奏技術を向上させるだけでなく、作曲者とその時代など、作品成立の背景を考慮することで、より深く作品を理解し、音楽性を高める。また、さまざまなジャンルや時代の作品を学び、他の楽器とのアンサンブルを経験することにより、レパートリーを増やす。これを通じてプロフェッショナルな演奏家として必要な能力を身につける。	
専門科目	室内楽実習Ⅰ①	弦・管・打楽器演奏家Ⅱコースに開講する科目で、アンサンブルの基礎から高度な演奏表現とアンサンブルへの応用(自主的創造力と技術を十分に活かすことや、高度な作品の演奏、リーダーとしてのコミュニケーションの取り方など)までを、学生の演奏レベルに応じて指導する。自発的にアンサンブルでの創造活動ができ、メンバー同士のコミュニケーションをとり、高度なアンサンブル力を養う。これによりアンサンブルのコンサートで演奏できるだけの十分な演奏技術を修得する。	
専門科目	室内楽実習Ⅰ②	弦・管・打楽器演奏家Ⅱコースに開講する科目で、アンサンブルの基礎から高度な演奏表現とアンサンブルへの応用(自主的創造力と技術を十分に活かすことや、高度な作品の演奏、リーダーとしてのコミュニケーションの取り方など)までを、学生の演奏レベルに応じて指導する。自発的にアンサンブルでの創造活動ができ、メンバー同士のコミュニケーションをとり、高度なアンサンブル力を養う。室内楽実習Ⅰ①の発展としてより高度な演奏技術、ソルフェージュ能力を身につけ、アンサンブルコンサートで演奏できるだけの十分な演奏技術を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	室内楽実習 I ③	弦・管・打楽器演奏家Ⅱコースに開講する科目で、アンサンブルの基礎から高度な演奏表現とアンサンブルへの応用(自主的創造力と技術を十分に活かすことや、高度な作品の演奏、リーダーとしてのコミュニケーションの取り方など)までを、学生の演奏レベルに応じて指導する。自発的にアンサンブルでの創造活動ができ、メンバー同士のコミュニケーションをとり高度なアンサンブル力を養う。室内楽実習 I ①②で修得した知識を發揮しながら、更に難易度の高いアンサンブル作品に取り組み、トップ奏者としての演奏技術を確立する。	
専門科目	室内楽実習 I ④	弦・管・打楽器演奏家Ⅱコースに開講する科目で、アンサンブルの基礎から高度な演奏表現とアンサンブルへの応用(自主的創造力と技術を十分に活かすことや、高度な作品の演奏、リーダーとしてのコミュニケーションの取り方など)までを、学生の演奏レベルに応じて指導する。自発的にアンサンブルでの創造活動ができ、メンバー同士のコミュニケーションをとり高度なアンサンブル力を養う。これまで学修した技術を余すことなく活かして、多彩な創造活動をするための演奏技術を確立する。	
専門科目	コンチェルト実習	弦・管・打楽器演奏家Ⅰコースに開講する科目である。各専攻楽器の実技個人レッスンで演奏研究した協奏曲(コンチェルティエーノなども含む)を、オーケストラや吹奏楽の伴奏で演奏する。独奏パートに加えて、独奏部を支える合奏についても研究し、ピアノ伴奏では経験できない大編成合奏との音楽的なコミュニケーション力の向上を目指す。	
専門科目	コンチェルト実習 I	弦・管・打楽器演奏家Ⅱコースに開講する科目である。各専攻楽器の実技個人レッスンで演奏研究した協奏曲(コンチェルティエーノなども含む)を、オーケストラや吹奏楽の伴奏で演奏する。独奏パートのみならず、独奏部を支える合奏の各声部を細部にわたり研究し、作品全体を精密に理解する。また、ピアノ伴奏では経験できない大編成合奏との音楽的なコミュニケーション・テクニックを修得し、独奏者として際立つ演奏表現力を涵養する。	
専門科目	コンチェルト実習 II	弦・管・打楽器演奏家Ⅱコースに開講する科目である。各専攻楽器の実技個人レッスンで演奏研究した協奏曲(コンチェルティエーノなども含む)を、オーケストラや吹奏楽の伴奏で演奏する。独奏パートに加えて、独奏部を支える合奏についても研究し、ピアノ伴奏では経験できない大編成合奏との音楽的なコミュニケーション力の向上を目指す。	
専門科目	楽器研究	オーケストラで使用される楽器についての見識を高め、音楽を学ぶ者として必要な知識を学修する。弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器、鍵盤楽器のそれぞれの構造、演奏法、特色等を専門的に学び、応用できる力をつけることを目標とする。音楽について考え、語り、深い音楽観を育成しながら、レポート記述、プレゼンテーションをすることより、思考力や判断力、コミュニケーション力を高めることができる。	
専門科目	指揮法Ⅱ①	ウインドシンフォニーコースに開講する科目で、公開レッスン形式で指揮法の指導を受けるとともに、合奏授業において吹奏楽団を指揮して合奏指導を実践する。課題曲を題材にして指揮法及び指導法を学び、劇場において公開演奏会形式で発表を行う。多様なテクニック、表現方法を修得することにより、実際の指導に際し多様な方法で指導展開を考えることができるようになるほか、他学生のレッスンを聴講することにより指揮の多様な可能性を見つけることができる。	
専門科目	指揮法Ⅱ②	ウインドシンフォニーコースに開講する科目で、公開レッスン形式で指揮法の指導を受けるとともに、合奏授業において吹奏楽団を指揮して合奏指導を実践する。指揮法Ⅱ①で学修した成果を踏まえて、自身で選んだ作品を題材にして指揮法及び指導法を学び、劇場において公開演奏会形式で発表を行う。多様なテクニック、表現方法を修得することにより、多様な方法による指導展開を考えることができるようになるほか、他学生のレッスンを聴講することにより指揮の様々な可能性を見つけることができる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	声楽Ⅰ①	声楽実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基づいた呼吸、発声、共鳴に至るまでの歌唱の技術を修得することを目標とする。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら歌う身体を作っていく。イタリア語の正確な発音を覚えるとともに、イタリア古典歌曲(1792年のロッシーニ生誕以前の作曲者による作品)を学び、その演奏法や様式感を理解する。歌唱の基本(発声、呼吸、支え等)を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めていく。	
専門科目	声楽Ⅰ②	声楽実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基づいた歌唱の技術を修得することを目標とする。イタリアベルカントの代表的作曲家であるベッリーニ、ロッシーニ、ドニゼッティの歌曲、及びヴェルディの歌曲まで時代を広げ、その演奏法を学びレパートリーを作っていく。ベルカント唱法の神髄であるレガートなフレーズ作り、息の流れに乗せた均一な響きなどの歌唱の技術を向上させ、その演奏法と様式感を理解する。	
専門科目	声楽Ⅰ③	声楽実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基づいた歌唱の技術を修得し、演奏技術を向上させることを目標とする。声楽Ⅰ②までに学修した歌曲に加え、学生個々の能力と進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲など、選曲の範囲を広げて学んでいく。歌曲ではその詩について理解を深め、オペラアリアではレチタティーヴォの歌い方を学ぶとともに、作品全体やそのアリアの歌われる場面を理解し、歌唱の内容を深めていく。各々の声に合った歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を身につける。	
専門科目	声楽Ⅰ④	声楽実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基づいた歌唱の技術を学び、演奏技術と表現力を向上させることを目標とする。声楽Ⅰ③までの学びの上に、個々の能力、進度、声質に合わせ、主に古典派からロマン派までのオペラアリア、古典から近代までの様々な歌曲等を学び、各々の個性を活かしたレパートリーを獲得していく。楽曲の構成を理解し、安定した技術の上に、歌詞と音楽が一体となった歌唱表現ができるよう、演奏技術を高めていく。	
専門科目	声楽Ⅱ①	ベルカント唱法に基づいた呼吸、発声、共鳴に至るまでの歌唱の基礎を、グループレッスンで段階的に修得する。歌うことにより、音楽の基礎である音程やリズムを身体で覚える。初学者が必ず学ぶイタリア古典歌曲の中から数曲を選択して、イタリア語の発音を学び、全員で、またひとりづつ歌唱する。グループレッスンの特性を活かし、互いに聞き合うことによって「無理のない発声」「美しい響き」を見つけ、「歌う喜び」を味わうとともに、各々の専攻に活かせる音楽的な体験をする。	
専門科目	声楽Ⅱ②	ベルカント唱法に基づいた呼吸、発声、共鳴に至るまでの歌唱の基礎を、グループレッスンで段階的に修得する。声楽Ⅱ①で学んだ歌唱の基礎訓練を継続して行い、安定した発声の技術を身につけていく。進歩、専攻、教職課程履修の状況等によりグループ分けを行い、イタリア歌曲や日本歌曲などから目的に合わせた楽曲を選定して、その歌唱法を学ぶ。グループレッスンの特性を活かし、互いに聞き合うことによって「無理のない発声」「美しい響き」を見つけ、「歌う喜び」を味わうとともに、様々な声楽曲を知り、各々の専攻に活かせる音楽的な体験をする。	
専門科目	声楽Ⅱ③	ベルカント唱法に基づいた呼吸、発声、共鳴に至るまでの歌唱の技術を、グループレッスンで段階的に修得する。声楽Ⅱ①②での学修内容を基に、更に安定した技術の獲得を目指していく。進歩、専攻、教職課程履修の状況等によりグループ分けを行い、目的に合わせて様々な楽曲を学ぶ。グループレッスンの特性を活かし、簡単なアンサンブル曲も選曲に取り入れて「美しい響き」「美しいハーモニー」を作る方法を学ぶ。様々な作品を知り理解を深めることで、各々の専攻への応用力を身につける。	
専門科目	声楽Ⅱ④	ベルカント唱法に基づいた呼吸、発声、共鳴に至るまでの歌唱の技術を、グループレッスンで段階的に学ぶ。進歩、専攻、教職課程履修の状況等によりグループ分けを行い、目的に合わせて様々な楽曲を学ぶ。声楽Ⅱ①～③での学びの上に、更に安定した歌唱の技術を身につけるとともに、歌詞の内容を深く理解し、歌詞と音楽が融合した歌唱表現ができるようになることを目標とする。各々の進歩や個性に合わせ、ソロ曲やアンサンブルなど幅広いジャンルの作品を学び、各々の専攻への応用力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	声楽アンサンブル基礎	オペラ等の重唱を学ぶ前段階として、アンサンブルの基礎力を高める科目である。2声、3声の練習曲を声楽的に歌うことにより、ソルフェージュ能力を高めるとともに、音程・ピッチを正しく取り、美しく声を重ねる力を付けることを目標とする。コールユーブンゲンⅡ、ボツォーリの2声のソルフェージュ、2声、3声のマドリガル等の楽曲を用い、音程、リズム、ピッチ、響き、発音等を意識してアンサンブルをする。また主旋律、内声、低声などのパートが楽曲の構成の中でどのような役割を持つのか、どのように歌うべきかを、楽曲のアナリーゼをしながら学ぶ。	
専門科目	ドイツ歌曲①	歌唱におけるドイツ語の発音を修得し、ドイツ語による声楽作品に慣れ親しむ。発音練習、音楽練習を中心に、いくつかの有名な歌曲作品をレパートリーとすることを目標とする。ドイツ語の発音の規則、開口母音、閉口母音、変母音などの発音を覚えるとともに、辞書を使用せずにドイツ語を読めるようにする。よく知られた古典派作品(ベートーヴェン、モーツァルト、シューベルトなど)を中心に学びながら、日常会話と舞台上で使うドイツ語の発音の違いを知り、音の上に乗せた母音や子音の処理の仕方を、リズム唱や歌唱を通して修得する。	
専門科目	ドイツ歌曲②	ドイツ歌曲①で学修した内容を基に、更に広範なドイツ歌曲の重要な作品を学ぶことにより、声楽的要素と器乐的要素が互いに美しく均衡を保つドイツ歌曲を知り、表現することを目標とする。ロマン派の代表的な作品(シューマン、ブラームス、シュトラウスなど)を中心に学びながら、正しいドイツ語の発音能力を向上させ、息の流れに乗った自然な発音で言葉のニュアンスを大切に歌うことを学ぶ。またドイツ歌曲特有の詩の内的世界を味わうとともに、代表的な詩人についても触れる。	
専門科目	日本歌曲①	日本歌曲の沿革とその代表的な作品を学び、母国語である日本語を美しく発話し、歌唱する能力を身につけることを目標とする。日本歌曲を詩と音楽の両面から研究しながら、日本語の特徴を学び、年代を追って歌曲作品の歌唱を学ぶ。同時に作曲家と詩人、詩についても理解を深め、日本語の美しさとその世界観を味わう。日本歌曲における初期の作品(瀧廉太郎、信時潔、山田耕筰など)を中心に、搖籃期の日本歌曲を知りレパートリーにしていく。	
専門科目	日本歌曲②	日本歌曲①で学修した内容を基に、更に多くの作品を知り、演奏法を深めて各自のレパートリーに取り入れることを目標とする。歌唱における美しい日本語の発話を研究し、楽曲を分析しながら歌曲の知識を深める。中田喜直、團伊玖磨、平井康三郎などの作品を中心に、詩の解釈と理解、歴史的な背景、日本の文化等に触れながら、日本語の感性を磨き、心に響く豊かな歌唱表現を実践する。必要に応じて詩の朗読や解釈についての討議することで、日本歌曲をより深く理解し、歌唱技術や研究意欲を高める。	
専門科目	フランス歌曲①	フランス歌曲の入門にあたる科目である。フランス歌曲の魅力を知り、フランス語の発音、及び歌唱のためのフランス語発音を学修するとともに、フランス音楽の歌唱スタイルの修得を目標とする。12の母音、4つの鼻母音、日本語では使われない筋肉を使う子音などを正しく発音し歌唱できるよう、口の開き方、唇、舌の動かし方等を学習する。メロディックで歌いやすい「ああ、ママ聞いて」「きらきら星」の原曲)、フォーレ「リディア」、モーツァルト「鳥たちよ、年ごとに」などを用いて、フランス歌曲歌唱の基礎を学修する。	
専門科目	フランス歌曲②	フランス歌曲①で学修した内容を発展させる科目である。詩を理解して音楽に結びつける歌唱を目指し、フランス歌曲の特色や魅力を深く探求することを目標とする。フランス音楽の持つフレージングを学び、言葉と音楽が密接に結びつく作品を取り上げ研究していく。フランス語独自の語感やリズム、色合いを、詩の朗読や実際の演奏で味わいながら、詩人や作曲家の時代背景を知るとともに、同時期の絵画等を見ながら理解を深める。また、ピアノパートについても学び、フランス歌曲に必須な和声感、色彩感を修得し、アンサンブル能力を養う。	
専門科目	歌うためのイタリア語	イタリア語の7つの母音と様々な子音、シラブル、アクセントを修得し、テキストの朗読及び舞台発音法を用いた朗読において実践することにより、歌唱の際の発音の質を高めることを目標とする。アルファベット、ドイツンギ(二重音)、トゥリットンギ(三重音)、イアート(母音分離)、「E」・「O」母音の開口と閉口、「U」母音、アツェント・グラベとアツェント・アクート、日本人の苦手な子音(ch, gh, gl, r, l, gn, sc, v, doppio等)を練習する。ヴァッカイ、イタリア歌曲のアナリーゼを行い、音節の分け方を学びイタリア語の構成を理解する。同時に伊和辞典の使い方も学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	合唱①	<p>声楽専攻者対象クラスでは発声や発語等、声の鍛錬に主眼をおく。それを土台に多様な観点から音楽に対する理解を深め、自身の声楽技術を向上させ、豊かな感性を涵養する。ヘンデル「メサイア」、ベートーヴェン「第九」を中心に、様々な形態の合唱曲を取り上げる。</p> <p>声楽専攻者以外対象クラスでは、様々な合唱作品を歌い、また鑑賞することによって、音楽に対する理解を更に深め、自己の音楽表現をより豊かなものにする。</p> <p>両クラスとも、「共に歌う」という能動的行為により、相互に協調し、互いの感性を認めることで、コミュニケーション能力を涵養する。また、合唱指導のありかたを指導される側から観察することによって、指導法について理解を深めることも目指す。</p>	
専門科目	合唱②	<p>声楽専攻者対象クラスでは、合唱①での学修を踏まえて、発声や発語等、声のさらなる鍛錬をおこなう。それを土台に多様な観点から音楽に対する理解を深め、自身の声楽技術を向上させ、豊かな感性を涵養する。ヘンデル「メサイア」、ベートーヴェン「第九」を中心に、様々な形態の合唱曲を取り上げる。</p> <p>声楽専攻者以外対象クラスでは、合唱①での学修を踏まえて、更に多様なスタイルの合唱作品を取り上げ、より緻密で色彩豊かな表現ができるアンサンブルの構築を目指す。また、「歌う」ための発声や発語の仕方や指導、楽譜の読み方、作品解釈や具体的な表現方法を修得する。</p> <p>両クラスとも、「共に歌う」という能動的行為により、相互に協調し、互いの感性を認めることで、コミュニケーション能力を涵養する。また、合唱指導のありかたを指導される側から観察することによって、指導法について理解を深めることも目指す。</p>	
専門科目	合唱③	<p>合唱①②で学修した内容を踏まえ、合唱音楽の楽しさや喜びを味わいながら、発声や発語等自己の声のさらなる鍛錬と、それを土台に様々な観点から音楽に対する理解を深め、自身の声楽技術の向上と豊かな感性の涵養につなげていく。例年開催の「メサイア」と「第九」を中心に、様々な形態の合唱曲を課題として取り上げて、「メサイア」と「第九」の本公演を含め、学内外の舞台において実践する。また合唱指導の実際を合唱する側から客観的に観察し捉えることより指導の一端を知る。</p>	
専門科目	合唱④	<p>合唱①～③で学修した内容を踏まえ、あらためて合唱音楽の楽しさや喜びを味わいながら、発声や発語等自己の声のさらなる鍛錬と、それを土台に様々な観点から音楽に対する理解を深め、自身の声楽技術の向上と豊かな感性の涵養につなげていく。例年開催の「メサイア」と「第九」を中心に、様々な形態の合唱曲を課題として取り上げて、「メサイア」と「第九」の本公演を含め、学内外の舞台において実践する。また合唱指導の実際を合唱する側から客観的に観察し捉えることより指導の一端を知る。</p>	
専門科目	合唱指導法①	<p>教育の現場や一般の生涯学習の現場における合唱指導の方法論を学び、それに基づいた実践を重ねる。合唱音楽の楽しさ、すばらしさを伝える能力の基礎を身につけるために、合唱指導に必要な指揮法と発声法及び合唱曲に用いられる様々な言語の発語指導等の演習を重ねながら、演奏者(合唱団員)とのコミュニケーションの取り方や関係性に対する考察を繰り返す。そして自身の音楽スキルの向上と音楽性の涵養につながる合唱指導の基礎を身につける。</p>	
専門科目	合唱指導法②	<p>合唱指導法①で学修した内容を踏まえ、更に個々の能力向上と基礎力を堅固にしていくことを目標とする。課題楽曲としてオラトリオやオペラ、宗教作品といったオーケストラを伴う比較的規模の大きな形態の合唱曲を取り上げ、自身の指導に広がりや深みを求めていく。様式感の異なる合唱曲の演奏方法論への考察をしながら、指導に伴う適切で明確なプレゼンテーション、コミュニケーション、サジェスションの方法を模索し、合唱指導を含めた汎用的音楽指導の基本を身につける。</p>	
専門科目	合唱指導法演習	<p>ピアノ指導者コースの学生を対象とする科目で、合唱作品について指導法の一部を体験することにより、合唱作品を含む声楽作品の演奏における伴奏者としてのスキルの向上を目的とする。課題楽曲としてオラトリオやオペラ、宗教作品といったオーケストラを伴う比較的規模の大きな合唱曲を取り上げ、様式感の異なる合唱曲の演奏方法論を考察する。また、オーケストラがピアノにリダクションされた際のスコアの読み方も学ぶ。また合唱指導を含めた汎用的な音楽指導法の基本を身につける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	オペラ演習Ⅰ①	本科目ではオペラ表現に必要な演技の基本を修得する。音楽とともに動くという、オペラ独特の身体表現に必要な基礎的な概念と動作を理解し、各々が演技について考える力をつける。またビデオやテキスト、実際の音楽作品等を使って多角的に学ぶとともに、簡単なテーマに基づいた台本を書き、声と身体を使って演じることを体験する。	
専門科目	オペラ演習Ⅰ②	オペラ演習Ⅰ③(実際に歌い演ずる)の準備段階として、歌い手は自分の身体が楽器であり、舞台上で見せるのは自分の身体であることを認識する。自分の身体の得手不得手を知り、出来ない事の改善に自分でアプローチできるようになること、また、様々なエチュードを体験しながら、自身の経験をフィードバックし、役を担う為の想像力を育むことを目標とする。ストレッチトレーニング、インプロヴィゼーション、エチュード、オペラの合唱シーンなどにより、他者と触れ合うことに慣れ、触れ合うことによって起きる身体や心の反応を再認識する。	
専門科目	オペラ演習Ⅰ③	オペラ演習Ⅰ①②で培った内容を基に(1)総合芸術であるオペラを体験することで、演じながら歌うことの楽しさを知り、オペラにより深い興味を持つこと、(2)音楽表現と身体表現を融合させ歌唱表現の向上に役立てることを目標とする。授業は少人数のクラスに分かれ、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」等から導入に適したアンサンブル曲とレチタティーヴォを取り上げて学ぶ。音楽と台本によって構成されるオペラスコアの読み方を理解し、演ずることによって自己表現の可能性を拓いていく。また、ひとつのシーンをグループで作り上げることによって、コミュニケーション能力や責任感を育んでいく。	共同
専門科目	オペラ演習Ⅰ④	本学のオペラ公演の舞台に合唱団員として出演し、オペラ芸術の全体像について学ぶことを目的とする。この授業においては公演作品の主に合唱部分の演習を行う。作曲家の生涯や作曲年の時代背景、作品の持つドラマ性の理解を深めながら、台本上、音楽上における合唱の役割について考察を試みる。また使用原語のディクッションについても学びながら、自身の歌唱力向上を念頭に演習を繰り返し、演出を加え舞台を想定した実習に臨むための準備を整える。	共同
専門科目	オペラ演習Ⅱ	オペラ演習Ⅰ④、オペラ公演実習等で修得したことを踏まえ、ソリストとしての実践を強化する。課題としていくつかのオペラ作品からアンサンブル・ナンバーを取り上げ、演出を加えたオペラ・シーンの演習を行う。レチタティーヴォも含めた言葉と音楽の結びつきを考えながら、スコアの勉強の仕方を学ぶ。指揮者や演出家との関係性等の理解を深め、その要求に応える方法を模索しながら、自身の歌唱力、演技力、アンサンブル能力のさらなる向上を目指す。	共同
専門科目	オペラ公演実習	本科目は、オペラ演習Ⅰ④を踏まえた上で、関係する多くのスタッフとともに公演舞台を想定した稽古場での実習の後、オーケストラを加えた本舞台での実習により公演に向けたまとめの実践を体験する。そうした体験を通してオペラ制作現場で起こる様々な事柄について学び、指揮者、演出家、舞台スタッフなど、公演に携わるすべての人々と協働する関係性の上にコミュニケーション能力の涵養につなげながら、将来の社会生活における自己実現を考察できる基礎力を身につける。	共同
専門科目	指揮法Ⅰ	将来、教職や一般の音楽指導者として合唱や合奏などを指導あるいは指揮する際に必要な指揮技術の修得を目指す。まず、指揮法の重要な基礎である「平均運動」「しゃくい」「たたき」を学び、これらの基本運動による種々の拍子の美しい図形の描き方を修得する。更に様々な作品の具体的な音楽表現のために楽曲分析及び解釈を学ぶ。これらにより、合唱、吹奏楽、オーケストラ等の指導、指揮に的確に対応するための基礎力を身につける。	
専門科目	パフォーマンス①	本学で行われる様々な公演の一員として出演し、その全体像を学ぶ。他の出演者、演奏者、スタッフとのコミュニケーションをとり、公演を作る過程と、その中に起きる様々な事柄について学びながら、自身の演奏や表現、創作の能力を高め、共に公演を作り上げることを体験する。また、ホールや舞台の持つ様々な機構や機能を体感・体験することで、総合芸術への理解を深める。公演に携わる様々な役目を担う人々と協働し、コミュニケーション能力を育む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	パフォーマンス②	本学で行われる様々な公演の一員として出演し、その全体像を学ぶ。他の出演者、演奏者、スタッフとのコミュニケーションをとり、公演を作る過程と、その中に起きる様々な事柄について学びながら、自身の演奏や表現、創作の能力を高め、共に公演を作り上げることを体験する。パフォーマンス①での経験を活かしながら、更に積極的に各セクションの役割に注目し、全体の中での自分の役割について考える。公演ごとに違った指揮者、演出家などの指導を体験し、自らの表現の幅を広げて行く。	
専門科目	パフォーマンス③	本学で行われる様々な公演の一員として出演し、その全体像を学ぶ。他の出演者、演奏者や指導者、スタッフとのコミュニケーションをとり、公演を作る過程と、その中に起きる様々な事柄について学びながら、自身の演奏や表現、創作の能力を高め、共に公演を作り上げることを体験する。パフォーマンス①②で積み上げてきた経験を基に、舞台におけるドラマや音楽への理解を深めながら、指揮者、演出家などの意図を理解し、公演の質の向上に向けて積極的に関わっていく力を身につける。	
専門科目	パフォーマンス④	本学で行われる様々な公演の一員として出演し、その全体像を学ぶ。他の出演者、演奏者や指導者、スタッフとのコミュニケーションをとり、公演を作る過程と、その中に起きる様々な事柄について学びながら、自身の演奏や表現の能力を高め、共に公演を作り上げることを体験する。パフォーマンス①～③で培った力を活かし、積極的なコミュニケーションをとってメンバーをまとめるなど、自ら考え主体的に公演に関わることで、社会生活における自己実現の力を養っていく。	
専門科目	舞台表現演習①	本学のオペラ公演の舞台に合唱団員として、または助演者として出演し、オペラの全体像について学ぶことを目的とする。オペラ制作現場にて、指揮者や演出家とのコンタクトのとり方、衣裳を付けての身のこなし、他の出演者や舞台スタッフとのコミュニケーションなどを実践的に学修する。また、劇場内で起こる様々な事柄について考察を加えながら、大きなアンサンブルを共に作り上げていくことで、人間力の涵養につなげる。	
専門科目	舞台表現演習②	舞台表現演習①を修得した学生を対象とする科目である。本学のオペラ公演の舞台に合唱団員として、または助演者として出演し、オペラの全体像について学ぶことを目的とする。オペラ制作現場にて、指揮者や演出家とのコンタクトのとり方、衣裳を付けての身のこなし、他の出演者や舞台スタッフとのコミュニケーションなどを、舞台表現演習①での経験を活かして、実践的に学修する。また、劇場内で起こる様々な事柄について考察を加えながら、大きなアンサンブルを共に作り上げていくことで、人間力の涵養につなげる。	
専門科目	舞台表現演習③	舞台表現演習①②を修得した学生を対象とする科目である。本学のオペラ公演の舞台に合唱団員として、または助演者として出演し、オペラの全体像について学ぶことを目的とする。オペラ制作現場にて、指揮者や演出家とのコンタクトのとり方、衣裳を付けての身のこなし、他の出演者や舞台スタッフとのコミュニケーションなどを、舞台表現演習①②での経験を活かして、実践的に学修する。また、劇場内で起こる様々な事柄について考察を加えながら、大きなアンサンブルを共に作り上げていくことで、人間力の涵養につなげる。	
専門科目	ジャズ実技 I ①	ジャズコースの専攻実技を個人レッスンで学ぶ。演奏家／歌手、アーティストとして活躍していく上で必要な、基礎的な演奏／歌唱テクニックを修得する。個々の能力と状況に応じた課題楽曲により、様々なテクニックの修得に取り組み、ジャズ音楽に必要な音楽力、個性、表現力、感性を養い、演奏／歌唱技術の総合的な向上を目指す。	
専門科目	ジャズ実技 I ②	ジャズ実技 I ①で学修した内容を基に、ジャズコースの専攻実技を個人レッスンで学ぶ。演奏家／歌手、アーティストとして活躍していく上で必要な、応用的な演奏／歌唱テクニック等を修得する。個々の能力と状況に応じた課題楽曲により、様々なテクニックの修得に取り組み、ジャズ音楽に必要な音楽力、個性、表現力、感性を養い、演奏／歌唱技術の総合的な向上を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ジャズ実技 I ③	ジャズ実技 I ①②で学修した内容を基に、ジャズコースの専攻実技を個人レッスンで学ぶ。演奏家/歌手、アーティストとして活躍していく上で必要な、実践的な演奏/歌唱テクニック等を修得する。個々の能力と状況に応じた課題楽曲により、様々なテクニックの修得に取り組み、ジャズ音楽に必要な音楽力、個性、表現力、感性を養い、演奏/歌唱技術の総合的な向上を目指す。	
専門科目	ジャズ実技 I ④	ジャズ実技 I ①～③で学修した内容を基に、ジャズコースの専攻実技を個人レッスンで学ぶ。演奏家/歌手、アーティストとして活躍していく上で必要な演奏/歌唱テクニックを修得する。個々の能力と状況に応じた課題楽曲により、様々なテクニックの修得に取り組み、ジャズ音楽に必要な音楽力、個性、表現力、感性を養い、演奏/歌唱技術の総合的な向上を目指す。	
専門科目	ジャズアンサンブル I ①	ビッグバンドの演奏において基礎となる演奏技術とアンサンブル能力を修得する。また、ポピュラー音楽にとって重要なリズムの正確さと、微細な音程を感覚的に掴む能力を身につける。更に、ビッグバンドの中での自己表現、協調性を修得する。	
専門科目	ジャズアンサンブル I ②	ジャズアンサンブル I ①で学んだ内容を受け継ぎ、ビッグバンドの演奏において必要な演奏技術とアンサンブル能力を修得する。また、ポピュラー音楽にとって重要なリズムの正確さと、微細な音程を感覚的に掴む能力を向上させる。更に、ビッグバンドの中での自己表現、協調性を修得する。	
専門科目	ジャズアンサンブル I ③	ジャズアンサンブル I ①②で学んだ内容を受け継ぎ、ビッグバンドの演奏において必要な演奏技術とアンサンブル能力を修得する。また、ポピュラー音楽にとって重要なリズムの正確さと、微細な音程を感覚的に掴む能力を強化する。更に、ビッグバンドの中での自己表現、協調性を修得する。	
専門科目	ジャズアンサンブル I ④	ジャズアンサンブル I ①～③で学んだ内容を受け継ぎ、ビッグバンドの演奏において必要な演奏技術とアンサンブル能力を修得する。また、ポピュラー音楽にとって重要なリズムの正確さと、微細な音程を感覚的に掴む能力をより強化する。更に、ビッグバンドの中での自己表現、協調性を修得する。	
専門科目	ジャズアンサンブル II ①	少人数での様々な楽器の組み合わせによるコンボ形式の演奏を学ぶ。主に、チャーリー・パーカーの楽曲を用いるほか、ブルースも取り上げる。これにより、ジャズの演奏技術の向上、アンサンブル能力の涵養、レパートリーの拡大を図る。	
専門科目	ジャズアンサンブル II ②	ジャズアンサンブル II ①での学修をもとに、更に多くのジャズ・スタンダード楽曲をセッションする。これにより、ジャズの演奏技術の向上、アンサンブル能力の涵養、レパートリーの拡大を図る。特にインプロヴィゼーションにおけるスケールやフレーズの技術の向上を目指す。リズム楽器においては様式化されたイントロやエンディングも学ぶ。	
専門科目	ジャズアンサンブル II ③	ジャズアンサンブル II ①②での学修をもとに、コンボの基本編成だけではなく、多様な編成によるセッションを行う。ジャズの演奏技術の向上、アンサンブル能力の涵養、レパートリーの拡大を図るほか、多様な編成を経験することにより、プロフェッショナルな現場に対応する力を身につける。	
専門科目	ジャズアンサンブル II ④	ジャズアンサンブル II ①～③での学修をもとに、より特殊な編成によるセッションを行う。これにより、ジャズの演奏技術の向上、アンサンブル能力の涵養、レパートリーの拡大を図るほか、プロフェッショナルな現場に対応する力を身につける。	
専門科目	ジャズ演奏法①	専攻実技を少人数のグループで学ぶ。演奏能力や技術の内容のみならず、ジャズの伝統と歴史、名プレイヤーのスタイルなどを様々な角度から研究し、ジャズ演奏で欠かせないアドリブ、アンサンブルに必要な基礎的な技術、手法、思考と発想を修得する。楽器の構造と特性を十分に理解した上で、演奏能力の向上とともに音楽理論的な裏付けを身につけることを目標とする。並行して読譜力も養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ジャズ演奏法②	ジャズ演奏法①で修得した内容を基に、専攻実技を少人数のグループで学ぶ。演奏能力や技術の内容のみならず、ジャズの伝統と歴史、名プレイヤーのスタイルなどを様々な角度から研究し、ジャズ演奏で欠かせないアドリブ、アンサンブルに必要な応用的な技術、手法、思考と発想を修得する。楽器の構造と特性を十分に理解した上で、演奏能力の向上とともに音楽理論的な裏付けを身につけることを目標とする。並行して読譜力も養う。	
専門科目	ジャズ演奏法③	ジャズ演奏法①②で修得した内容を基に、専攻実技を少人数のグループで学ぶ。演奏能力や技術の内容のみならず、ジャズの伝統と歴史、名プレイヤーのスタイルなどを様々な角度から研究し、ジャズ演奏で欠かせないアドリブ、アンサンブルに必要な実践的な技術、手法、思考と発想を修得する。楽器の構造と特性を十分に理解した上で、演奏能力の向上とともに音楽理論的な裏付けを身につけることを目標とする。並行して読譜力も養う。	
専門科目	ジャズ演奏法④	ジャズ演奏法①～③で修得した内容を基に、専攻実技を少人数のグループで学ぶ。演奏能力や技術の内容のみならず、ジャズの伝統と歴史、名プレイヤーのスタイルなどを様々な角度から研究し、ジャズ演奏で欠かせないアドリブ、アンサンブルに必要な技術、手法、思考と発想を深く理解する。楽器の構造と特性を知悉した上で、演奏能力の向上とともに音楽理論的な裏付けを身につけることを目標とする。並行して読譜力も養う。	
専門科目	ジャズコンポジション①	ジャズに特化した理論をより深く研究、理解し、現代の様々なジャズ作曲技法をアナライズしながら実際に作品を書く事を目指す。ジャズ理論を理解し応用しながら、多様なタイプのオリジナル作品を課題として提出する。これらの作品はアンサンブル授業等において、課題曲として演奏する。	
専門科目	ジャズコンポジション②	ジャズコンポジション①で修得した内容を基に、ジャズに特化した理論をより深く研究、理解し、現代の様々なジャズ作曲技法をアナライズしながら実際に作品を書く事を目指す。ジャズ理論を理解し応用しながら、多様なタイプのオリジナル作品を課題として提出する。これらの作品はアンサンブル授業等において、課題曲として演奏する。	
専門科目	ポピュラー実技 I ①	ポピュラー音楽コースの実技個人レッスンである。演奏家／歌手、アーティストとして活躍していく上で必要な基礎能力や演奏／歌唱テクニック等を修得する。個々の能力と状況に応じた課題楽曲により、様々なテクニックの修得に取り組み、ポピュラー音楽に必要な音楽力、個性、表現力、感性を養い、総合的演奏／歌唱技術の向上を目指す。	
専門科目	ポピュラー実技 I ②	ポピュラー音楽コースの実技個人レッスンである。ポピュラー実技 I ①で修得した内容を基に、演奏家／歌手、アーティストとして活躍していく上で必要な基礎能力や演奏／歌唱テクニック等を修得する。個々の能力と状況に応じた課題楽曲により、様々なテクニックの修得に取り組み、ポピュラー音楽に必要な音楽力、個性、表現力、感性を養い、総合的演奏／歌唱技術の向上を目指す。	
専門科目	ポピュラー実技 I ③	ポピュラー音楽コースの実技個人レッスンである。ポピュラー実技 I ①②で修得した内容を基に、演奏家／歌手、アーティストとして活躍していく上で必要な基礎能力や演奏／歌唱テクニック等を修得する。個々の能力と状況に応じた課題楽曲により、様々なテクニックの修得に取り組み、ポピュラー音楽に必要な音楽力、個性、表現力、感性を養い、総合的演奏／歌唱技術の向上を目指す。	
専門科目	ポピュラー実技 I ④	ポピュラー音楽コースの実技個人レッスンである。ポピュラー実技 I ①～③で修得した内容を基に、演奏家／歌手、アーティストとして活躍していく上で必要な基礎能力や演奏／歌唱テクニック等を修得する。個々の能力と状況に応じた課題楽曲により、様々なテクニックの修得に取り組み、ポピュラー音楽に必要な音楽力、個性、表現力、感性を養い、総合的演奏／歌唱技術の向上を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ポピュラーアンサンブル①	ポピュラー音楽の様々なジャンルの楽曲を幅広く取り上げ演奏し、他楽器パートと演奏することに対する基礎知識を学ぶ。楽器同士やヴォーカルとテンポやグルーブを合わせて演奏できるようにする。初めは課題曲の忠実な再生を目指す。他楽器の音を聴き演奏、また反応できるようにし、ダイナミクスの表現を付けられるようにする。ヴォーカルは英語圏の歌に対応できるように最低限の発音練習もあわせて学修する。また、協調性などのコミュニケーション能力の向上も目標とする。	
専門科目	ポピュラーアンサンブル②	ポピュラーアンサンブル①で学修した内容を基に、演奏家としてのノウハウを身につける。様々なリズムやジャンルの楽曲(主に洋楽)を幅広く取り上げ、バンド形式で演奏する上での基礎力を養う。音楽家としてのコミュニケーション能力、パフォーマンス力の構築にも重点を置き、現場での対応力を高めていく。	
専門科目	ポピュラーアンサンブル③	ポピュラーアンサンブル①②で学修した内容を基に、より実践的なアンサンブル能力の向上を目標とする。譜面の読解能力やアンサンブル全体を認知しコントロールする能力などの修得を目指す。技術面では個人レッスンで学修した内容を実践しながら深く理解し修得していく。更に高いクオリティーを追求し、楽曲の雰囲気をつ捉えたアドリブソロやパフォーマンス、歌唱の実践を行う。また、初見演奏能力の技術向上を目指す。	
専門科目	ポピュラーアンサンブル④	ポピュラーアンサンブル①～③で学修した内容を基に、今まで積み上げて来たことを振り返りながら、基礎的なことから見直し、確かなものにする。インストゥルメンタル、ヴォーカルの楽曲いづれにおいても各楽器の役割を十分に理解し、表現力豊かな楽曲に仕上げることを目指す。自分の楽器以外の楽器についての知識を深め、楽曲のアレンジに積極的に参加できるようにする。	
専門科目	ポピュラー作曲・編曲法①	作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を分析し、その楽曲を構成する作曲・編曲技法を考察する。そして基本的なポピュラー音楽理論、コードプログレッション、リズムコンビネーションに興味を持って、自ら分析する姿勢と基本的な作曲・編曲技法を修得する。	
専門科目	ポピュラー作曲・編曲法②	ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容を基に、実際の編曲を行う為の実践的な内容を修得する。より高度な編曲テクニックに加え、旋律とリズムの考察と、イントロ、間奏、エンディングの考え方に重点を置き、アレンジ作品を書く能力を養うことを目的とする。	
専門科目	ポピュラー作曲・編曲法③	ポピュラー作曲・編曲法①②で学んだ事柄を踏まえて、商業音楽におけるセクショナル・ライティングを中心としたアレンジの手法を学修する。ストリングス・セクションを含んだ楽曲のスコアが書けるようになること、現場でのディレクションも含めて、そのレコーディングに対処できるようになること、録音されたものを、自分でミックスして仕上げられるようになることが目的である。	
専門科目	ポピュラー作曲・編曲法④	ポピュラー作曲・編曲法①～③で学んだ事柄を踏まえて、楽曲をアレンジする手法について学修する。ブラスセクションを中心に仕上げ、基になる楽曲をアレンジする方法と、管楽器の特徴・機能を理解する。更に、幅広く楽器アレンジについて分析と実践を行い、ポピュラー音楽の作曲・編曲に応用できる知識と技術を修得する。	
専門科目	ポピュラー演奏法①	少人数のグループレッスンの形態で専攻実技を学ぶ科目である。演奏能力や技術の内容のみならず、教則・ライブDVD等の映像を使用して自身が専攻する楽器・機材・奏法・理論・著名な演奏家等、幅広く研究・理解することにより、音楽的視野を広げるとともに、楽器を演奏するために必要な精神的なレベルの向上を目標とする。並行して読譜力も養っていく。	
専門科目	ポピュラー演奏法②	ポピュラー演奏法①で学修した内容を基に、更に細かい表現方法の修得を目指す。さまざまな曲を題材に演奏しながら、演奏家として必要な知識、技術、強い精神力、持続する体力を身につける。他者を見たり、他者から見られることにより、自らを客観視する能力を養う。資料音源・映像の検証から音楽の抽象性を理解し、各自の音楽的感性と演奏能力をより向上させることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ポピュラー演奏法③	ポピュラー演奏法①②で学修した内容を基に、演奏家として必要なテクニック、アレンジ力、更には表現能力を身につけ、より高度なバンドアンサンブルでの奏法をマスターする。アンサンブル授業の課題曲をメイン教材として、バンドでの様々なジャンルに応じたコードボイスイングやバックイング、オリガードやアドリブ等が弾けるようになる。また曲のサウンドを再現するのに必要なキーボードや音色の選び方、それに応じた奏法も修得していく。さらなる読譜力の向上、リズムとグルーブの向上を目指す。	
専門科目	ポピュラー演奏法④	ポピュラー演奏法①～③で学修した内容を基に、ポピュラー音楽の演奏に必要な知識、表現力を着実に実行する為の総仕上げを行う。各自パートの役割を深く理解し、アンサンブルを的確な方向に導く技術を具体的な例を交えて身につける。コード理論や各種リズムについては随時行う。音楽の現場に出た時の様々な要求や、自身の作品の作成に必要な技術と知識を修得する為、ジャンルに囚われない奏法を体験する。	
専門科目	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	主専攻楽器がピアノ以外の学生を対象にした、グループの形態で行われる実技レッスンである。代表的なポピュラーピアノの奏法を通して鍵盤楽器の特性を学ぶ。有名なポピュラー曲やスタンダードナンバーのコード譜を見ながら、よく用いられるコード進行やジャンルによるリズムの違いを理解し、バンド内のピアノアレンジや、ピアノソロアレンジを修得する。また、ブルースの演奏を徹底させる。	
専門科目	ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①で学修した内容を基に、ピアノで様々なスタイルのポピュラー音楽に対応できるような演奏能力を養うことを目標とする。そのために必要とされる理論を理解し、演奏技術を修得し、表現能力を高める。伴奏とソロピアノのそれぞれのスタイルを修得する。	
専門科目	ポピュラー・ジャズピアノⅡ③	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①②で学修した内容を基に、ピアノで様々なスタイルのポピュラー音楽に対応できるような演奏能力を養うことを目標とする。そのために必要とされる理論を理解し、演奏技術を修得し、表現能力を高める。伴奏とソロピアノのそれぞれのスタイルを修得する。	
専門科目	ポピュラー・ジャズピアノⅡ④	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①～③で学修した内容を基に、ピアノで様々なスタイルのポピュラー音楽に対応できるような演奏能力を養うことを目標とする。そのために必要とされる理論を理解し、演奏技術を修得し、表現能力を高める。伴奏とソロピアノのそれぞれのスタイルを修得する。	
専門科目	インストゥルメンツⅡ①	各自が選択したポピュラー楽器の演奏の基礎を修得する、グループの形態で行われる実技レッスンである。基礎的な演奏能力や技術向上を目的とするが、楽器の構造や音域などに関する知識や、基本姿勢、演奏ポジション等、様々なジャンルにおける各自の楽器の基本的な役割を理解することも目標とする。	
専門科目	インストゥルメンツⅡ②	インストゥルメンツⅡ①で学修した内容を基に、各自が選択したポピュラー楽器の演奏の基礎を修得するグループの形態で行われる実技レッスンである。基礎的な演奏能力や技術向上を目的とするが、楽器の構造や音域などに関する知識や、基本姿勢、演奏ポジション等、様々なジャンルにおける各自の楽器の基本的な役割を理解することも目標とする。	
専門科目	ポピュラーヴォーカルⅡ①	ポピュラー音楽においては、器楽奏者であってもコーラスを担当するなど、ヴォーカルと関わる機会が多い。ヴォーカリストとしての歌唱能力、コーラスの技術を学ぶことで、ヴォーカルの理解を深めることを目標とする。本科目は、発声・課題曲・歌のアレンジのノウハウを修得する。	
専門科目	ポピュラーヴォーカルⅡ②	ポピュラーヴォーカルⅡ①で学修した内容を基に、(1)楽器を弾きながらソロヴォーカリストとして歌唱能力の向上、(2)自分の未来を自分でプロデュースする能力、自分の未来の姿を現実に確実に作り上げて行く能力の向上、(3)自分の声やスタイルにあったヴォーカリストを探して、感情表現やブレスの使い方、言葉のリズム、メロディーのリズム、アクセント、フェイク、子音の発音も含め、完全な形で表現する、ことを目指す。テクニックのみならず、個性を重視する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	サウンドクリエイト①	現代の音楽シーンにおいて、コンピューターを使用しての音楽制作は必要不可欠である。音楽制作に必要とされるコンピューターとソフト、音響知識の基本、レコーディング機器の使用法を学ぶ。コンピューターとMIDIを活用し、オリジナル作品作りに向けてコードワークとアレンジを実践する。シンセサイザーの演奏と音色、ギター、ドラムの楽器知識も含め、総合的に音楽の仕組みを学ぶ。オリジナル作品のCD制作を目標にする。	
専門科目	サウンドクリエイト②	サウンドクリエイト①で学修した内容を基に、コンピューターとMIDIを活用し、サウンドを形成する要素を様々な角度から学修し、表現を含めたMIDIの演奏テクニック、エフェクトを含むサウンド編集を学ぶ。各自のオリジナル作品をオーディオ録音し、オリジナルCDの制作を目標とする。	
専門科目	ライブ実習Ⅰ①	バンド・ユニット結成から始め、各バンド単位で楽曲の選定、アレンジ、リハーサルを行い、ライブ演奏に至るまでの過程をシミュレートし、本番までのプロセスを経験・修得することで、様々な演奏や歌唱のテクニックを修得する。	
専門科目	ライブ実習Ⅰ②	ライブ実習Ⅰ①、ライブ実習Ⅱ①で学修した内容を基に、バンド・ユニット結成から始め、各バンド単位で楽曲の選定、アレンジ、リハーサルを行い、ライブ演奏に至るまでの過程をシミュレートし、本番までのプロセスを経験・修得することで、様々な演奏や歌唱のテクニックを修得する。	
専門科目	ライブ実習Ⅱ①	ライブ実習Ⅰ①で学修した内容を基に、バンド・ユニット結成から始め、各バンド単位で楽曲の選定、アレンジ、リハーサルを行い、ライブ演奏に至るまでの過程をシミュレートし、本番までのプロセスを経験・修得することで、様々な演奏や歌唱のテクニックを修得する。	
専門科目	ライブ実習Ⅱ②	ライブ実習Ⅰ①②、ライブ実習Ⅱ①で学修した内容を基に、バンド・ユニット結成から始め、各バンド単位で楽曲の選定、アレンジ、リハーサルを行い、ライブ演奏に至るまでの過程をシミュレートし、本番までのプロセスを経験・修得することで、様々な演奏や歌唱のテクニックを修得する。	
専門科目	コードプログレッション(ベーシック)	作曲や編曲に必要な理論を学び、最近の米国でのヒットチャートやJ-Pop作品を積極的に題材として分析し、その楽曲を構成する作曲・編曲技法を探る。そしてそれらの楽曲の成り立ちを探り、基本的なポピュラー音楽理論、コードプログレッション、リズムコンビネーションを自ら分析する姿勢と基本的な作曲・編曲技法の修得を目指す。	
専門科目	コードプログレッション(アドバンス)	コードプログレッション(ベーシック)で学んだ内容を基に、より高度なコード進行技法に加え旋律及びリズムの考察とストリングス、ホーン・セクションを加えたアレンジ作品を書く事を目指す。また、学生個々から最近のJ-Pop、洋楽等のトランスクリプトを課題として提出させ、詳しく分析しながら実際の編曲を行う。	
専門科目	イヤートレーニング	CD等の音源からメロディーやコードといった内容を聴き取り、譜面に書き起こす技術を修得する。メロディーを覚えてロザさみながら記譜したり、コードの聴き取り練習を日常的に実践する習慣を身につけ、演奏技術に活かす。	
専門科目	リズムトレーニング	基礎的なリズム感の養成を目的とする。打楽器を扱うからだの動き(叩く、振る、こする)を通じて、リズムを主観的、客観的に理解することが目標。最終的に体をコントロールすることから、自然にリズムをコントロールできるようトレーニングする。2分系音符、3連系音符、裏の音符を含む特徴的なリズムも扱い、多角的に音符を理解できるようにする。また、聴き取り能力の向上を考え、リズム及びコードなどのソルフェージュの内容を含むものとする。	
専門科目	スタジオレコーディング①	プロ仕様の録音スタジオを使用し、レコーディング時における技術やノウハウを実際の録音を通じて修得する。アンサンブルなどで取り上げた楽曲のレコーディングを行い、その現場での作業を体験・修得する。キューボックスの使い方やダビングの方法など実践的に経験することによりレコーディングの基礎的な知識を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	スタジオレコーディング②	スタジオレコーディング①で学修した内容を基に、作編曲やアンサンブル授業等で学んだ事柄を実際のレコーディングを通して自らのオリジナル作品の完成に活かす。ミュージシャンとしてレコーディングに携わり準備段階から完成までの全てを実体験し、各自の楽曲制作、演奏及びレコーディングのテクニックの向上を目標とする。	
専門科目	ダンス	ダンスの基本をマスターし、エクササイズにより心肺機能を高める。また、簡単なコンビネーションを行い、リズム感を養う。表現者として、音楽を表現するための健康な身体作りを主な目的とする。	
専門科目	ジャズの歴史と作品	ジャズ100年の歴史を、スタイルの変遷を中心に学修する。特にジャズ音楽を、ポピュラー音楽史全体に目を配りつつ、アメリカ社会の変化や発展の歴史との関わり合いにおいて理解する。これにより、音楽についての理解を深めると同時に、社会における差別や偏見を脱する視点を獲得する。	
専門科目	卒業ライブ	本科目は、技術や知識等、それまでの学修成果を応用して発表する場である。リハーサルから通し稽古、本番までの流れを総合的に実践する。観客を意識したステージパフォーマンスをおこなうことが最大の目標である。学生のオリジナル曲発表の場でもある。	
専門科目	基本ソルフェージュ①	音を聴く、書き取る、表現するなどの基礎的能力は音楽に関わる上で欠かせないスキルである。基本ソルフェージュでは特に、これまでソルフェージュの学修経験の浅い学生、あるいは不得意とする学生に対し、これらの基礎的能力を初歩から総合的に養い、互いに結びつけながら着実に身につけることを目的とする。本科目では、最も初歩的な楽譜の理解に繋がる内容を扱い、楽譜理解を相互的に深める。	
専門科目	基本ソルフェージュ②	音を聴く、書き取る、表現するなどの基礎的能力は音楽に関わる上で欠かせないスキルである。基本ソルフェージュでは特に、これまでソルフェージュの学修経験の浅い学生、あるいは不得意とする学生に対し、これらの基礎的能力を初歩から総合的に養い、互いに結びつけながら着実に身につけることを目的とする。本科目では、基本ソルフェージュ①で学修した内容を踏まえて発展的な内容を扱う。	
専門科目	基本ソルフェージュ③	音を聴く、書き取る、表現するなどの基礎的能力は音楽に関わる上で欠かせないスキルである。基本ソルフェージュでは特に、これまでソルフェージュの学修経験の浅い学生、あるいは不得意とする学生に対し、これらの基礎的能力を初歩から総合的に養い、互いに結びつけながら着実に身につけることを目的とする。本科目では、基本ソルフェージュ②で学修した内容を踏まえて、より発展的な内容を扱う。	
専門科目	聴音・視唱ソルフェージュ①	演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音の練習(リズム、単旋律、2声、4声体和声の書き取り)、及び視唱の練習(歌うことを通して(1)音程、リズム、音階などの感覚、(2)読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成)を行う。	
専門科目	聴音・視唱ソルフェージュ②	演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音の練習(単旋律、高音部記号2声、大譜表2声、4声体和声の書き取り)、及び視唱の練習(歌うことを通して(1)音程、リズム、音階などの感覚、(2)読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成)を行う。	
専門科目	聴音・視唱ソルフェージュ③	演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音の練習(単旋律、高音部記号2声、大譜表2声、3声、4声体和声の書き取り)、視唱の練習(歌うことを通して(1)音程、リズム、音階などの感覚、(3)読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成)を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	鍵盤ソルフェージュ①	弾き歌いや伴奏付けなどを鍵盤上で即興的に演奏できるようにする。主要3和音を中心に、借用和音(副属7の和音)を学修する。コードネームと和音記号の理解に努め、弾き歌いは両手による伴奏付けを中心とし、伴奏付けはメロディーに密集位置で伴奏付けを行う。移調奏なども年間を通じて積極的にを行い、グレード(5級程度)試験の対策になるような弾き歌い、伴奏付け、移調奏ができるようにする。	
専門科目	鍵盤ソルフェージュ②	鍵盤ソルフェージュ①で学修した内容を基に、弾き歌いや伴奏付けなどを鍵盤上で即興的に演奏できるようにする。主要3和音を中心に、借用和音(副属7の和音)を学修する。コードネームと和音記号の理解に努め、弾き歌いは両手による伴奏付けを中心とし、伴奏付けはメロディーに密集位置で伴奏付けを行う。移調奏なども年間を通じて積極的にを行い、グレード(4級程度)試験の対策になるような弾き歌い、伴奏付け、移調奏ができるようにする。	
専門科目	鍵盤ソルフェージュ③	鍵盤ソルフェージュ①②で学修した内容を基に、弾き歌いや伴奏付けなどを鍵盤上で即興的に演奏できるようにする。主要3和音を中心に、借用和音(副属7の和音)を学修する。コードネームと和音記号の理解に努め、弾き歌いは両手による伴奏付けを中心とし、伴奏付けはメロディーに密集位置で伴奏付けを行う。移調奏なども年間を通じて積極的にを行い、グレード(3級程度)試験の対策になるような弾き歌い、伴奏付け、移調奏ができるようにする。	
専門科目	総合ソルフェージュ①	1970年代からフランスにおいて行われたソルフェージュ改革の成果として誕生した「フォルマシオン・ミュージカル」の精神に基づき、バロックから現代まで、異なる様式や技法、音響感覚をもつ作曲家の名曲を題材とし、音楽的背景、楽曲分析、音楽理論、表現法を含めた広範囲な領域を学修する。具体的には(1)聴き取り、(2)音読、(3)視唱、(4)分析・理論、(5)音楽史的背景などを中心に行い、総合的に音楽を理解し、音楽家として豊かな感性を育む。	
専門科目	総合ソルフェージュ②	総合ソルフェージュ①で学修した内容を基に、更に高いレベルでのソルフェージュ力を養う。バロックから現代までの名曲から抜粋した旋律聴音、非和声音を含む和音聴音、いくつかの作曲技法、リズム打ち、ハ音記号の読譜と記譜、形式、和声、フレーズ等の簡単な分析、終止形の確認、移調楽器やジャンル等、多岐にわたる発展的な内容を修得する。	
専門科目	総合ソルフェージュ③	総合ソルフェージュ①②で学修した内容を基に、国際的にも活躍できる音楽家として必要な、感性豊かで柔軟な音感と幅広い音楽知識の修得を目指す。中世から現代までの楽曲を扱い、旋律聴音、和音聴音、複声聴音、オーケストラ聴音等、やや複雑な聴音に挑む。またリズム打ち、ハ音記号の読譜と記譜を行い、数字付き低音、楽曲の形式、音楽史を学び、スコアの多様な形に触れる。	
専門科目	ハーモニー演習①	西洋の調性音楽において和声進行は一定の秩序に基づいており、作品を構成する根本原理となっている。その意味で、歴史を踏まえた音楽理論についての認識は、音楽を正しく理解し演奏するために欠かせないものと言えよう。本科目では、最も一般的な方法である4声体バス課題の演習を通して機能と和声の理論を学ぶ。ここで主に扱うのは、三和音から属七の和音までである。同時に教員採用試験や講師採用試験など、外部の音楽試験に備えるべく、コードネーム及びコード進行との関係についても知識を深める。	
専門科目	ハーモニー演習②	西洋の調性音楽において和声進行は一定の秩序に基づいており、作品を構成する根本原理となっている。その意味で、歴史を踏まえた音楽理論についての認識は、音楽を正しく理解し演奏するために欠かせないものと言えよう。本科目では、ハーモニー演習①の続きとして、4声体バス課題の演習を通して機能と和声の理論を学ぶ。ここで主に扱うのは、七の和音、九の和音、借用和音についてである。同時に教員採用試験や講師採用試験など、外部の音楽試験に備えるべく、コードネーム及びコード進行との関係についても知識を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ハーモニー演習③	西洋の調性音楽において和声進行は一定の秩序に基づいており、作品を構成する根本原理となっている。その意味で、歴史を踏まえた音楽理論についての認識は、音楽を正しく理解し演奏するために欠かせないものと言えよう。本科目では、ハーモニー演習②の続きとして、4声体バス課題の演習を通して機能と和声の理論を学ぶ。ここで主に扱うのは、借用和音や転調についてであり、更にソプラノ課題の演習も含む。同時に教員採用試験や講師採用試験など、外部の音楽試験に備えるべく、コードネーム及びコード進行との関係についても知識を深める。	
専門科目	音楽基礎演習	楽典の正確な知識を持つことは、あらゆる音楽を専門的に学ぶための基盤となる。本科目では、音部記号、音名、音符と休符、拍子とリズム、音程、楽語、音階、和音、調判定、移調など、トピックごとに演習を繰り返しながら、音楽のルールと理論を身につけていく。またクラシック音楽だけでなく、ポピュラー音楽の理論からも知識を深め、ジャンルにとらわれず幅広い楽曲に触れる。	
専門科目	西洋音楽史 I	西洋芸術音楽の歴史について学ぶ。本科目の最も重要な目的は、西洋音楽史全体の大まかな、そして本質的な流れを捉えることである。また、各時代の特徴と、その時代を代表する基本的な作曲家や作品について、目(楽譜)と耳(音)と頭(知識)によって理解することを目指す。本科目では、特に17～19世紀(バロック、古典派、ロマン派)の音楽を中心に、音楽に関わる者にとって必要な基礎知識を学ぶ。また授業外学修を通じて主体的に学ぶことを身につける。	
専門科目	西洋音楽史 II	本科目では、特に16世紀以前(中世・ルネサンス)の音楽と、20世紀以降(近・現代)の音楽について理解し、音楽史に対する幅広い教養を深めることを目的とする。これらの時代の音楽は、コンクールや演奏会のレパートリー、学校の鑑賞教材に含まれており、その歴史的背景や時代様式を理解することは、教育者・演奏者を目指すためにも必要となる。	
専門科目	楽式論 I	音楽の形式を学ぶことは、音楽を構造的に理解するうえで非常に重要である。本科目では、より深く音楽を鑑賞したり演奏したり創作したりするために、旋律と和声の関係、歴史的な流れや作曲家の個性にも目を向けながら、音楽形式に関する基礎的な知識を身につける。ここで主に扱うのは、一部形式、二部形式、三部形式、ロンド形式、ソナタ形式、フーガ等である。また理論的なパターンだけでなく、それが実際の楽曲においてどのように用いられているかも見ていく。	
専門科目	楽式論 II	音楽の形式を学ぶことは、音楽を構造的に理解するうえで非常に重要である。本科目では、音楽形式に関する基礎的な知識を応用して、実際の楽曲を分析し、楽曲分析を行うための基礎的な視点を養うことを目標とする。ここで主に扱うのは、変奏曲、フーガ、ソナタであり、作曲家としてはバッハ、ベートーヴェン等の音楽史の中心に位置するものである。分析に際しては、ひとつの楽章だけでなく、全曲を通しての構造にも目を配る。またバロック以前やロマン派以降の作品についても触れる。	
専門科目	ポリフォニー演習	西洋音楽の伝統的な理論として和声(ハーモニー)とともに重要な技法の一つが、多声(ポリフォニー)音楽のための対位法である。本科目では、与えられた定旋律(カントゥス・フィルムス)をもとに対旋律を作る訓練を中心として、その旋律の独立性や変化に注意を払いながら、音楽を線と線の水平の次元でとらえることができる能力を養う。ここで主に扱うのは、2声の厳格対位法についてである。また対位法的書法で作曲された楽曲の研究や鑑賞も取り入れる。	
専門科目	管弦楽概論	管弦楽(オーケストラ)とは、ヨーロッパの芸術音楽において、弦・管・打楽器による最も大規模で、最も完成された合奏形態のことであり、これまで数多くの魅力的な楽曲が生まれ出されてきた。本科目では、それら管弦楽曲がどのような楽器で構成されているか、それぞれの楽器の記譜法を学び、各楽器の特色や管弦楽の仕組みについて理解する。またチャイコフスキー、ムソルグスキー、ラヴェルなどの楽曲を用いて、ピアノと管弦楽の両方のスコアの分析を行いながら、それぞれにアレンジができる知識を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	音楽美学	私達はなぜ音楽を欲するのか。なぜ音楽を聴いて心を動かされるのか。音楽の表現する意味とは何か。「音響」と「音楽」の違いは何か。音の「美」とは何か。こうした音楽を巡るあらゆる問いを自らに問いかけ、考えていくのが音楽美学という学問である。音楽史の中で繰り返し問われてきたこれらの問題に、各時代の音楽家達はどのように答えたのか。音楽史だけでなく、ヨーロッパ文化史・精神史などの知識も参照しながら、古代ギリシャから現代の日本まで、古今の多様な音楽思想とそれが実際の音楽作品にどのように表われているかを学ぶ。	
専門科目	オペラの歴史と作品	オペラという芸術の全体像を知り、その鑑賞、再現、創造にかかわるための基礎知識を修得する。イタリアにおけるその誕生から今日までの変化と発展をたどりつつ、さまざまな時代や民族がどのようなオペラを生み出してきたかを俯瞰する。また歴史的に重要な作品、現代に残るスタンダードな作品など、さまざまな意味で重要な作品は、可能なかぎり映像や楽譜等を鑑賞しながら、その歴史的あるいは現代的価値について学んでいく。オペラは20世紀後半から再現の時代、演出の時代に入っているため、歌唱史や演奏史についても触れる。	
専門科目	鍵盤音楽の歴史と作品	オルガン、チェンバロ、フォルテピアノ、ピアノなどは同じ鍵盤楽器でも、時代や国によって構造や響きが異なり、それぞれの楽器には独自の伝統と膨大なレパートリーが形成されている。本科目では、鍵盤音楽の全体像を知り、その鑑賞、演奏、創作にかかわるための基礎知識を修得する。それぞれの楽器を概観し、時代や国ごとの様子を歴史的背景も含めて系統的に学ぶと同時に、特に現在、スタンダードなレパートリーとなっている楽曲については、録音や楽譜資料等から詳しく考察し、その歴史的・現代的価値について理解を深める。	
専門科目	器楽の歴史と作品	世界の音楽のなかでもヨーロッパの芸術音楽は、「器楽」が「声楽」と明確に区別され、独自の伝統と膨大なレパートリーを形成していることに特徴がある。本科目では、「器楽」の全体像を知り、その鑑賞、演奏、創作にかかわるための基礎知識を作る。ここではソナタ、コンチェルト、シンフォニーといった、古今の様々なジャンルの成立及び発展の歴史について、系統的に学ぶと同時に、特に現在、スタンダードなレパートリーとなっている楽曲については、録音や楽譜資料等から詳しく考察し、その歴史的・現代的価値について理解を深める。	
専門科目	日本音楽概論Ⅰ	日本では古来より、雅楽、声明、能楽といった様々な音楽が伝えられてきた。個々の音楽はそれぞれ固有の歴史や音楽様式を持つため、用いられる楽器や楽譜は独自であり、歌唱法もみな異なる。本科目では、雅楽、能楽、歌舞伎をそれぞれ概観し、例えば三味線の音楽を聴いて長唄なのか、義太夫節なのかといった、おおよその違いを判別できるよう、様式感を養っていく。また同時に、日本音楽全体に共通の特徴について考察しながら、教員採用試験にも必要となる基礎知識を身につける。	
専門科目	日本音楽概論Ⅱ	日本では古来より、雅楽、声明、能楽といった様々な音楽が伝えられてきた。個々の音楽はそれぞれ固有の歴史や音楽様式を持つため、用いられる楽器や楽譜は独自であり、歌唱法もみな異なる。本科目では、声明、琵琶楽、尺八楽、箏曲、地歌、文楽をそれぞれ概観するとともに、明治以降に蓄積されてきた日本音楽の理論についても、詳細に扱う。また主要曲の唱歌(楽器のメロディを口で唱えるうた)を身につけながら、日本音楽全体に共通の特徴について考察する。	
専門科目	民族音楽概論Ⅰ	世界では多様な音楽が、それぞれの文化的・社会的背景のなかで育まれてきた。本科目では、それら世界の民族の音楽について、音楽の形態、音楽の変容、音楽が社会に及ぼす影響、音楽と宗教の関係、音楽と人間とのかわり、更にはグローバル化が進む現代社会において「民族音楽」が抱える諸問題など、様々な視点から概観し、民族音楽学の基礎を修得することを目標とする。毎回音源や映像を用いて授業を進めるとともに、実物の民族楽器に触れる機会を設けることで、異民族の音楽文化を身近なものとして体験する。	
専門科目	民族音楽概論Ⅱ	世界では多様な音楽が、それぞれの文化的・社会的背景のなかで育まれてきた。本科目では、これまで慣れ親しんできた西洋音楽世界とは異なった異文化世界の音楽を、社会的・文化的脈絡のなかで捉えて考察することに加えて、音楽と心の関係、映像との関連や舞台構成法、「音」の共有方法、伝統音楽の保存などについて理解していく。グローバル化する世界のなかで変容する音楽や音楽が果たす役割を考え、動態としての音楽文化を知ることが重要である。部分的にワークショップも行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	音楽情報論	本科目は第一に音楽作品がカバー(模倣、引用、パロディ、コラージュ、リミックス)されることによって、音楽の意味(情報)が変容することに注目して、音楽の「情報を運ぶメディア」としての面を検討する。第二に現代がネット・メディアの時代であることを前提に、私たちが聴き、見る(あるいは見せる)音楽を「情報として運ぶメディア」について検討する。これによりメディアによって伝達される音楽情報の内容と意図を正しく理解し、音楽情報を発信するためのリテラシーとノウハウを修得する。	
専門科目	ミュージックビジネスと社会	楽譜出版やレコードビジネスが隆盛を極めた20世紀には、レコードやCDを通じてポピュラー音楽が広く大衆に支持されてきた。しかし次第に携帯電話の着うたや音楽のダウンロード配信、更には音楽の聴き放題サブスクリプションなどのサービスが人気を集め、ミュージックビジネスは大きな変貌を遂げている。本科目は、それらミュージックビジネスの変遷とそれらを取り巻く社会の現状を学び、更には将来のビジョンを展望する。	
専門科目	ライブビジネスと社会	近年、ミュージックビジネスの様相が大きく変容している。とりわけ、ライブビジネスが、音楽事業全分野の中で著しい成長を遂げており、この情勢の変化に伴い、地域コミュニティなど社会のニーズにいかに対応できるかに主眼を置いた内容を展開する。ライブビジネスに関わるさまざまなテーマをとりあげ、学生は、講義を一方的に聞くだけでなく、各テーマについての意見を交換し、共に考え、そして見解を発表することによって新たなコミュニケーション能力の涵養を目指す。	
専門科目	演劇の歴史と作品	総合芸術である演劇の西洋における誕生から現在に至るまでの歴史を概観する。それぞれの時代の精神がいかん演劇という芸術に反映されているか、演劇がその社会においてどのような役割を果たしてきたかを考え、西洋演劇の歴史について基礎的な知識を修得する。教材として、多くの映像資料と台本を用いる他、授業外で鑑賞可能な演目についても適宜紹介する。	
専門科目	アートマネジメント概論Ⅰ	舞台芸術運営にたずさわる人間として必要な基礎的な知識、技能を修得することを目標としている。音楽を中心に芸術全般と現代における芸術が置かれている社会的状況、芸術と社会のつながりについての基礎的知識を修得し、状況の理解を深める。舞台公演の運営については、ワークショップ形式で必要な基礎的知識、コミュニケーション能力を修得する。	
専門科目	アートマネジメント概論Ⅱ	アートマネジメント概論Ⅰで学修した内容を基に、アートマネジメントの歴史と現状について概観し、基礎的な知識を修得する。音楽を中心とする舞台芸術のマネジメントに焦点をあてながら、芸術と社会との関係性や、芸術文化への支援等について理解を深め、今後の専門分野の学修における基礎となる。授業内ディスカッションやグループワークを通じて芸術文化に関わる問題意識をもつとともに、現代社会におけるアートマネジメントの役割について考察する。	
専門科目	経営学Ⅰ	経営学の基礎的な知識を身につけるとともに、実社会に即したしくみとその応用について理解することを目的とする。経営学の歴史、基本的な理論や用語(経営戦略・マーケティング等)について学び、一般教養、社会常識としての「経営学」を身につける。また、実際に存在する企業や組織を取り上げて、経営学の理論が実社会でどのように応用されているかを探り、課題解決のための能力(思考とツール)を獲得することを目指す。芸術文化組織の特徴と経営についても触れる。	
専門科目	経営学Ⅱ	実在する組織のマネジメント事例を基に、経営に関する知識と理解(マーケティング論、戦略論など)を深めることを目的とする。グループでのケーススタディを通じて、チームワーク、コミュニケーション力を養うとともに、まとめる力、プレゼンテーション力を向上させる。リサーチに基づく分析、ならびに問題解決の手法を学び、文章にまとめる力を養う。毎回授業の最初に時事的なトピックについてディスカッションの時間を設ける。	
専門科目	芸術関係法規	日々ネットワークに接している私たちには、著作物の適正な利用についての正しい理解が求められるようになった。本科目では、主に音楽著作者や実演家等の権利を中心に著作権法を学び、かつそれらに付随する商標や特許などの知的財産権全般に関する基礎知識を実践的なケーススタディを通じて理解する。またコンサートやCD制作などには欠かせない音楽著作権の処理ノウハウも修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	芸術文化と社会Ⅱ	現在の国内外における芸術文化のマネジメントの現状を理解することを目標とし、社会でのマネジメント実践の有り方を芸術団体運営、ホール運営、助成団体、行政等、様々な組織における具体的な事例とともに考察する。本科目では、講師への積極的な質問や討議参加を通じて、自らの大学での学修が社会での実践にどのようにつながるのかを知る。社会における課題を認識できるのみならず、自らのキャリア形成への展望につなげられるようになる。	
専門科目	芸術文化環境論	現代における芸術文化を取り巻く環境は多種多様な展開を見せている。そのなかでも大きな位置をしめている、舞台芸術を中心に公演をおこなう芸術文化施設を取り上げ、施設とその運営に関する基礎的な知識を修得する。前期ではまず現在の芸術文化施設のおかれている現状を把握し、施設構成とその成り立ち、技術の概要を学修し、後期はそれら舞台芸術のための施設が生まれ発達してきた歴史的な流れを、舞台芸術の変化との関連の中で理解し、これからの芸術文化環境のあり方について考える。	
専門科目	文化政策論Ⅰ	国や自治体の文化政策は、音楽を学ぶ者の将来の活動に深く関係し、その現状や課題を知ることは大変重要である。本科目では、(1)国(=文化庁)の文化政策の基本的な考え方、(2)文化政策の法制・組織・予算、(3)芸術文化政策、文化財政策、国際文化交流政策の概要、(4)文化芸術活動への支援の構造と課題、(5)劇場、音楽堂等の設置・管理・運営の実態と課題、(6)文化政策をめぐる今後の課題、について考察する。	
専門科目	文化政策論Ⅱ	舞台芸術をとりまく政策に関する適切な基礎知識、問題意識を持つことは、様々な芸術文化の制作業務に携わる上で極めて重要である。海外の歌劇場や音楽祭の運営等を学ぶことを通じて、具体的に諸外国の文化政策に係る基礎的な知識を修得することを目的とする。最終的には講義を踏まえ、学生個人が自らの周辺で行われている芸術文化政策の実例を取り上げて、実際にその現状と課題をまとめられるようになる。	
専門科目	簿記・会計入門	企業会計の考え方を概観し、会計と密接な関係にある簿記のしくみ(記録・計算の仕方)を中心に講義を進める。簿記を十分に理解することによって、企業で実際に行われている会計をより詳細に把握できるようになる。また、簿記を通じ、企業が会計報告に利用するために作成する財務諸表(貸借対照表・損益計算書)から財政状態及び経営成績を読み取れる力をつける。個人商店や企業における帳簿・伝票の記入を行うことができ、関連の資格取得のための基本的な学力・技術を修得することを目的とする。	
専門科目	舞台芸術概論	アートマネジメント、舞台技術、音楽実技を学ぶ者にとって、世界の舞台芸術を通して、芸術における創造の本質を理解することは大変重要である。本科目では、ジャンルを超えた幅広い作品知識と国際的視野に基づいた芸術的価値観、時代感覚、感性、美的センスを養う。そのため、オペラ、バレエ、ミュージカル、歌舞伎などの各ジャンルはもとより、世界の歌劇場とそこで上演されている舞台芸術の実態を、映像を駆使して立体的に捉え、広範な音楽舞台芸術に関する基礎知識を学修する。	
専門科目	ステージマネージャー演習①	西洋音楽の中核ともいべきオーケストラが成立した歴史的基礎・背景や楽器の歴史を学修するとともに、実践的なオーケストラの配置について学ぶ。舞台ではそれに伴う、ひな壇、譜面台、椅子などのセッティング、コンサートでの舞台進行、配置転換などを修得する。また、演奏者とのコミュニケーションをなど、円滑なステージマネジメントに必要な能力を身につけ、舞台においての裏方の役割と必要性を理解する。	
専門科目	ステージマネージャー演習②	ステージマネージャー演習①で修得した知識と経験の上に、更に積極的に取り組む者を対象とする科目である。舞台人としての技術の向上のみならず、詳細な音楽史を踏まえた楽曲の研究を行うことで、形だけではなく、音楽への深い理解を伴ったステージマネージャーとしてのスキルを磨くことを目的とする。また、さらなるコミュニケーション能力の向上が求められるようになることで、社会人としての人格形成も目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ステージマネージャー演習③	ステージマネージャー演習①②で修得した知識と経験の上で、更に高度な学修に取り組む学生を対象とする科目である。本科目では、楽曲の研究に加えて、ステージマネージャー演習①を履修する学生のフォローを行うことで、より高度なステージマネジメント技術を修得する。プロフェッショナルの世界に接する機会を多く設けることで、プロの現場で通用するスキルの獲得を目指す。	
専門科目	舞台機構調整演習	国家検定である舞台機構調整(音響機構調整作業)技能士検定試験は、筆記試験と実技試験から成り、実技試験は要素試験(音を聴いて問題に答える)と、作業試験(機材のセッティング、オペレートなどを行う)に分かれている。音響の基礎が凝縮されており、また幅広い知識と経験が必要とされる。本科目は音響技術の基礎はもちろん、舞台用語や舞台各部の名称、舞台機構、舞台照明、舞台に関する法規などを修得して、検定合格を目指す。	
専門科目	舞台スタッフ論①	舞台スタッフの入門編として、公演に携わるすべてのスタッフが知るべき、劇場に関する基礎知識を学修する。具体的には、劇場や舞台美術などの歴史、劇場・舞台機構の独特な用語、舞台監督、舞台照明、舞台音響、舞台衣裳、舞台美術など各専門分野の基礎知識、舞台上で安全に作業を行うための安全確保について学ぶ。座学以外に学内の舞台関連設備の見学を行い、使用目的によって設備が異なることを理解し、多くの公演ジャンルに対応できるスタッフを育成する。	
専門科目	舞台スタッフ論②	舞台スタッフ論①の既修者を対象に、舞台監督、舞台照明、舞台音響を中心として、各分野のより専門性の高い知識や用語等を修得する。舞台監督に関しては尺貫法や舞台道具、工具の種類などを学修する。舞台音響に関してはマイクやスピーカーの構造、種類などを学修する。舞台照明に関しては灯体、調光器の構造、種類などを学修する。このほか、舞台上で使用する電気基礎知識や実践的な安全教育を行い、公演で安全に作業ができるための知識を身につける。	
専門科目	舞台制作概論	企画から、予算管理、チラシやプログラムの制作、プレスリリースなどの広報面、リハーサルのスケジュール調整まで、舞台をつくり上げるにあたって必要とされる、制作現場でのさまざまな作業についての知識を身につけ、現場に出る前に知っておくべき舞台づくりの基礎を学修する。各回に課題を設け、学生が各自調べた内容を基に議論を展開することにより、与えられたものとしてではなく自ら探究、発見したものとして知識を吸収、蓄積していく。	
専門科目	環境音楽論 I	「環境音楽」の定義、とらえ方を多面的に理解する。われわれの日常生活において耳にするさまざまな環境音を音響学的、心理学的にとらえていく。人間が音(音楽)を聴いて、感じとる過程を実践的に学ぶ。まず、音に関する基本的事項を確認し、環境音楽の基礎を理解する。それを基礎として、人間の聴覚の特性を生理学的視点・心理学的視点から学修し、バックグラウンドミュージックやテレビ、映画音楽の効果等を学ぶ。	
専門科目	環境音楽論 II	「環境音楽」の定義、とらえ方を多面的に理解する。われわれの日常生活において耳にするさまざまな環境音を音響学的、心理学的にとらえていく。人間が音(音楽)を聴いて、感じとる過程を実践的に学ぶ。環境音楽の変遷を、ルイーゼ・ロッソの理論、エリック・サティの作品、ジョン・ケージの作品、ブライアン・イーノの作品、マリー・シェーファーのサウンドスケープ論等から学ぶ。更に人々の暮らしと音楽の関わりを歴史的背景、近現代の様相から探る。	
専門科目	音楽心理学	楽曲の認知に関わる「曲想」と「楽曲構造」の関係について考える。音楽に関連する心理学、楽曲の聴取と生理心理学、脳科学等の文献講読を行い、その研究成果から、音楽の聴取や演奏による心理的效果と楽曲そのものが果たす役割について考える。人間の聴器とその特性、音楽聴取と聴覚特性、楽器の音響特性とその聴取、楽曲の認知と音楽的知識、音楽聴取に関する心理学的測定法等を学ぶ。	
専門科目	音楽療法概説	対象者に応じて意図的・計画的に音楽を活用する音楽療法について学び、音楽の機能と作用について考える。音楽療法の対象の特性に応じた音楽の使い方を体験的に理解し、音楽の力、音楽療法士の役割など音楽療法の基本と全体を概観する。音楽療法の定義、子どもの領域・精神科医領域・高齢者領域・緩和ケア領域の音楽療法のアプローチ、聴く音楽療法、音楽療法の歴史、音楽療法の実践等について修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	社会福祉概論	社会福祉の歴史や社会福祉制度の枠組み、社会福祉の原理・理念・思想、社会保障制度等を学び、社会福祉の全体像を把握する。ライフサイクルの視点から生活上の問題を捉え、社会的な解決方法を探る。また、社会問題や世の中の出来事などを題材に、社会福祉の役割や仕組みについて理解を深め、現在の社会福祉の制度やサービスの全体像を把握する。更に社会福祉の現状と課題を踏まえて、これからの社会福祉のあり方を考える。	
専門科目	介護概論	本科目では、介護とは何か、その概念や基本となる知識を学ぶ。また、日本における介護の変遷、介護保険の成り立ちを学び、現在の制度やサービスの全体像を把握する。介護現場での関連職種との連携をもとに、介護の専門性について学修する。また、超高齢社会における介護問題等最新の情報を取り上げ、介護を身近な問題としてとらえ、介護についての理解を深める。更に、介護と倫理についても考えながら、これからの介護の在り方を探る。	
専門科目	障がい児教育概論	障がいのある子どもたちに対する教育の歴史的变化と現状について解説し、様々な障がいへの理解と支援について学ぶ。発達支援・教育支援の現場で利用されているアセスメントツールや「個別支援計画」「個別指導計画」も紹介し、特別支援教育が目指す「一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援」とは何かを学修する。また、障害概念の変化、インクルーシブ教育、知的障害、自閉症スペクトラム、発達障害、身体障害、視覚障害、聴覚障害、発達の診断と評価等を学ぶ。	
専門科目	医学概論	医学の歴史を知り、その目的と進歩発展について理解する。医療を实践する際の基本的姿勢としての医療倫理について学び、疾病の起こり方と治療方法についての考え方を理解する。医学・医療の基礎である人体の臓器とその仕組みについて解剖・生理を学ぶ。健康と疾病、病気の治療法と予防、医療の社会的システム、医療倫理の他、運動器・脳・神経・感覚器・呼吸器・循環器・血液・消化器・腎・泌尿器・内分泌等の解剖・生理を学ぶ。	
専門科目	発達心理学	本科目では、人間の受胎から死に至るまで、生涯を通しての変化・成長を連続的にとらえる。加齢による人の一生涯の変化過程、各発達段階での精神的、社会的、身体的な発達とそのための条件、また発達を阻害する要因なども学修内容に含まれる。人間発達の特徴及び発達と遺伝・環境との関係、各発達領域の成長と変化について講義する。知覚、記憶、認知、言語、社会性、運動機能、思春期の心の発達を学ぶ。	
専門科目	日本古典芸能Ⅰ	日本の古典芸能(日本舞踊)についての基礎的な知識を身につけながら、浴衣や帯の着付け、お辞儀や立ち座りなど基本的な所作、扇子の扱いなどを学ぶ。男女の違いを含め、役柄に応じた身体表現の違いを踊り分けられるようになることを目標とする。	
専門科目	日本古典芸能Ⅱ	600年の歴史を有する日本の伝統的な古典芸能の表現法や様態は、世界の舞台芸術に比しても上質で高く評価されており、古典芸能を学ぶことは表現者として重要である。本科目では、日本舞踊の中でも現代曲を取り上げ、今日的でアクティブな所作を学ぶ。日本舞踊の基本動作、呼吸と動きの関係の学修から始め、練習曲を使用した実技から作品創りへ展開する。	
専門科目	日本古典芸能Ⅲ	本科目では、日本最古の演劇である狂言の演出法、所作、発声を学ぶ。演技の幅を広げ、豊かな表現を身につけることを目標とする。基本的な所作の修得により、西洋人にはない日本人の特徴を取り入れることができる。狂言の基本動作、音読、暗記、実技指導、実演と進めて狂言の全体像を理解し、成果発表へ展開する。	
専門科目	ミュージカルの歴史と作品	19世紀後半から20世紀までのミュージカルの歴史と作品を学修する。オペレッタやレビューなどのミュージカルの前形態から、どのような要素を取り込んでミュージカルというジャンルが確立し、表現の可能性を広げてきたか、その歴史を理解する。また代表的なミュージカル作品(「ショーボート」「オクラホマ」「アニーよ銃を取れ」「キャバレー」「ハロードーリー」等)の内容と特徴について、音楽も含めた知識を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	舞踊の歴史と作品	舞踊は現在、世界的に大きな注目を集めており、演劇やオペラなどの舞台芸術でも広く用いられている。この講義では、バレエの発生からモダン、コンテンポラリー、ストリートダンスなど現代までの舞踊の歴史を学んでいく。それと同時に、様々な時代の主要な作品の研究を行うことで、舞台芸術に関係する様々な分野で必要となる知識と教養を身につける。また鑑賞する際にも舞踊作品を深く理解する力、ひいては芸術全般に対する理解力を高めることを目指す。	
専門科目	看護学演習	本科目は、レッスン中に起こりうる捻挫や腰痛、筋痙攣などの外傷、過呼吸や貧血などの内科系トラブルなど、バレエをはじめとするダンス指導者として必要な看護の基礎知識を学び、基本的な応急処置法を修得することを目標とする。理論と実践の両面からのアプローチによって授業を展開していき、指導者に必要な知識と解剖生理学に基づくメカニズムを理解し傷病者への対応ができるようになることを目指す。	
専門科目	日本伝統音楽演習Ⅰ	和楽器の演奏法を学び、実技指導をするための基礎を修得する。本科目では箏と三味線を中心に学修する。また、学内外で3回にわたり行われる伝統音楽(雅楽、能楽、歌舞伎など)の鑑賞を通じて、我が国の伝統音楽・文化の特質等を理解する。	共同
専門科目	日本伝統音楽演習Ⅱ	和楽器の演奏法を学び、実技指導をするための基礎を修得する。本科目では尺八と笛を中心に学修する。また、学内外で3回にわたり行われる伝統音楽(雅楽、能楽、歌舞伎など)の鑑賞を通じて、我が国の伝統音楽・文化の特質等を理解する。	共同
専門科目	フィールドインターンシップ①	音楽系企業や芸術文化組織等との連携のもと、音楽に関わるプロフェッショナルな組織で就業体験を行い、仕事の実際について知識を深め、今後のキャリアについて視野を広げる。事前オリエンテーションで社会性やマナーを身につけ、インターンシップ期間中は記録ノートを毎日記入し、終了後は報告書を提出する。終了後の報告レポート作成及び報告会での発表等を通じて、文章力やプレゼンテーション能力を養い、実践的な力をつけることを目指す。	
専門科目	フィールドインターンシップ②	フィールドインターンシップ①を修得した者を対象とする。音楽系企業や芸術文化組織等との連携のもと、本人の将来のビジョンに沿った内容の就業体験を行い、専門知識を深める。事前に受け入れ先について調査研究を行い、インターンシップ期間中は記録ノートを毎日記入し、終了後は報告書を担当教員に提出する。終了後の報告レポート作成及び報告会での発表等を通じて、文章力やプレゼンテーション能力を養い、将来のキャリアに活かすことを目的とする。	

学校法人東成学園 設置認可等に関する組織の移行表

平成28年度

	入学定員	編入学定員	収容定員
昭和音楽大学			
音楽学部			
作曲学科	25	—	100
器楽学科	100	3年次 20	440
声楽学科	50	3年次 15	230
音楽芸術運営学科	100	3年次 5	410
計	275	40	1,180
昭和音楽大学大学院			
音楽研究科			
音楽芸術表現専攻(M)	18	—	36
音楽芸術運営専攻(M)	6	—	12
音楽芸術専攻(D)	4	—	12
計	28	—	60
昭和音楽大学短期大学部			
音楽科	100	—	200
計	100	—	200

平成29年度

	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
昭和音楽大学				
音楽学部				
作曲学科	0	—	0	平成29年4月学生募集停止
器楽学科	0	0	0	平成29年4月学生募集停止
声楽学科	0	0	0	平成29年4月学生募集停止
音楽芸術表現学科	175	3年次 35	770	学部の学科の設置(届出)
音楽芸術運営学科	100	3年次 5	410	
計	275	40	1,180	
昭和音楽大学大学院				
音楽研究科				
音楽芸術表現専攻(M)	18	—	36	
音楽芸術運営専攻(M)	6	—	12	
音楽芸術専攻(D)	4	—	12	
計	28	—	60	
昭和音楽大学短期大学部				
音楽科	100	—	200	
計	100	—	200	

→